

平成 25 年度

富良野市観光経済調査報告書

平成 2 6 年 3 月

富 良 野 市

目 次

1 調査の目的と方法概要.....	1
1-1 調査目的.....	1
1-2 効果計測の方法.....	1
2 観光消費実態調査.....	3
2-1 実態調査の概要.....	3
2-2 実態調査の結果.....	4
3 観光経済事業所調査.....	42
3-1 事業所調査の方法と回収結果.....	42
3-2 事業所調査の結果.....	44
4 観光経済波及効果計測.....	60
4-1 効果計測の経過.....	60
4-2 効果計測の結果.....	67
5 富良野観光経済振興の課題と方向.....	73
5-1 観光客消費の振興.....	73
5-2 観光関連産業振興.....	76
5-3 市内経済波及振興.....	77
5-4 富良野観光経済振興の方向性.....	79

1 調査の目的と方法概要

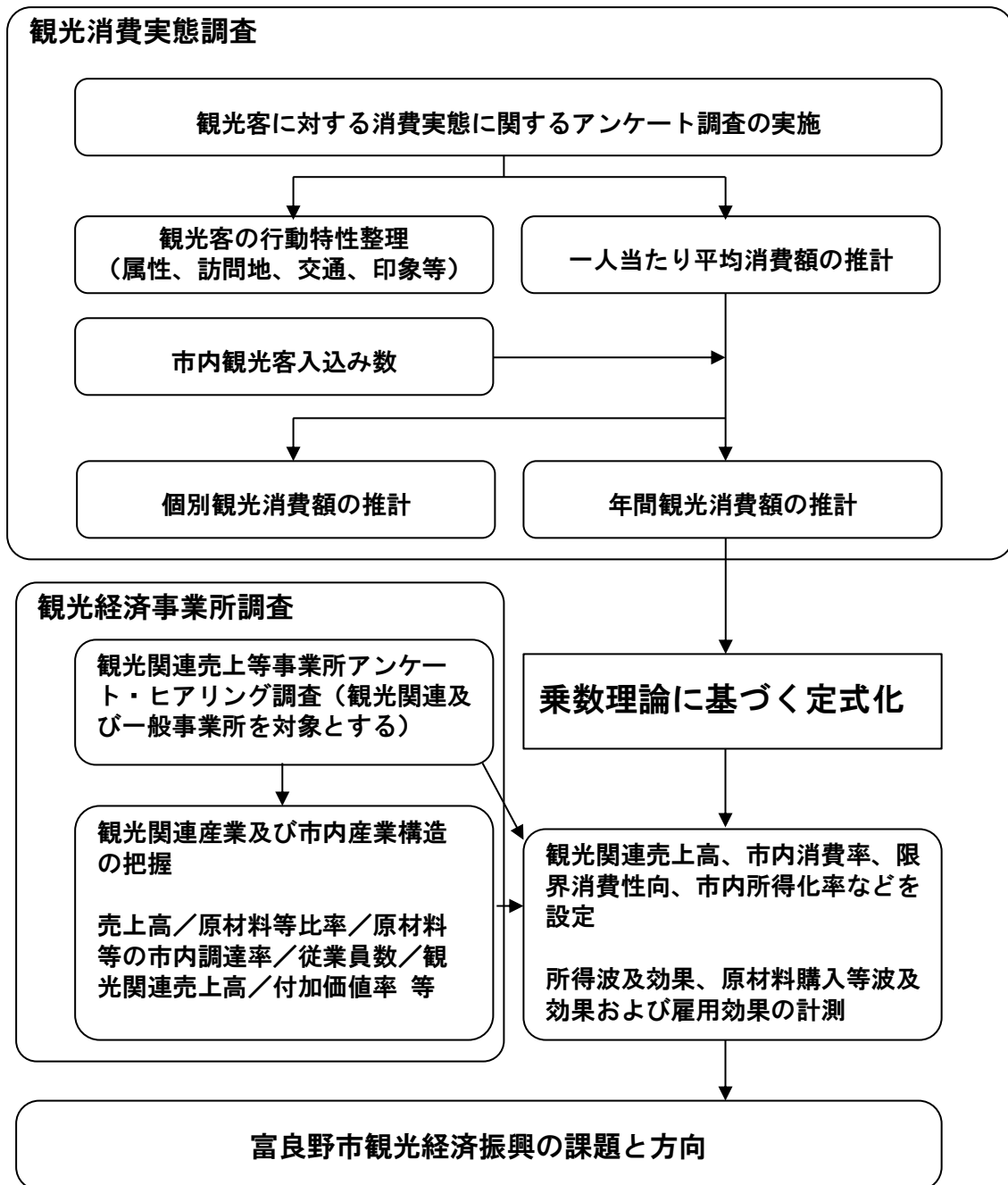
1-1 調査目的

- ・観光客を対象とした観光消費実態調査（夏・冬）および市内の観光事業者を対象とした実態調査を実施し、過去 2 回（H12 年・18 年）実施した調査結果との経年変化や基礎データを得ることにより、現状や今後の動向を把握し、市民・事業者の両者が抱える課題を抽出し、およそ 10 年後を見据えた取り組みの方向性について検討を行う基礎資料に資することを目的とする。

1-2 効果計測の方法

- ・経済効果の計測は、①富良野市に訪れた観光客を対象とした「観光消費実態調査」の結果をもとにした年間観光消費額の推計、②富良野市内の事業者を対象とした「観光経済事業所調査」の結果をもとにした「観光関連産業及び市内産業構造」の把握を踏まえて、乗数理論に基づき実施した。

図表 1－1 調査方法の全体フロー図



2 観光消費実態調査

2-1 実態調査の概要

(1) アンケート調査の実施方法

- ・アンケート調査の実施場所、および、実施期間は以下のとおり。

図表 2-1-1 アンケート調査実施地点

時期	実施場所
夏期	ワイン工場／くるる号バス／石の家／果汁工場／拾って来た家／フラノマルシェ／広域インフォメーションセンター
冬期	北の峰ターミナル／チーズ工房／ワイン工場／フラノマルシェ

図表 2-2-2 実施期間別アンケート回収票数

時期	実施時期	回収票数
夏期	平成 25 年 7 月～10 月	326 票
冬期	平成 25 年 11 月～平成 26 年 3 月	198 票
合計		524 票

(2) アンケート調査の内容

- ・アンケートの調査項目は以下のとおり（アンケート票は資料編参照）。

図表 2-2-3 アンケート調査項目

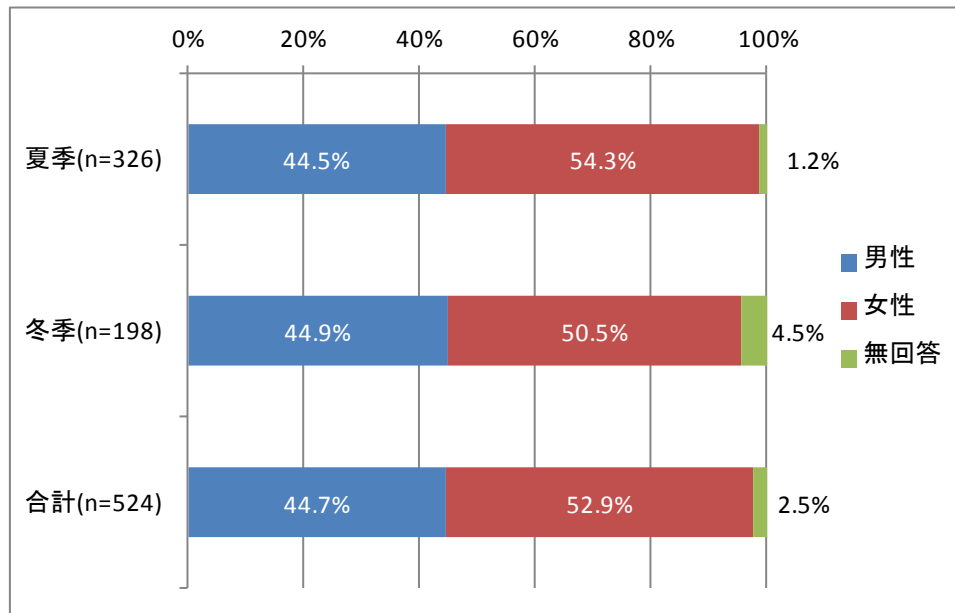
区分	内容
回答者の属性	住まい／性別／年齢／旅行形態／富良野市内観光の回数／市外利用交通機関
目的・情報源・訪問地	旅行の主たる目的／富良野の観光に係る情報源／富良野市内での訪問地
富良野市内での観光消費額	・パック・団体旅行の場合の支払い額（パック・団体旅行対象） ・一人分の宿泊費（パック・団体旅行以外対象） ・交通費（パック・団体旅行以外対象） ・物品別の購入金額 ・飲食・サービスに係る購入金額
移住・再訪意識	移住意識／再訪意識とその時期／等
富良野観光の印象	満足度／満足・不満足の内容／友人等への紹介

2-2 実態調査の結果

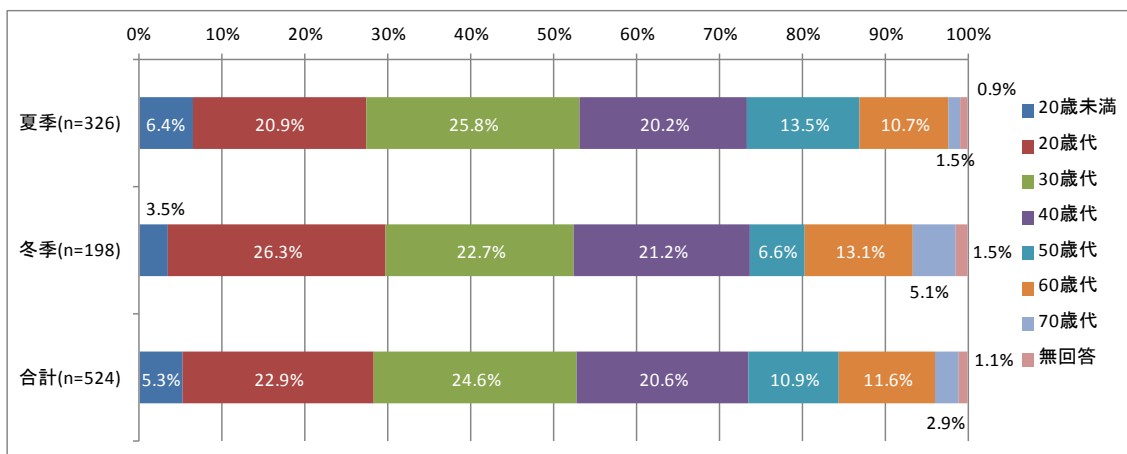
(1) 回答者の属性、旅行形態、観光回数、利用交通機関

①回答者の属性

図表 2-2-1 季節別・男女別構成

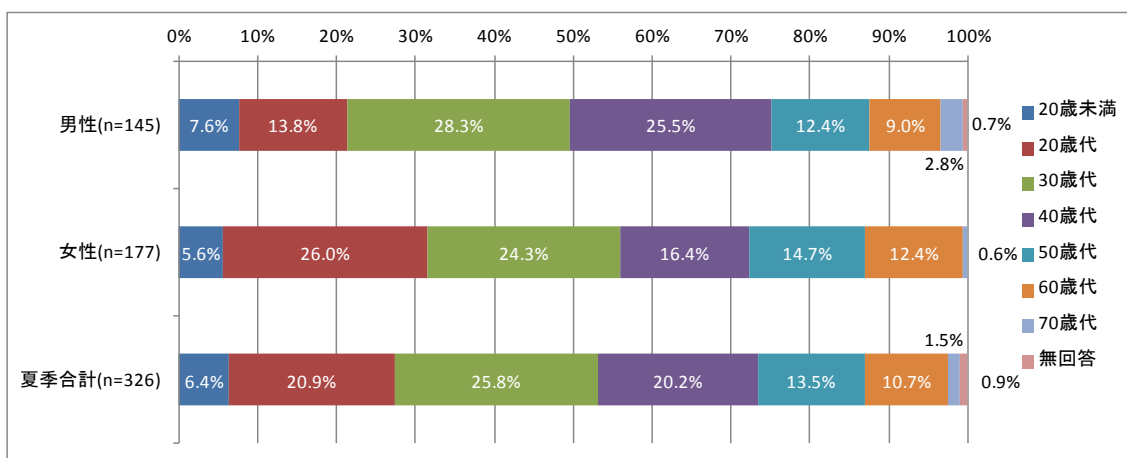


図表 2-2-2 季節別・年齢別構成

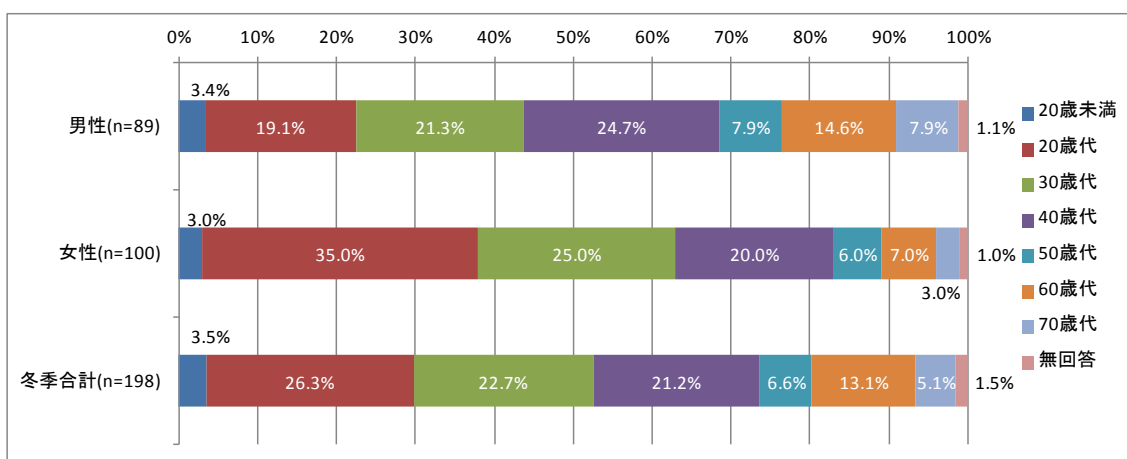


図表 2-2-3 季節別・男女別・年齢別構成

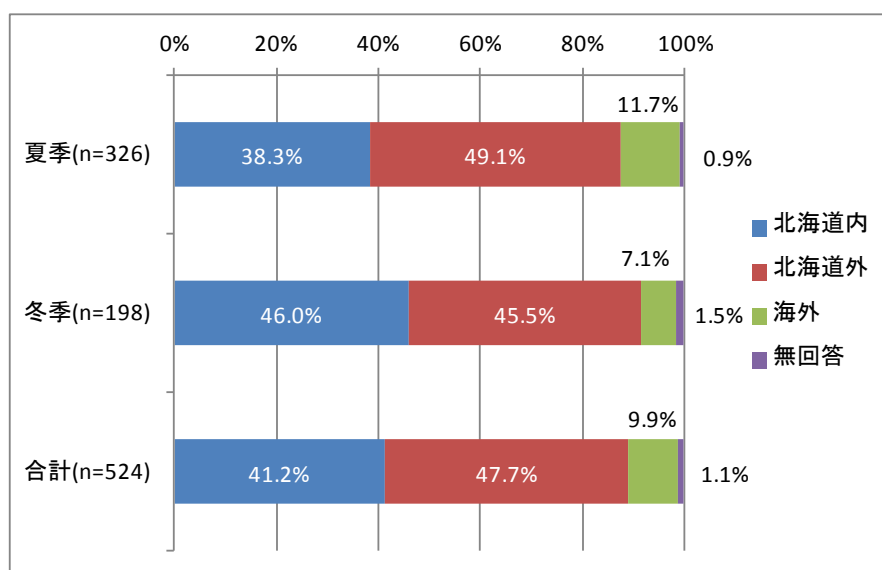
【夏季】



【冬季】



図表 2-2-4 季節別・居住地の構成



図表 2-2-5 季節別・道内観光客の居住地の圏域別内訳

地域	振興局	市町村名	夏季	冬季	合計
道北	上川	旭川市	15	20	35
		士別市	0	2	2
		名寄市	0	1	1
		富良野市	2	1	3
		当麻町	1	0	1
		比布町	0	1	1
		美瑛町	0	1	1
		上富良野町	1	0	1
		南富良野町	0	1	1
道東	オホーツク	北見市	1	0	1
		網走市	0	2	2
		紋別市	1	0	1
		遠軽町	1	0	1
	根室	標津町	1	0	1
		中標津町	1	1	2
		無回答	8	1	9
	釧路	釧路市	1	3	4
	十勝	帯広市	8	1	9
		音更町	1	0	1
		芽室町	0	2	2
		幕別町	0	1	1
道央	空知	岩見沢市	2	1	3
		赤平市	1	1	2
		三笠市	1	0	1
		滝川市	1	3	4
		歌志内市	0	1	1
		深川市	0	1	1
		奈井江町	0	1	1
		新十津川町	1	1	2
	石狩	札幌市	61	33	94
		江別市	3	0	3
		千歳市	1	1	2
		恵庭市	2	1	3
		北広島市	2	3	5
		当別町	0	2	2
	後志	小樽市	1	0	1
		余市町	0	1	1
	胆振	室蘭市	1	0	1
		苫小牧市	3	0	3
		伊達市	0	1	1
		厚真町	2	0	2
	日高	新ひだか町	0	1	1
道南	渡島	函館市	1	1	2
合計			125	91	216

図表 2-2-6 季節別・道外・海外観光客の居住地の圏域別内訳

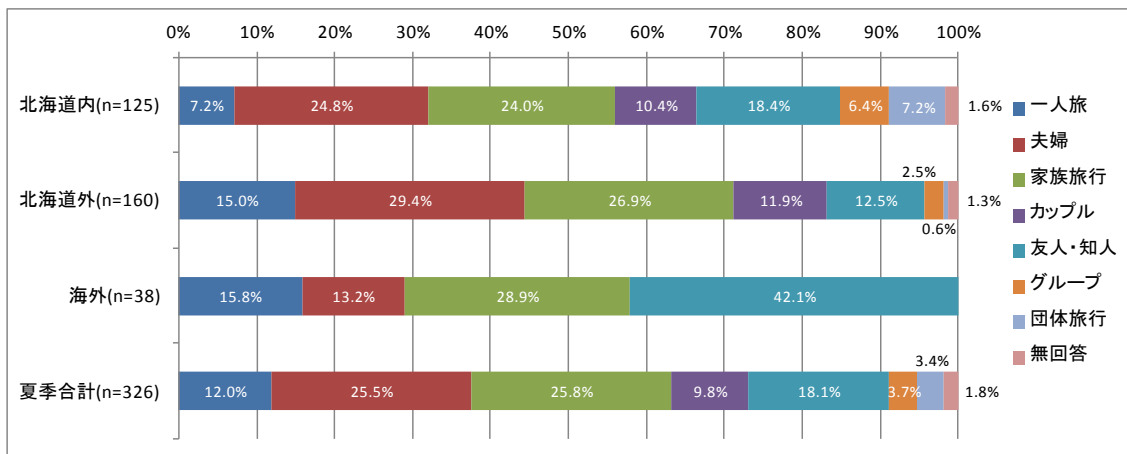
地域	都道府県	夏季	冬季	合計
東北	青森県	3	0	3
	岩手県	2	0	2
	秋田県	1	0	1
	宮城県	2	2	4
	福島県	4	0	4
関東	茨城県	2	0	2
	栃木県	1	1	2
	群馬県	4	0	4
	埼玉県	12	8	20
	千葉県	9	9	18
	東京都	26	24	50
	神奈川県	18	8	26
中部	新潟県	7	0	7
	長野県	3	0	3
	静岡県	2	1	3
	愛知県	13	5	18
	岐阜県	0	3	3
近畿	三重県	4	4	8
	滋賀県	2	0	2
	京都府	6	1	7
	大阪府	11	7	18
	兵庫県	10	5	15
	奈良県	2	2	4
中国	島根県	1	0	1
	岡山県	2	0	2
	広島県	1	3	4
	山口県	0	1	1
四国	香川県	2	0	2
	愛媛県	2	0	2
	高知県	1	0	1
九州	福岡県	3	0	3
	熊本県	2	0	2
	大分県	1	0	1
無回答		1	6	7
合計		160	90	250

国名	夏季	冬季	合計
韓国	3	0	3
中国	7	1	8
台湾	10	5	15
香港	14	5	19
シンガポール	3	0	3
タイ	1	0	1
オーストラリア	0	1	1
無回答	3	2	5
合計	41	14	55

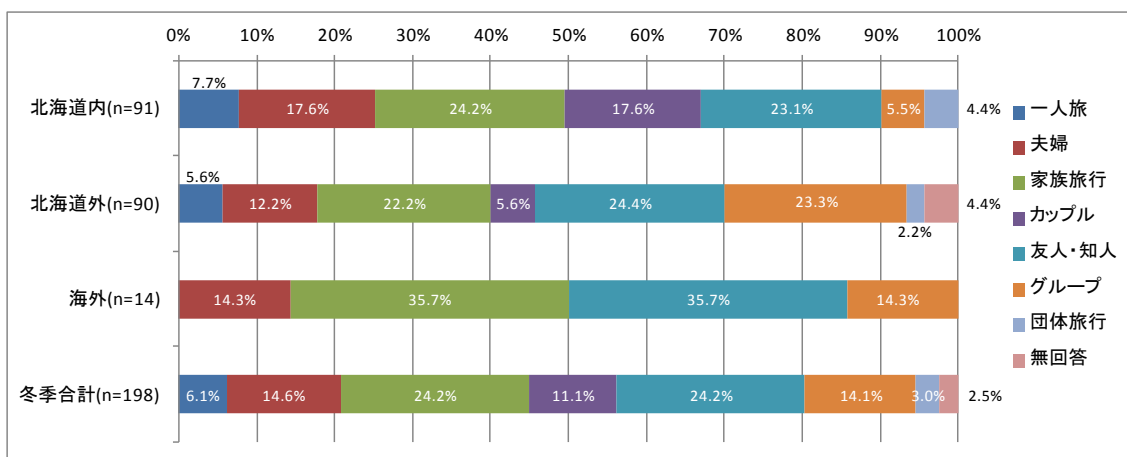
②回答者の旅行形態

図表 2-2-7 季節別・道内外別の旅行形態

【夏季】



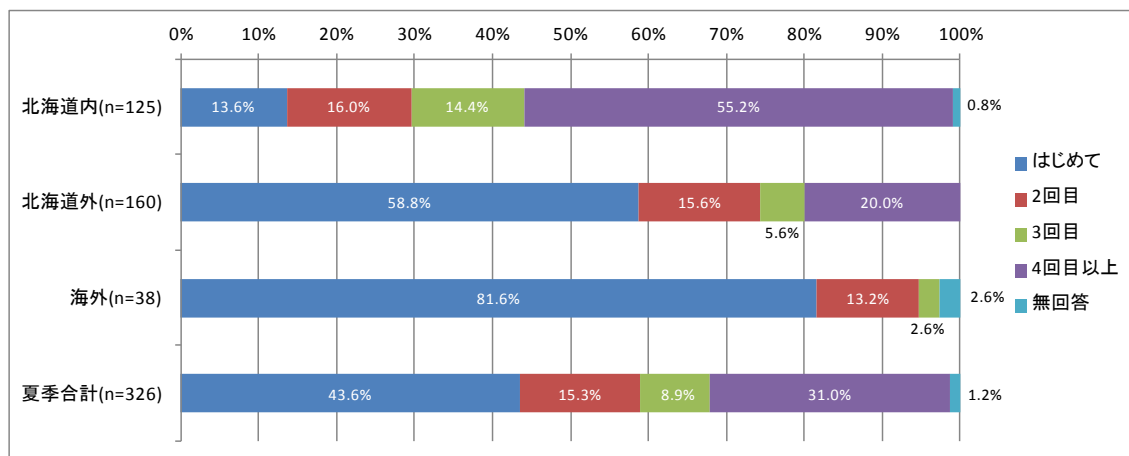
【冬季】



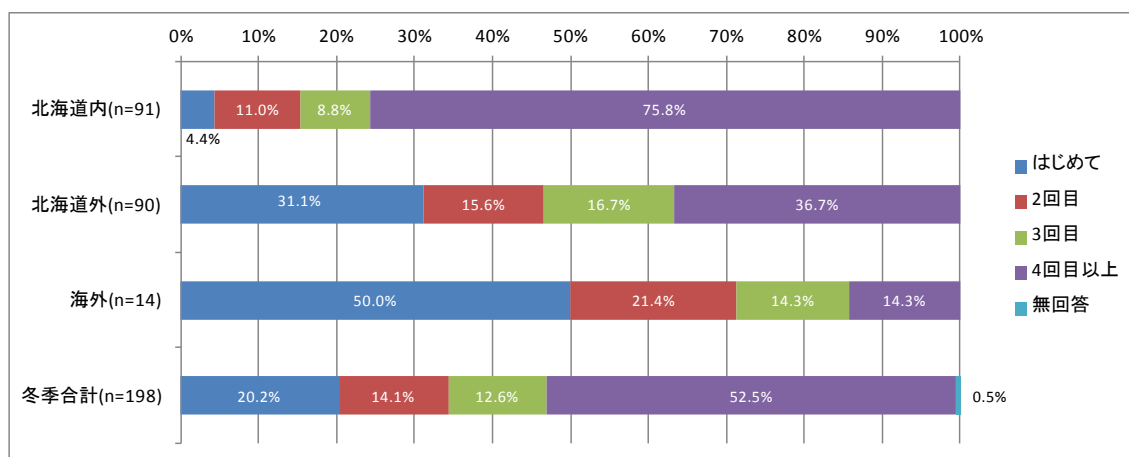
③来富観光回数

図表 2-2-8 季節別・道内外別来富観光回数

【夏季】

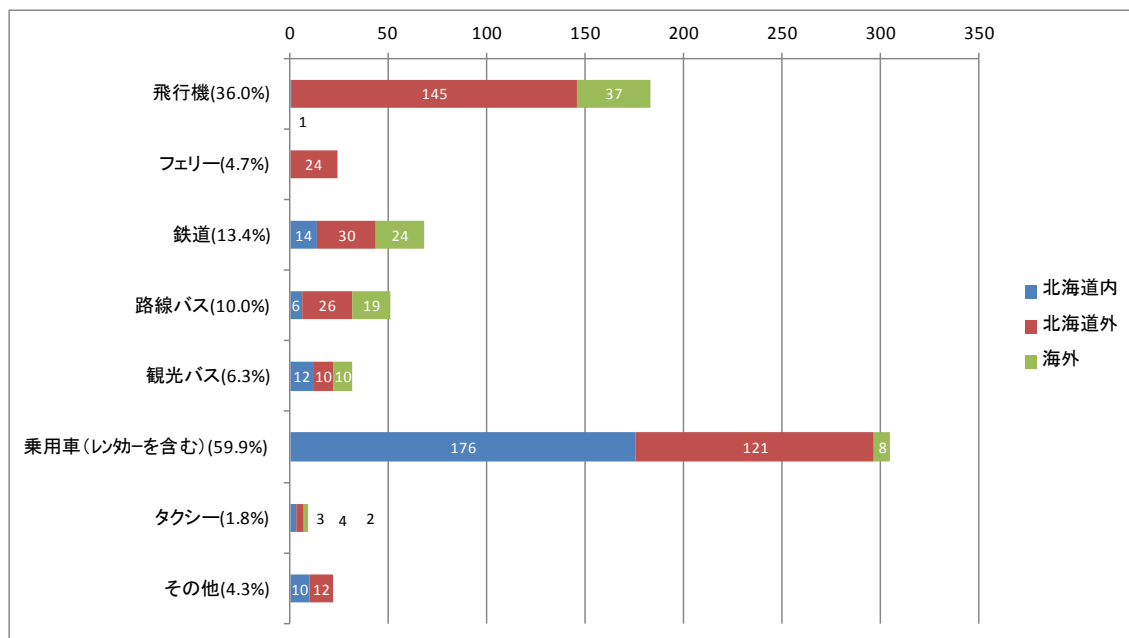


【冬季】



③来富利用交通機関

図表 2-2-9 道内外別の来富利用交通機関



※括弧内は回答者数に占める割合

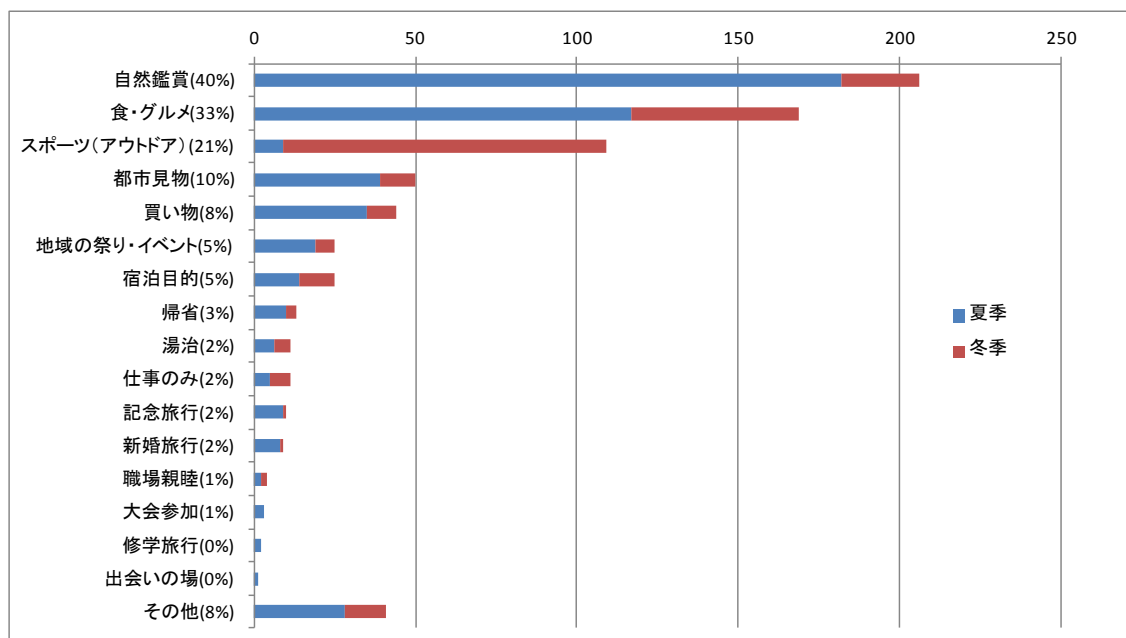
図表 2-2-10 季節別・航空機利用者の乗降道内空港・港湾

	夏季		冬季	
新千歳空港	153	62.4%	163	66.5%
旭川空港	70	28.6%	62	25.3%
十勝帯広空港	6	2.4%	6	2.4%
苫小牧港	6	2.4%	6	2.4%
函館空港	4	1.6%	2	0.8%
小樽港	2	0.8%	2	0.8%
函館港	2	0.8%	2	0.8%
釧路空港	1	0.4%	1	0.4%
女満別空港	1	0.4%	1	0.4%
	245		245	

(2) 観光の目的、観光動機を形成した情報源

① 観光の目的

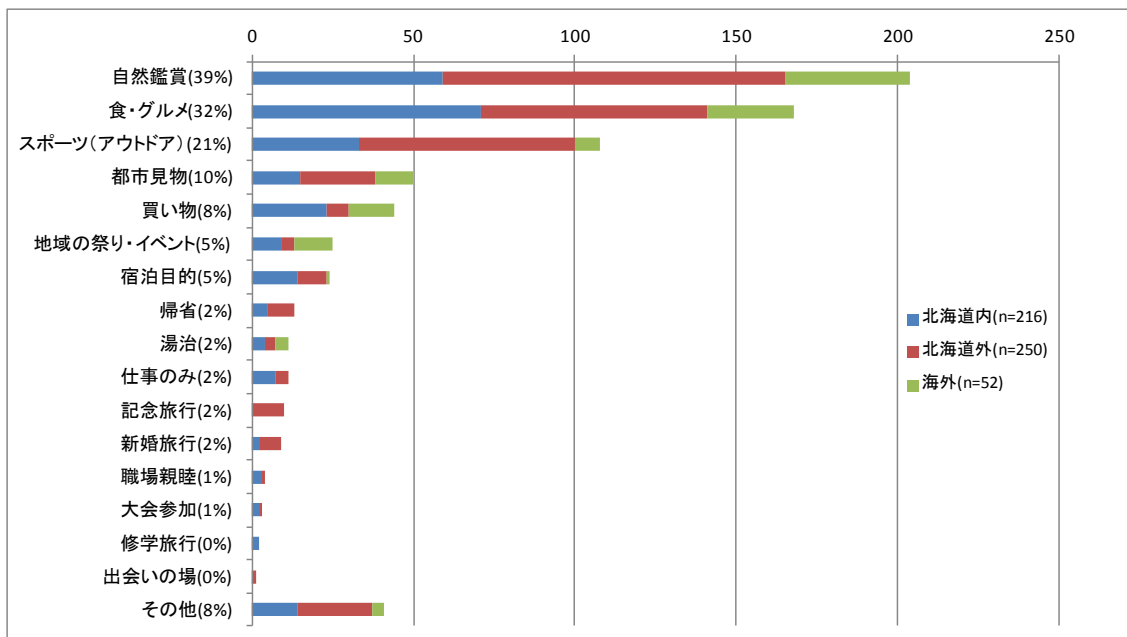
図表 2-2-11 季節別・観光目的



※括弧内は回答者数に占める割合

	夏季	冬季	合計
自然鑑賞(40%)	182	24	206
食・グルメ(33%)	117	52	169
スポーツ(アウトドア)(21%)	9	100	109
都市見物(10%)	39	11	50
買い物(8%)	35	9	44
地域の祭り・イベント(5%)	19	6	25
宿泊目的(5%)	14	11	25
帰省(3%)	10	3	13
湯治(2%)	6	5	11
仕事のみ(2%)	5	6	11
記念旅行(2%)	9	1	10
新婚旅行(2%)	8	1	9
職場親睦(1%)	2	2	4
大会参加(1%)	3	0	3
修学旅行(0%)	2	0	2
出会いの場(0%)	1	0	1
その他(8%)	28	13	41

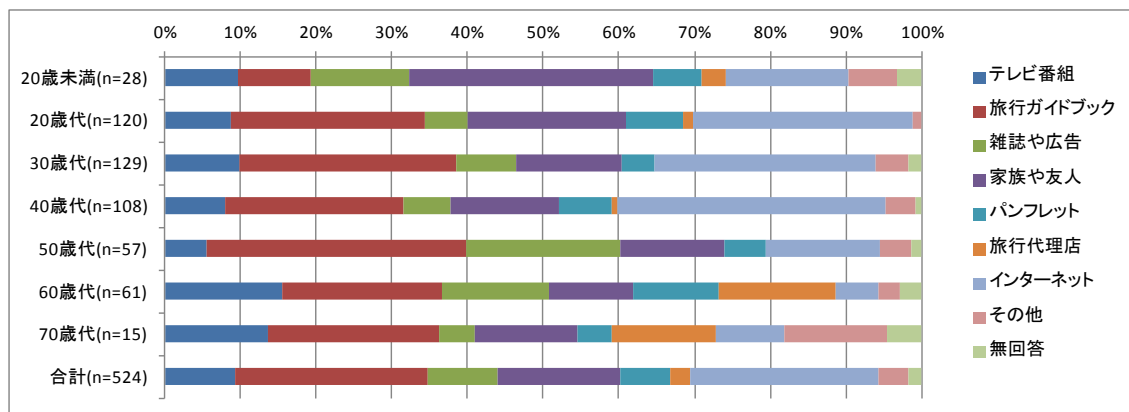
図表 2-2-12 道内外別の観光目的



	北海道内	北海道外	海外	合計
自然鑑賞(39%)	59	106	39	204
食・グルメ(32%)	71	70	27	168
スポーツ(アウトドア)(21%)	33	67	8	108
都市見物(10%)	15	23	12	50
買い物(8%)	23	7	14	44
地域の祭り・イベント(5%)	9	4	12	25
宿泊目的(5%)	14	9	1	24
帰省(2%)	5	8	0	13
湯治(2%)	4	3	4	11
仕事のみ(2%)	7	4	0	11
記念旅行(2%)	0	10	0	10
新婚旅行(2%)	2	7	0	9
職場親睦(1%)	3	1	0	4
大会参加(1%)	2	1	0	3
修学旅行(0%)	2	0	0	2
出会いの場(0%)	0	1	0	1
その他(8%)	14	23	4	41

②観光動機を形成した情報源

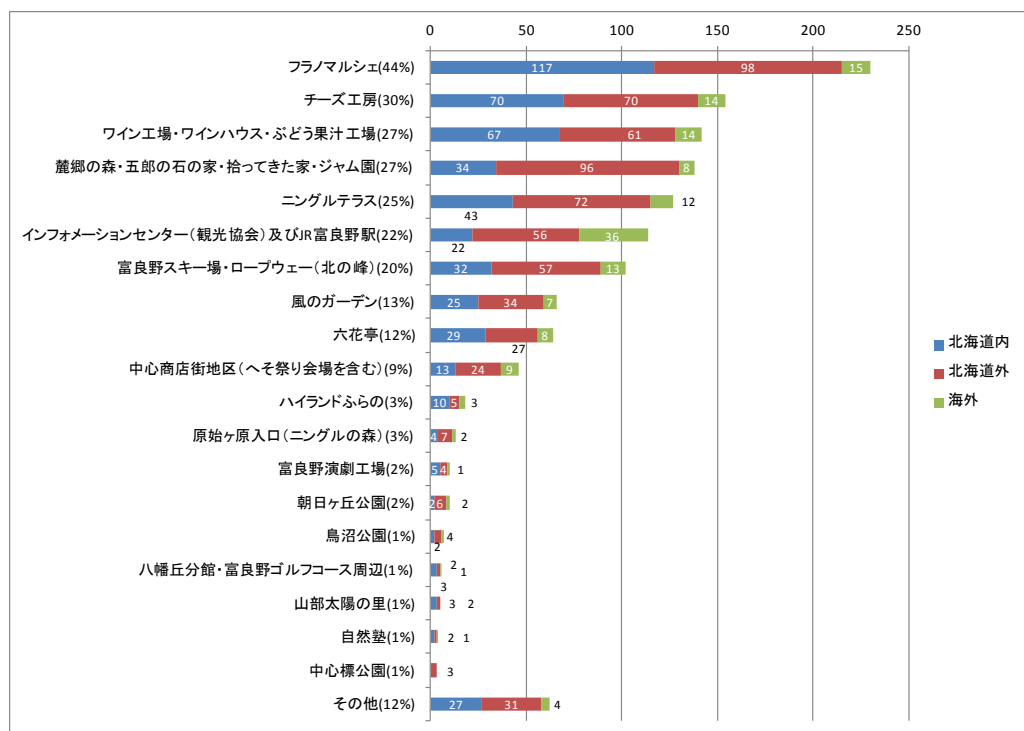
図表 2-2-13 年代別の観光動機を形成した情報源



	テレビ番組	旅行ガイドブック	雑誌や広告	家族や友人	パンフレット	旅行代理店	インターネット	その他	無回答
20歳未満(n=28)	10.7%	10.7%	14.3%	35.7%	7.1%	3.6%	17.9%	7.1%	3.6%
20歳代(n=120)	12.5%	36.7%	8.3%	30.0%	10.8%	1.7%	41.7%	1.7%	0.0%
30歳代(n=129)	12.4%	36.4%	10.1%	17.8%	5.4%	0.0%	37.2%	5.4%	2.3%
40歳代(n=108)	9.3%	27.8%	7.4%	16.7%	8.3%	0.9%	41.7%	4.6%	0.9%
50歳代(n=57)	7.0%	43.9%	26.3%	17.5%	7.0%	0.0%	19.3%	5.3%	1.8%
60歳代(n=61)	18.0%	24.6%	16.4%	13.1%	13.1%	18.0%	6.6%	3.3%	3.3%
70歳代(n=15)	20.0%	33.3%	6.7%	20.0%	6.7%	20.0%	13.3%	20.0%	6.7%
合計(n=524)	11.8%	32.4%	11.6%	20.6%	8.4%	3.4%	31.7%	4.8%	2.3%

(3) 訪問観光地

図表 2-2-14 道内外別の訪問観光地



※括弧内は回答者数に占める割合

	北海道内	北海道外	海外	合計
フラノマルシェ(44%)	117	98	15	230
チーズ工房(30%)	70	70	14	154
ワイン工場・ワインハウス・ぶどう果汁工場(27%)	67	61	14	142
麓郷の森・五郎の石の家・拾ってきた家・ジャム園(27%)	34	96	8	138
ニングルテラス(25%)	43	72	12	127
インフォメーションセンター(観光協会)及びJR富良野駅(22%)	22	56	36	114
富良野スキー場・ロープウェイ(北の峰)(20%)	32	57	13	102
風のガーデン(13%)	25	34	7	66
六花亭(12%)	29	27	8	64
中心商店街地区(へそ祭り会場を含む)(9%)	13	24	9	46
ハイランドふらの(3%)	10	5	3	18
原始ヶ原入口(ニングルの森)(3%)	4	7	2	13
富良野演劇工場(2%)	5	4	1	10
朝日ヶ丘公園(2%)	2	6	2	10
鳥沼公園(1%)	2	4	1	7
八幡丘分館・富良野ゴルフコース周辺(1%)	3	2	1	6
山部太陽の里(1%)	3	2	0	5
自然塾(1%)	2	1	1	4
中心標公園(1%)	0	3	0	3
その他(12%)	27	31	4	62

図表 2-2-15 季節別・宿泊日帰り別の平均訪問観光地数

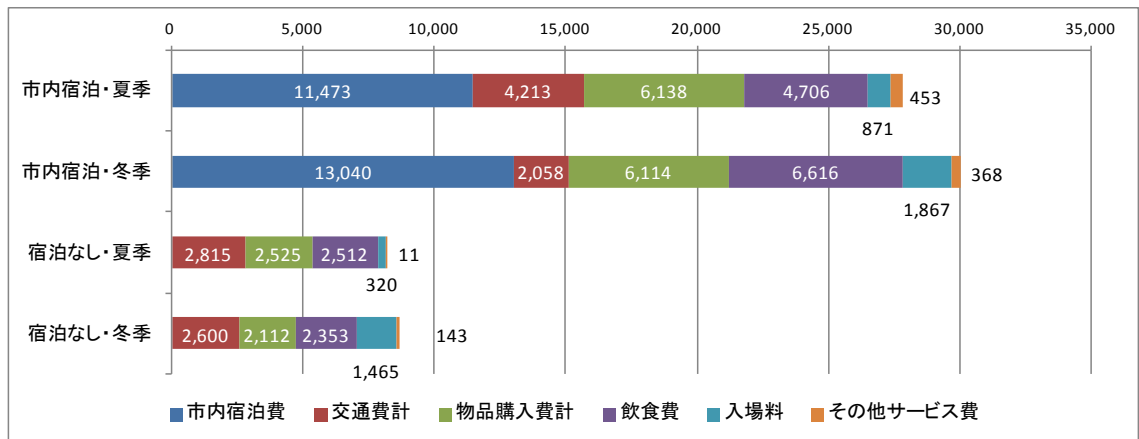
季節	日帰り・宿泊別	訪問地数
夏季	富良野市に宿泊	3.4
	市外に宿泊	2.4
	日帰り	2.0
冬季	富良野市に宿泊	2.6
	市外に宿泊	1.8
	日帰り	2.5

(4) 観光消費金額

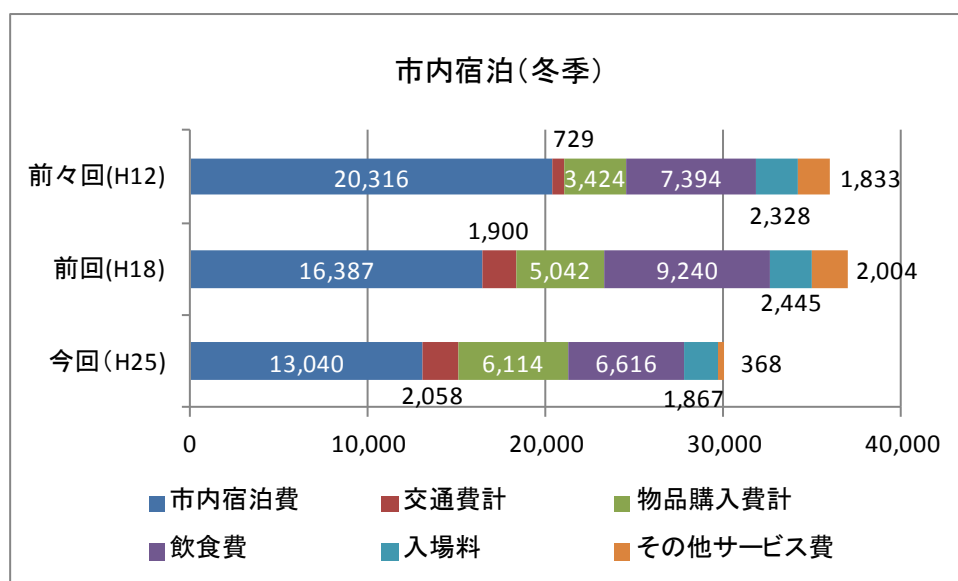
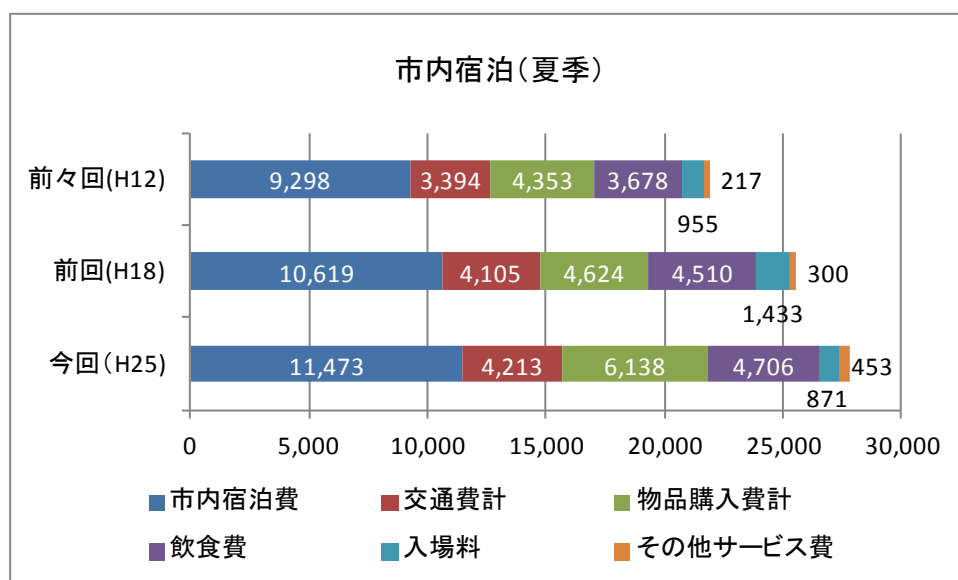
①一人当たり平均観光消費金額

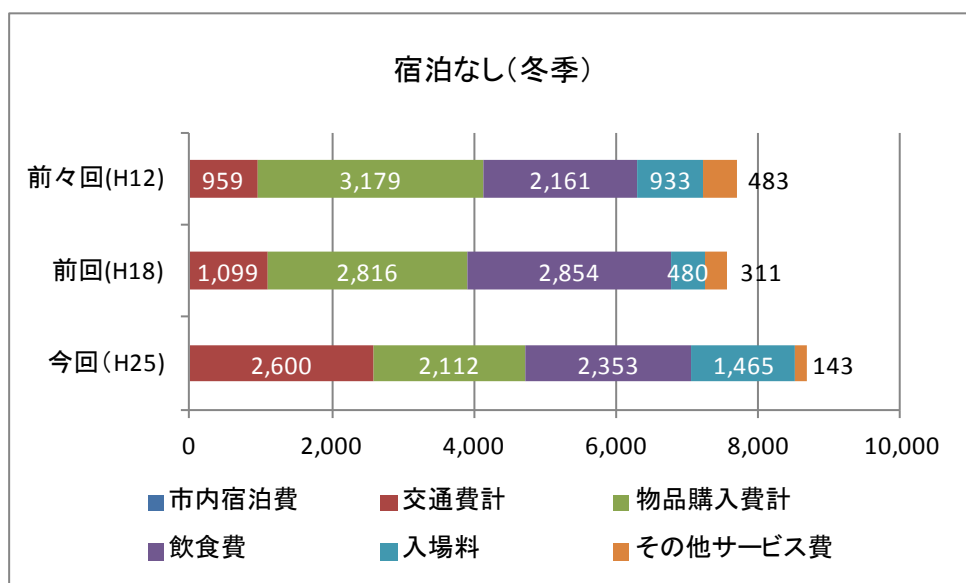
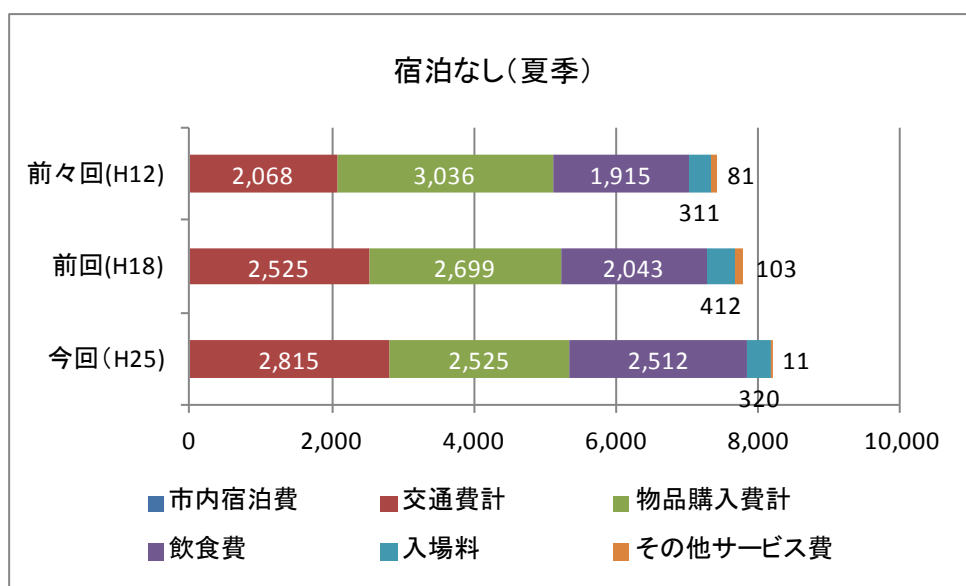
図表 2-2-16 季節別・宿泊日帰り別の一人当たり平均観光消費金額とその内訳

区 分 費 目		夏季			冬季		
		消費額合計(円)	対象観光客数(人)	平均消費額(円)	消費額合計(円)	対象観光客数(人)	平均消費額(円)
市内で 宿泊した	合計	3,175,679	114	27,854	3,367,523	112	30,063
	市内宿泊費	1,307,939	114	11,473	1,460,583	112	13,040
	交通費計	480,350	114	4,213	230,540	112	2,058
	物品購入費計	699,760	114	6,138	684,850	112	6,114
	飲食費	536,530	114	4,706	741,100	112	6,616
	入場料	99,400	114	871	209,150	112	1,867
	その他サービス費	51,700	114	453	41,300	112	368
市内で 宿泊しない	合計	826,826	101	8,183	381,691	44	8,673
	市内宿泊費	-	-	-	-	-	-
	交通費計	284,380	101	2,815	114,400	44	2,600
	物品購入費計	255,076	101	2,525	92,941	44	2,112
	飲食費	253,770	101	2,512	103,550	44	2,353
	入場料	32,400	101	320	64,500	44	1,465
	その他サービス費	1,200	101	11	6,300	44	143



図表 2-2-17 季節別・宿泊日帰り別の一人当たり平均観光消費金額とその内訳（経年比較）





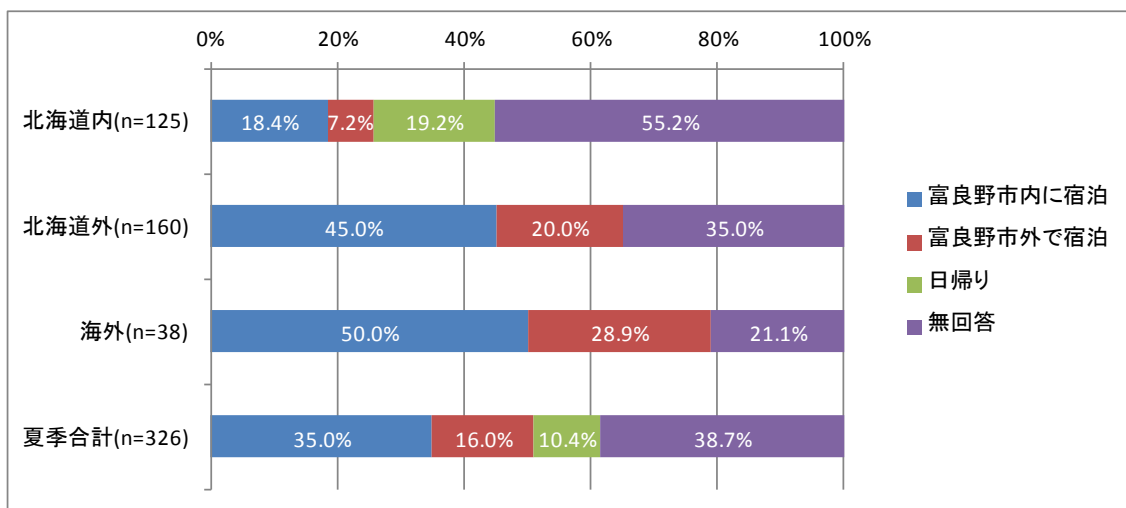
図表 2-2-18 季節別・道内外別の一人当たり平均観光消費金額とその内訳

区 分 費 目		夏季			冬季		
		消費額合計(円)	対象観光客数(人)	平均消費額(円)	消費額合計(円)	対象観光客数(人)	平均消費額(円)
道 内 客	合計	982,505	125	7,858	1,036,061	91	11,382
	市内宿泊費	306,100	125	2,448	313,350	91	3,443
	交通費計	113,500	125	908	83,600	91	918
	物品購入費計	270,335	125	2,162	191,661	91	2,106
	飲食費	200,270	125	1,602	253,750	91	2,788
	入場料	92,300	125	738	192,700	91	2,117
	その他サービス費	0	125	0	1,000	91	10
道 外 客	合計	3,310,739	198	16,719	2,627,818	104	25,265
	市内宿泊費	1,017,839	198	5,140	1,126,233	104	10,829
	交通費計	760,930	198	3,843	215,340	104	2,070
	物品購入費計	528,320	198	2,668	343,995	104	3,307
	飲食費	795,450	198	4,017	700,450	104	6,735
	入場料	149,300	198	754	195,200	104	1,876
	その他サービス費	58,900	198	297	46,600	104	448

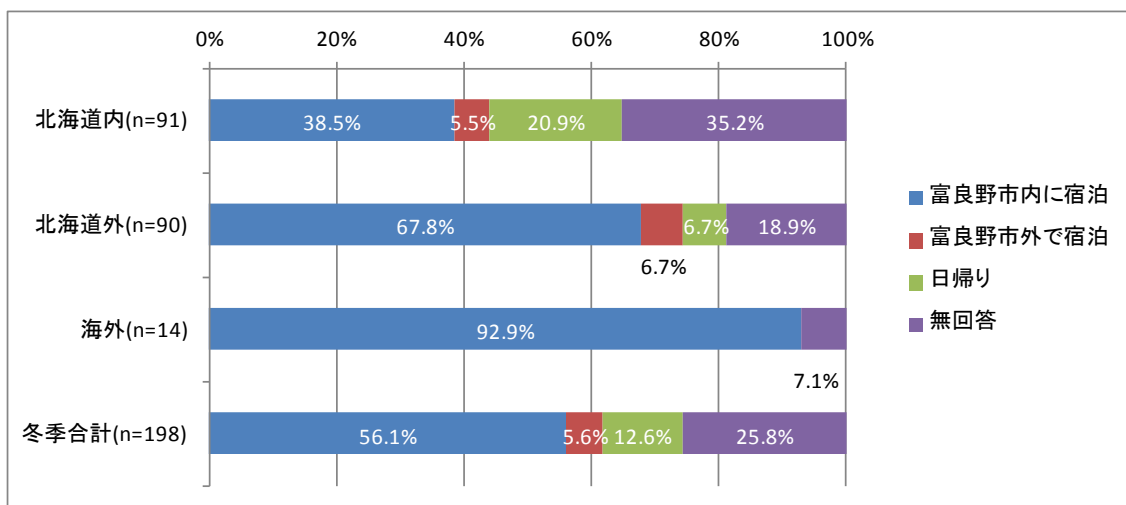
②宿泊による消費金額

図表 2-2-19 季節別・道内外別の市内宿泊の有無

【夏季】



【冬季】



図表 2-2-20 季節別・団体一般別の平均市内宿泊日数

	旅行形態	今回調査	前回調査	
		宿泊日数	宿泊日数	サンプル数
夏季	個人(n=100)	2.1	1.5	n=717
	団体(n=3)	1.0	1.4	n=960
冬季	個人(n=101)	2.5	3.7	n=287
	団体(n=10)	1.4	3.2	n=933

③交通機関による消費金額

図表 2-2-21 季節別・一人当たり平均各種市内交通費

	①夏季	②冬季	③合計	④合計構成比
鉄道運賃	580円	3円	362円	15.5%
バス運賃	127円	162円	140円	6.0%
レンタカー賃借料	1,455円	808円	1,210円	51.8%
自動車燃料費	441円	581円	494円	21.1%
タクシー・ハイヤー	40円	0円	25円	1.1%
駐車料金	40円	208円	104円	4.4%
交通費計	2,682円	1,762円	2,335円	100.0%

④物品による消費金額

図表 2-2-22 季節別・一人当たり平均各種物品購入費

	①夏季	②冬季	③合計	④合計構成比
農産物・農産加工品	2,049円	2,638円	2,271円	55.1%
飲 物	565円	902円	692円	16.8%
繊維・木製品	262円	75円	191円	4.6%
紙・プラスチック製品	128円	60円	102円	2.5%
嗜好品・医薬品	593円	292円	479円	11.6%
その他の物品	277円	560円	384円	9.3%
物品購入費計	3,873円	4,528円	4,120円	100.0%

⑤飲食による消費金額

図表 2-2-23 季節別・一人当たり飲食費

	①夏季	②冬季	③合計	④合計構成比
一般	3,109円	4,899円	3,784円	66.7%
団体	1,833円	2,000円	1,889円	33.3%
飲食費計	4,942円	6,899円	5,673円	100.0%

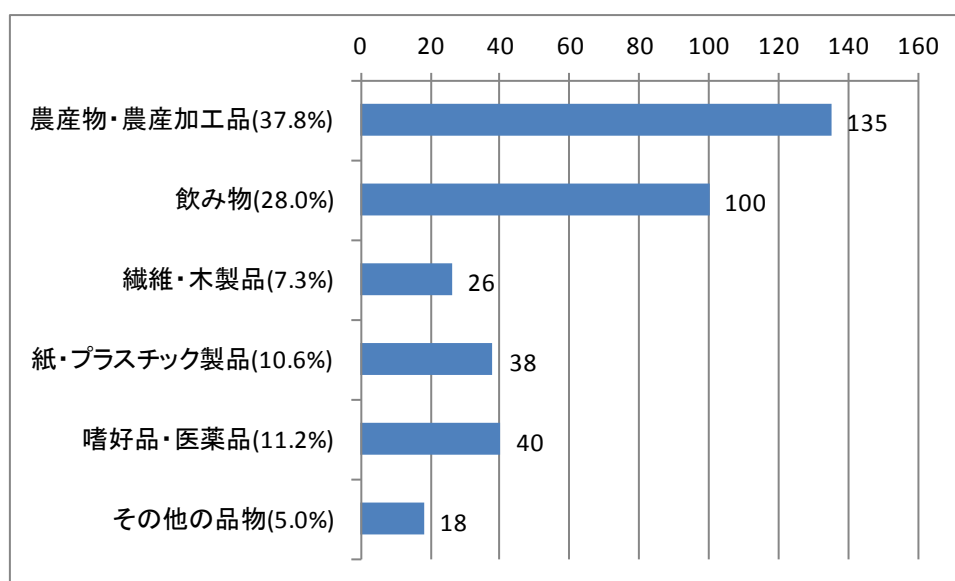
⑥サービス利用による消費金額

図表 2-2-24 季節別・一人当たり平均サービス費

	①夏季	②冬季	③合計	④合計構成比
施設利用料	613円	1,864円	1,085円	77.3%
入場料	128円	95円	116円	8.2%
通信費	112円	195円	143円	10.2%
医療費	8円	20円	12円	0.9%
その他	61円	25円	48円	3.4%
サービス費計	922円	2,199円	1,405円	100.0%

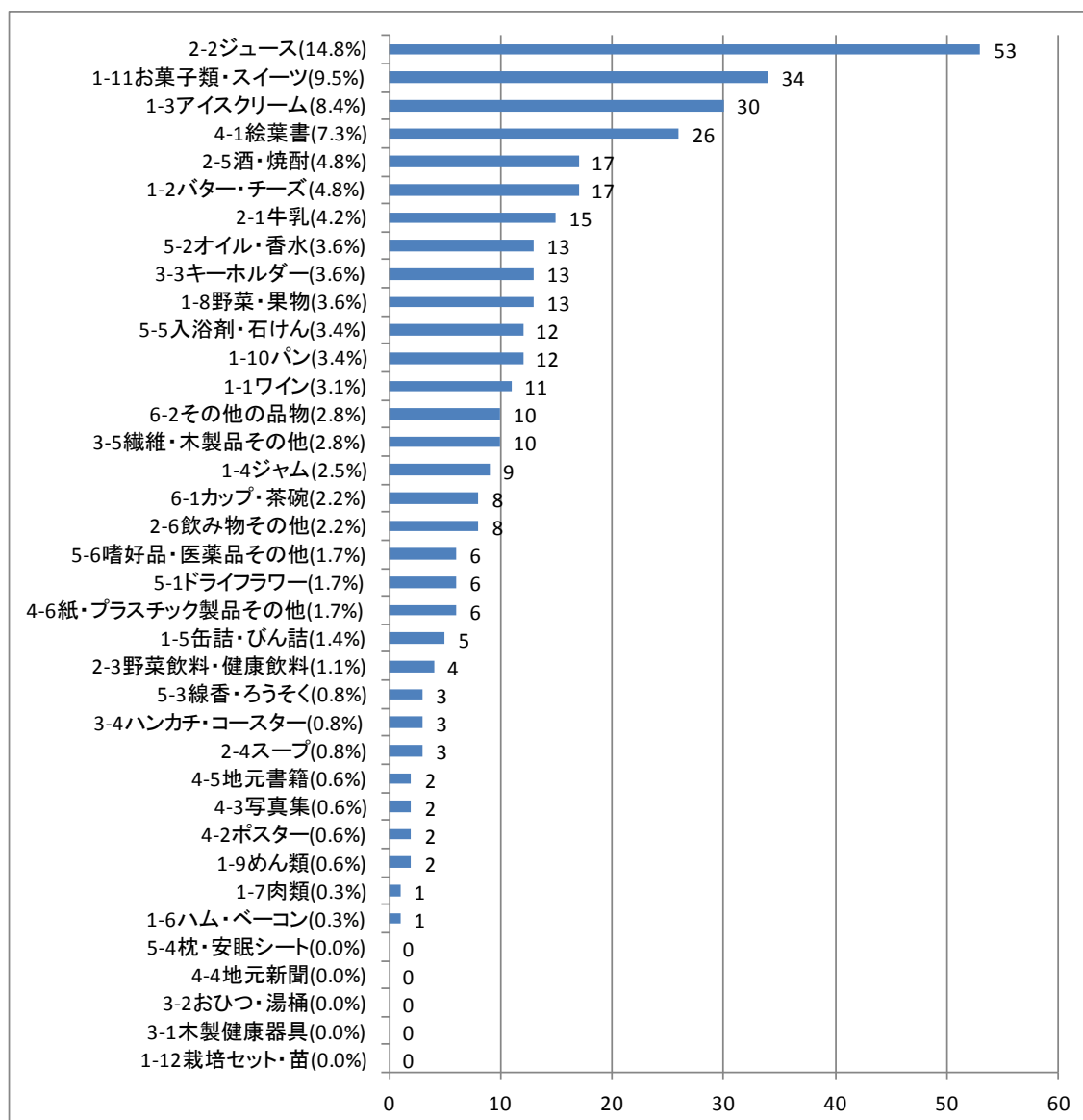
(5) 購入特産品

図表 2-2-25 品目別 6 分類別の購入特産品種別数（購入者数 357 人）



※括弧内は回答者数に占める割合

図表 2-2-26 全品目の購入特産品種別ランキング（購入総数 357 件）

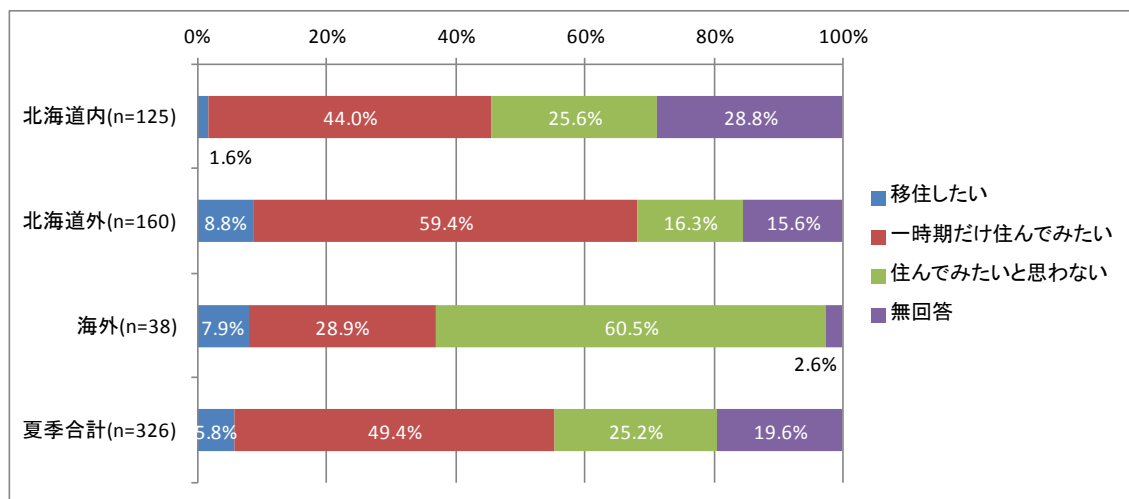


※括弧内は回答者数に占める割合

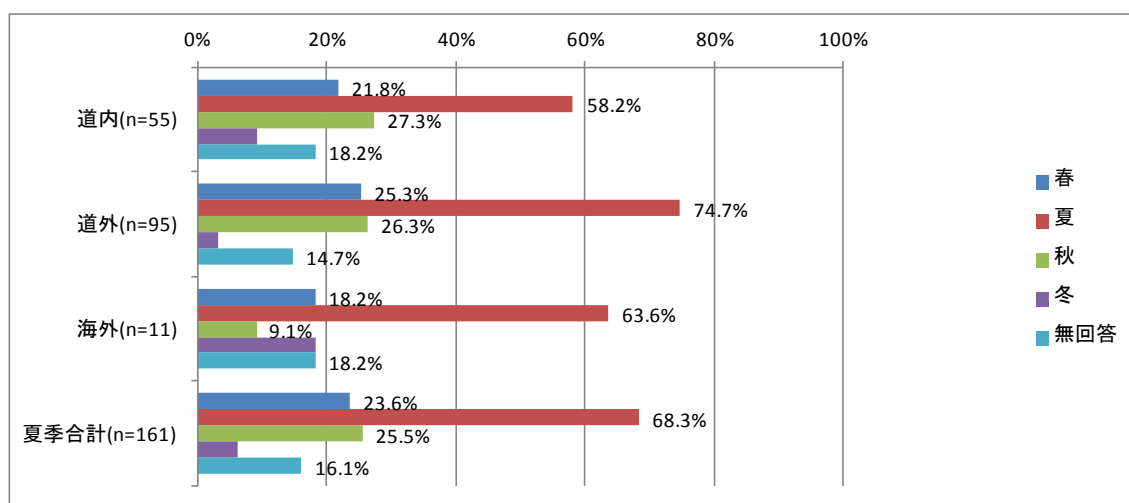
(6) 定住・再訪意識、富良野の印象

図表 2-2-27 季節別・道内外別の定住意識、住んでみたい季節

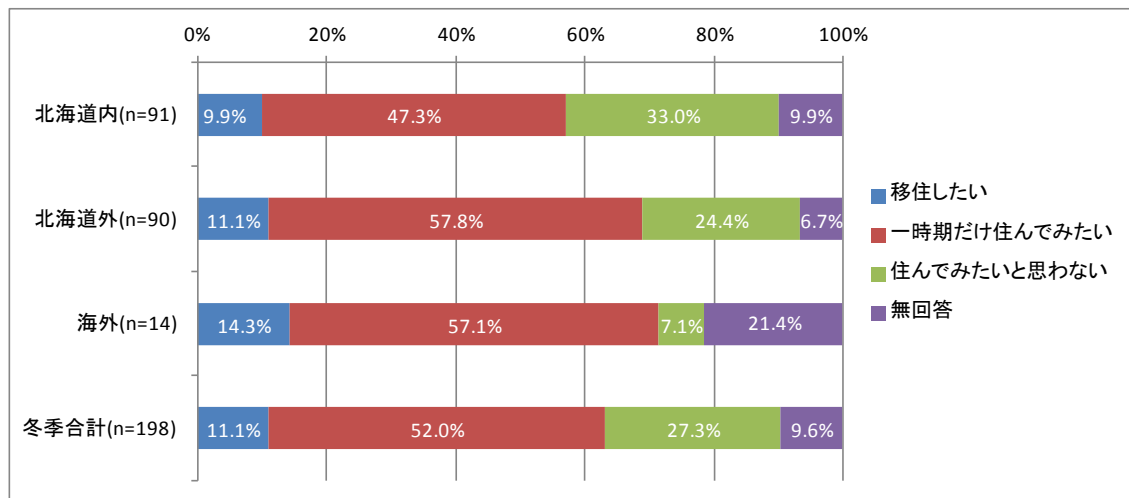
【夏季・定住意識】



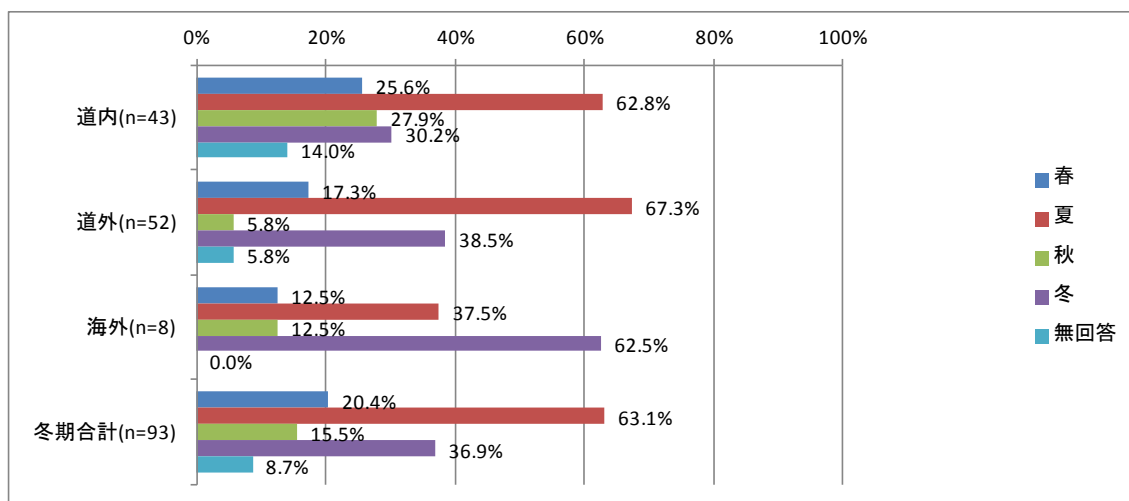
【夏季・一時期だけ住んでみたい季節】



【冬季・定住意識】

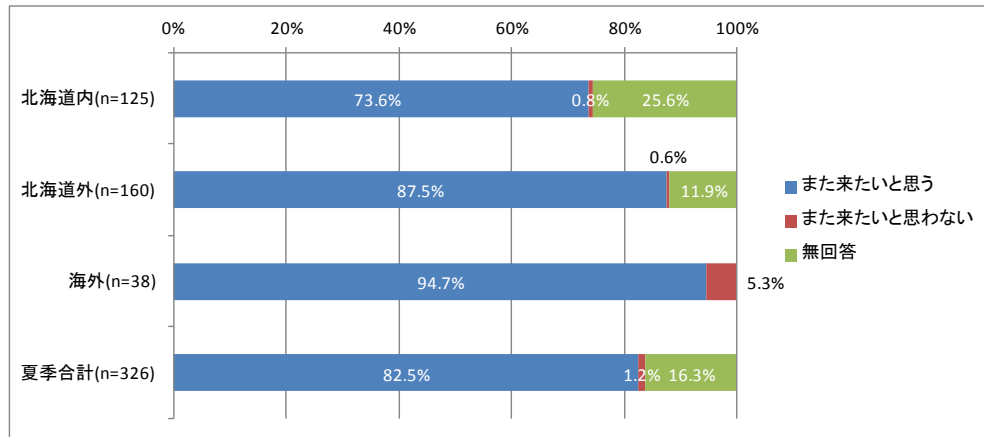


【冬季・一時期だけ住んでみたい季節】

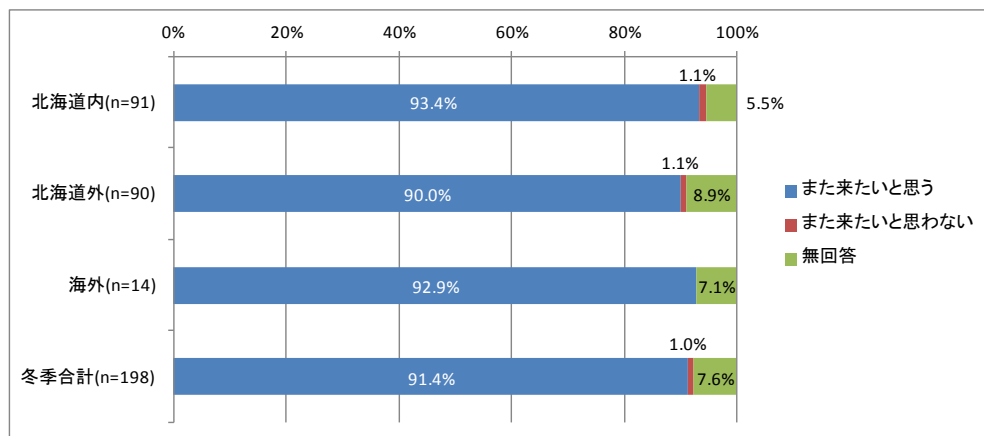


図表 2-2-28 季節別・道内外別の再訪意識、再訪希望時期

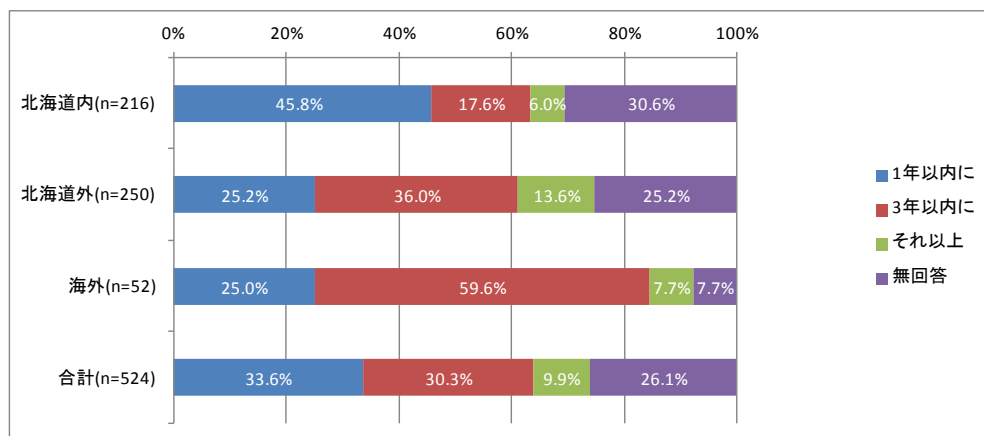
【夏季・再訪意識】



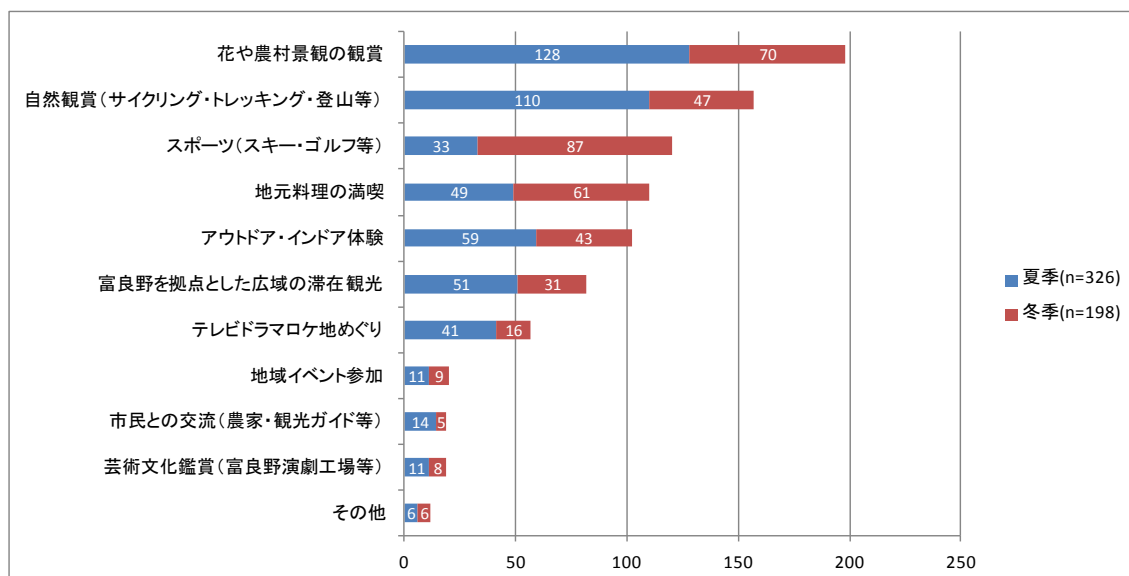
【冬季・再訪意識】



【再訪希望時期】



図表 2-2-29 季節別・再訪の際にしてみたいこと



図表 2-2-30 季節別・再訪したいと思わない理由

【夏季】

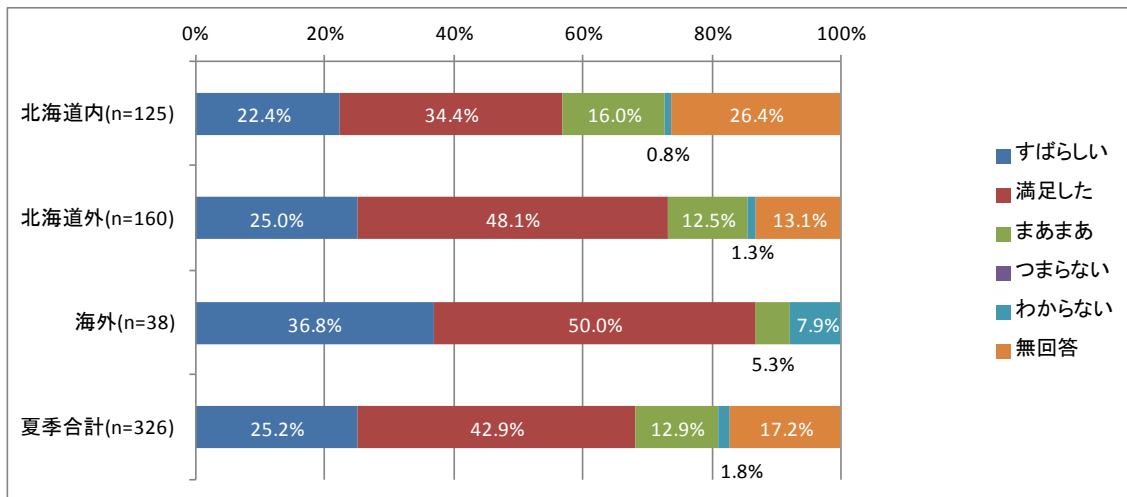
- ・回答なし

【冬季】

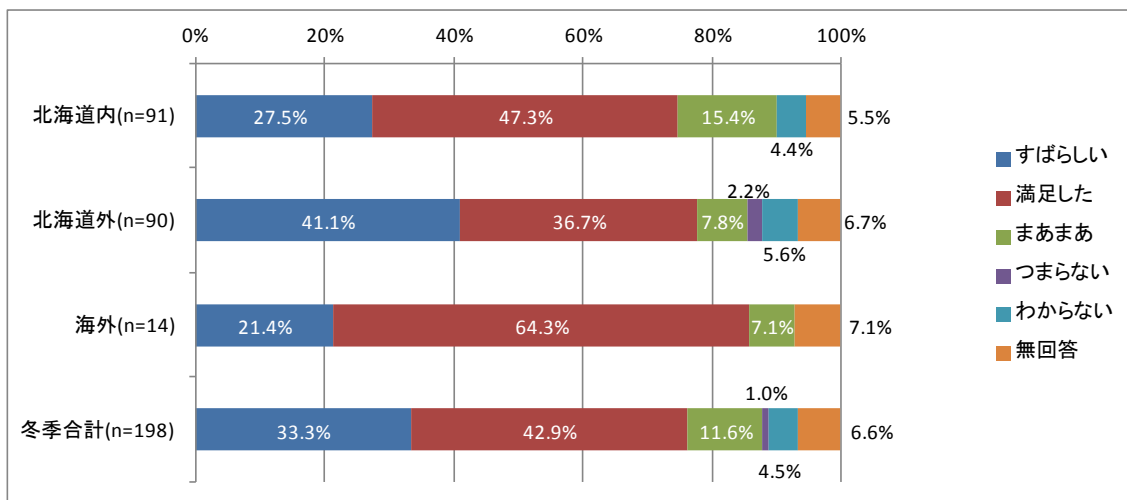
- ・リフト券が高い(冬季来訪者、札幌市在住、60代性別不明)

図表 2-2-31 季節別・富良野の印象程度

【夏季】



【冬季】



図表 2-2-32 季節別の満足した内容

【夏季】

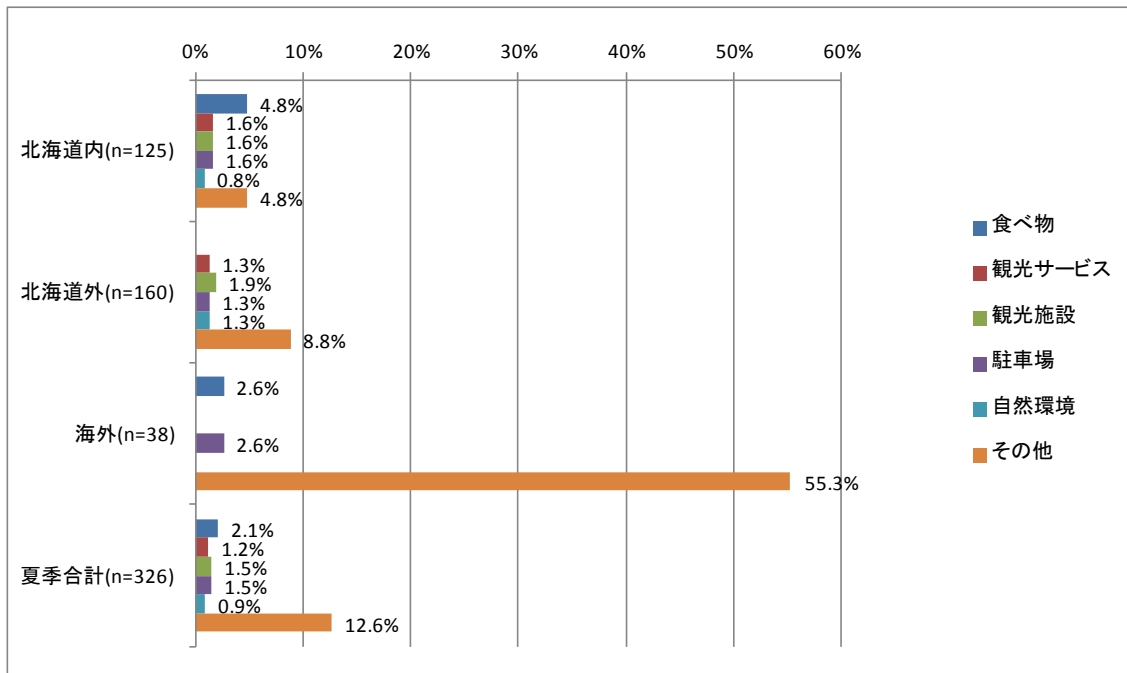
- ・ 自然・景色 (95)
- ・ 食事 (32)
- ・ ラベンダー畑 (20)
- ・ 花 (12)
- ・ 北の国からロケ地 (10)
- ・ 地元の人 (7)
- ・ 空気 (7)
- ・ のどかで癒される (6)
- ・ 街並み (6)
- ・ インフォメーションセンターのサービス (5)
- ・ 気候 (5)
- ・ のんびりした雰囲気 (4)
- ・ サービス (4)
- ・ ソフトクリーム (4)
- ・ 静かなところ (3)
- ・ 宿泊施設 (2)
- ・ フラノマルシェ (2)
- ・ カレー (1)
- ・ 観光サービス施設 (1)
- ・ 後藤純男氏の日本画 (1)
- ・ 浴衣体験 (1)
- ・ 交通アクセス (1)
- ・ へそ祭り (1)
- ・ 石の家のおじさんと話したこと。富良野の生活の話を聞いたこと (1)
- ・ 観光スポットがたくさんあってよい (1)
- ・ メロン (1)
- ・ 乳製品 (1)
- ・ ぶどう (1)
- ・ チーズ (1)

【冬】

- ・ 自然・景色 (28)
- ・ 食事 (27)
- ・ スキー場 (21)
- ・ 雪 (12)
- ・ 地元の人 (8)
- ・ ピザ (7)
- ・ 静かなところ (4)
- ・ 宿泊施設 (4)
- ・ サービス (4)
- ・ 観光スポットがたくさんあってよい (3)
- ・ 小学生のリフト券が無料なのがいい (3)
- ・ チーズ工房のバター作り (3)
- ・ 空気 (2)
- ・ のどかで癒される (2)
- ・ 街並み (1)
- ・ のんびりした雰囲気 (1)
- ・ 観光サービス施設 (1)
- ・ インフォメーションセンターのサービス (1)
- ・ 石の家のおじさんと話したこと。富良野の生活の話を聞いたこと (1)
- ・ 農場 (1)
- ・ ふらの観寒村 (1)
- ・ ニンゲルハウス (1)
- ・ 温泉 (1)
- ・ チーズ (1)
- ・ オムカレー (1)
- ・ スイーツ (1)
- ・ 工房体験 (1)
- ・ 清潔な街 (1)

図表 2-2-33 季節別の悪い印象を受けたところ

【夏季】



【道内容】

①宿泊施設

- ・ホテルが街中にある。

②バリアフリー

- ・バリアフリーが少なすぎる。

③お店

- ・団体受け入れ可の地元飲食店や目玉メニュー（オムカレー等）店が少ない。

④その他

- ・プリンスホテルへ行くときの山道が狭くて怖い。
- ・フラノマルシェの野菜は高い。道内に住んでいると思う。道外からだったら富良野の名前で買うかも。
- ・外国の人が騒がしい。運転のスピードが早い
- ・地元の古い考え方。

【道外客】

①道路

- ・道路がガタガタの部分がある。
- ・道路が凸凹で走りづらい。
- ・轍（わだち）があり、道があまりよくない。
- ・歩道。自転車では走りにくい。

②バリアフリー

- ・バスの乗車口が高いので、年配の方は大変です。改善してみてもいい。
- ・富良野駅にエレベーターやエスカレーターがないのは大きな荷物を抱える旅行者にとっては大変です。

③お店

- ・飲食店がわからなかった。

- ・観光地以外のお店が少ない。
- ・営業時間が短い。

④その他

- ・ラベンダーを誇張しすぎではないか。
- ・虫が多い。
- ・中国人のマナー
- ・交通アクセス

【海外客】

①バス

- ・バスの便が少なく、観光スポットまで行くのに不便。
- ・乗り放題バス「ふらのくる号」の行き先が少ない。待ち時間が長い。
- ・JRの観光バスが少ない。同時間に2～3台のバスに乗れるようにしてほしい。
- ・JRのツインクルバスが遅れても返金してくれない。(ラベンダーバスが遅れたにもかかわらず)
- ・観光バスの運賃が高い。
- ・バス乗り場の総合案内看板が見つからず探すのに苦労した。

②インターネット

- ・Wi-Fiのつながる所が少ない。

③バリアフリー

- ・JRの中にエレベーターがなくて荷物運びが大変。

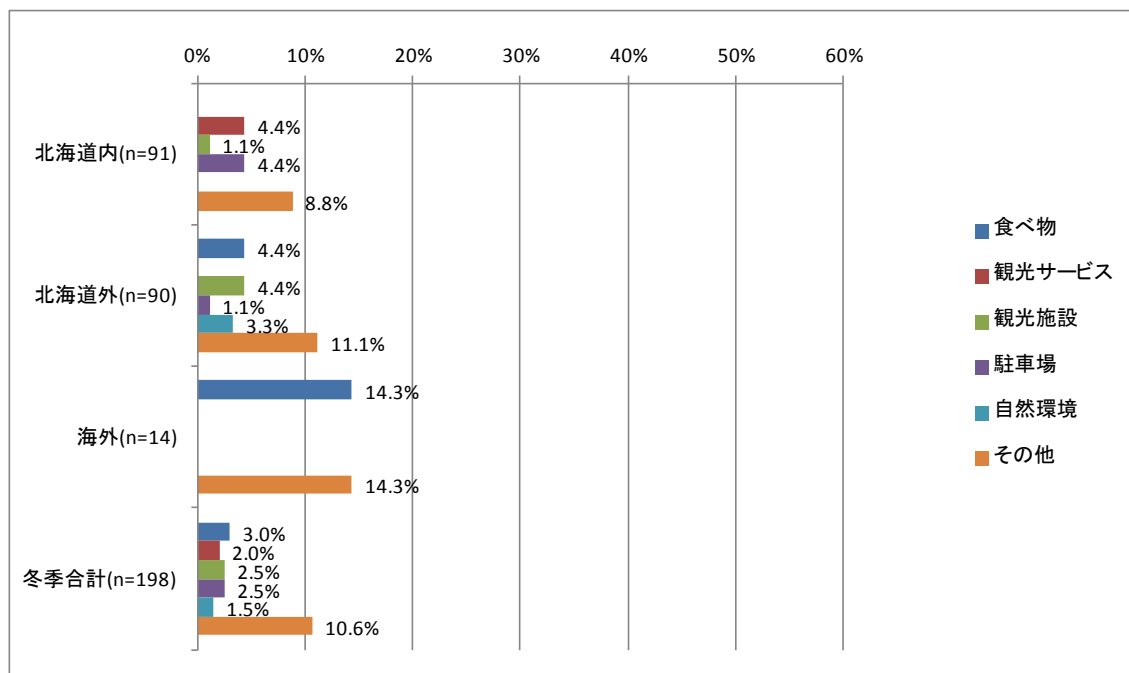
④お店

- ・スーパーや商店などの営業時間が短い。
- ・朝食のお店が少ない。

⑤その他

- ・中国語の標識が少ない。
- ・荷物の預り所が少ない。
- ・ゴミ箱が少ない。
- ・宿泊の予約が直接できない。
- ・観光協会の古いページは削除した方がいい。古い情報をみてきたからこちらに来てから大変でした。
- ・駅のトイレが汚れていた。

【冬季】



【道内容】

①交通関係

- ・道が悪い。怖い。

②その他

- ・リフト代が高い
- ・気軽にいける温泉がほしい。
- ・五郎さんの家が冬だったので見られなかった。

【道外客】

①交通関係

- ・交通が不便。
- ・道路状況がよくない。
- ・バスの本数が少ない。時間が正確でない。
- ・車以外の交通手段がない。
- ・タクシーが夜の雪道を 90 km/h で走行した。怖かった。

②お店

- ・郷土料理の店が少ない
- ・スーパーが高い。
- ・フラノマルシェが高い。

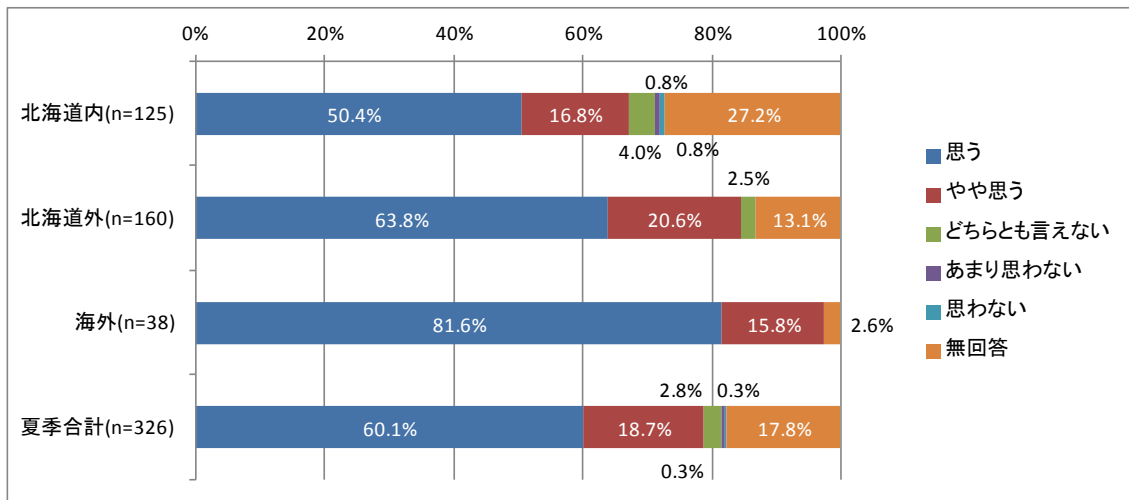
【海外客】

①交通関係

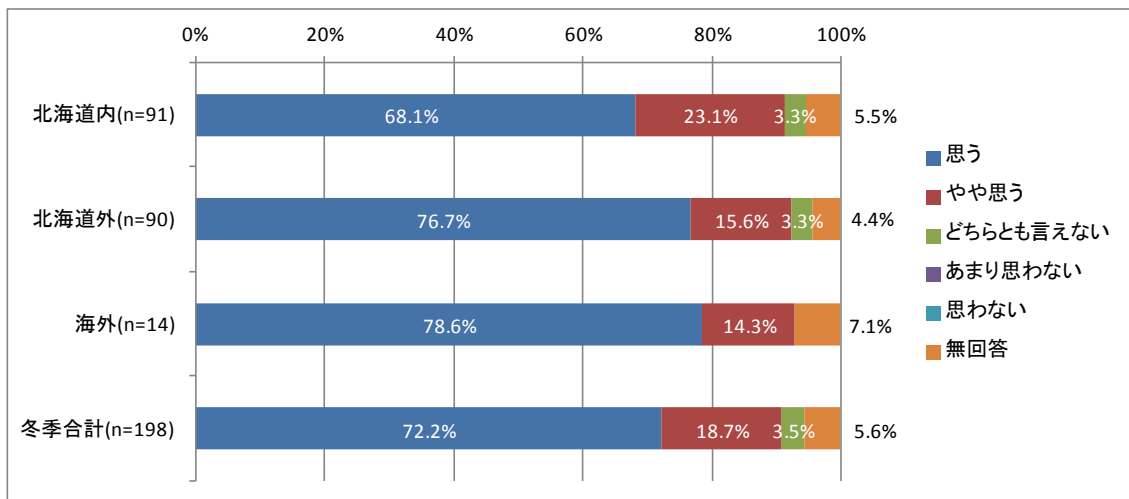
- ・交通が不便。

図表 2-2-34 季節別の友人への紹介の意識

【夏季】



【冬季】



(7) 観光消費実態調査結果のまとめと過去の調査との比較

①回答者の属性、旅行形態、観光回数、利用交通機関

①-1 回答者の属性

- ・夏季、冬季ともに女性の方がやや多い。
- ・年代は、20代と30代で約半分を占める。40代と合わせると全体の7割程度を占めている。
- ・夏季は20代女性が多く、ラベンダー等、花の観光への嗜好によるものと考えられる。冬季も同様に20代女性の割合が高く、スキー等での訪問と考えられる。

①-2 観光客の居住地

- ・道内より道外の回答者がやや多い。
- ・道内客は札幌市が最も多く旭川市が次いでいる。道外客は関東圏が中心となっており、夏季と冬季で回答者数に大きな差はない。海外客は、香港が最も多く台湾が次いでいる。

①-3 旅行形態と来富観光回数

- ・道内外別にみると、夏季・冬季ともに道内客は4回以上来富経験のあるリピーターの割合が高くなっている。
- ・道外客は、夏季は「はじめて」とする回答が6割近くに達している。冬季は「4回目以上」という回答が最も多く、スキーでのリピーターと考えられる。
- ・海外客は、夏季は「はじめて」が8割以上、冬季は5割となっている。

①-4 来富利用交通機関

- ・乗用車（レンタカーを含む）による来訪が大半を占めている。
- ・道外客についても乗用車（レンタカーを含む）の利用が多いが、鉄道、路線バス、観光バス等の利用もみられる。
- ・利用した空港、港湾をみると、新千歳空港が全体の6割以上を占めており、旭川空港が3割弱で次いでいる。苫小牧港・小樽港・函館港等、船舶による入込もみられる。

②観光の目的、観光動機を形成した情報源

②-1 観光の目的

- ・季節別にみると、夏季は「自然観賞」が最も多く、「食・グルメ」が次いでいる。
- ・冬季は「スポーツ（アウトドア）」が大半を占めており、スキー客と考えられる。
- ・道内外別にみると、道外客が「自然観賞」、「スポーツ（アウトドア）」の嗜好が強いことが読み取れる。

②-2 観光動機を形成した情報源

- ・20 歳未満は、「家族や友人」の割合が最も高い。
- ・20～40 歳代は「インターネット」の割合が最も高く「旅行ガイドブック」が次いでいる。
- ・50 歳代以上は、「旅行ガイドブック」の割合が高くなっている。

③訪問観光地

- ・「フラノマルシェ」が最も多く、回答者の4割以上が訪問したと回答している。これに「チーズ工房」、「ワイン工場・ワインハウス・ぶどう果汁工場」が次いでいる。
- ・季節別・宿泊日帰り別の平均訪問観光地数をみると、夏季の市内宿泊者は3.4カ所を訪問している。日帰り客は2.0カ所である。冬季の市内宿泊者、市外宿泊者はそれぞれ2.6カ所、1.8カ所を訪問しており、いずれも夏季を下回っている。日帰り客については、平均2.5カ所と夏季を上回っている。

④一人当たり平均消費金額

- ・市内宿泊の有無別にみると、夏季の市内宿泊者の一人あたり消費金額は27,854円で、前回調査(25,591円)を上回った。市内で宿泊しない観光客は8,183円で、同じく前回調査(7,782円)を上回った。冬季の市内宿泊者の一人あたり消費金額は30,063円で、前回調査(37,019円)を下回った。市内で宿泊しない観光客は8,673円で、同じく前回調査(7,559円)を上回った。(図表2-2-16)
- ・道内外別にみると、夏季道内客7,858円(前回9,143円)、夏季道外客16,719円(前回17,393円)、冬季道内客11,382円(前回17,025円)、冬季道外客25,265円(前回30,576円)となっており、道外客が道内客を大きく上回っている。(図表2-2-18)
- ・宿泊費は、夏季は11,473円(前回10,619円)、冬季は13,040円(前回16,387円)となっており、夏季は大差なく、冬季は2割程度減少している。冬季が夏季を上回る傾向に変化はない。
- ・交通機関による消費金額をみると、通年で2,335円(前回2,665円)をやや下回った。同じく物品は4,120円(前回3,686円)となっている。(図表2-2-21)
- ・一般客(団体客を除く)の飲食費を比較すると、一般客は夏季3,109円(前回4,772円)、冬季4,899円(前回10,418円)といずれも前回調査を大きく下回っている。(図表2-2-23)
- ・サービス利用消費金額は、夏季922円(前回1,139円)、冬季2,199円(前回3,355円)と、いずれも前回調査を下回っている。(図表2-2-24)

⑤購入特産品

- ・「農産物・農産加工品」が最も多く、購入者 357 名のうち、4 割近くが購入している。これに「飲み物」が次いでいる。
- ・詳細品目別にみると、「ジュース」、「お菓子類、スイーツ」「アイスクリーム」が多くなっている。

⑥移住意識と再訪意識

- ・移住意識については、「移住したい」とする回答は、夏季は 1 割を下回っているが、冬季は 11.1%となっている。
- ・「一時期だけ住んでみたい」とする回答は夏季、冬季ともに 5 割程度となっている。季節でみると、「夏」が最も多い。
- ・再訪意識については、夏季で 82.5%、冬季で 91.4%となっており、高い評価を得ている。再訪希望時期については、道内客の 5 割近くが「1 年以内に」と回答しており、道内客のリピート化が進展していることが読み取れる。道外客については「1 年以内に」とする回答が 25.2%となっており、「3 年以内に」とする回答と合わせると、6 割以上が 3 年以内の訪問を希望している。
- ・再訪時にしてみたいことについて、「花や農村景観の観賞」、「自然観賞」「スポーツ・ゴルフ場」等の割合が高くなっている。

⑦富良野の印象

- ・季節別の印象程度をみると、夏季では全体の 25.2%が「素晴らしい」と回答しており、「満足した」と合計すると 7 割近くの満足を得ている。道内客については、無回答が全体の 3 割近くに達しているが、これはリピーターが多く「素晴らしいから来ている」という意識が働いたものと推察される。
- ・冬季についても同様に「素晴らしい」と「満足した」の合計が 7 割近くとなっている。
- ・季節別の満足した内容（自由回答）についてみると、夏季は「自然・景色」「食事」「ラベンダー畑」といった回答が多くなっている。インフォメーションセンターのサービスについて対応を評価する声もあった。
- ・冬季は「自然・景色」「食事」「スキー場」が多くなっている。スキー客が多いと推察されるが、パウダースノーを高く評価する声や、ホテル等宿泊施設のサービスを評価する声もあった。食べ物では「ピザ」を評価する声が多くあった。

⑧年間観光総消費額の推計

- ・富良野市観光客入込数に、観光客一人当たり平均消費金額を乗じて、市内年間消費額を推定した。結果は下表のとおりである。
- ・宿泊客一人当たりの平均消費金額をみると、夏季は前々回調査（H12）、前回調査（H18）と比較して一貫して増加している。図表 2-2-17 でみたとおり、市内宿泊費、交通費、物品購入費、飲食費いずれも増加傾向にある。この数値は一人当たりの数値であり、一般に宿泊数が伸びるほど増加する。宿泊数について、前回調査と今回調査で有効回答数が大きく異なるため単純な比較は困難であるが、夏季一般宿泊者が 2.1 日（前回 1.5 日）となっており、宿泊数の伸びが背景の一つとして考えられる。（図表 2-2-15）
- ・同じく冬季についてみると、前々回調査（H12）、前回調査（H18）をともに下回っており、前回調査から約 7 千円減少している。宿泊者数をみると、冬季一般宿泊者が 2.5 日（前回 3.7 日）となっており、宿泊数の減少が背景の一つとして考えられる。（図表 2-2-15）
- ・日帰り客一人当たりの平均消費金額をみると、夏季は前々回、前回調査と比較して一貫して増加している。内訳をみると、交通費や飲食費は増加しているが、物品購入費は減少している。同じく冬季についてみると、夏季と同様、前々回、前回調査と比較して一貫して増加している。（図表 2-2-17）
- ・上記の宿泊客一人当たり平均消費額、日帰り客一人当たり平均消費額に宿泊客数、日帰り客数を乗じて、年間観光総消費額を約 240 億円と推計する。前回調査（約 281 億円）、前々回調査（約 273 億円）と比較すると減少している。（図表 2-2-36）

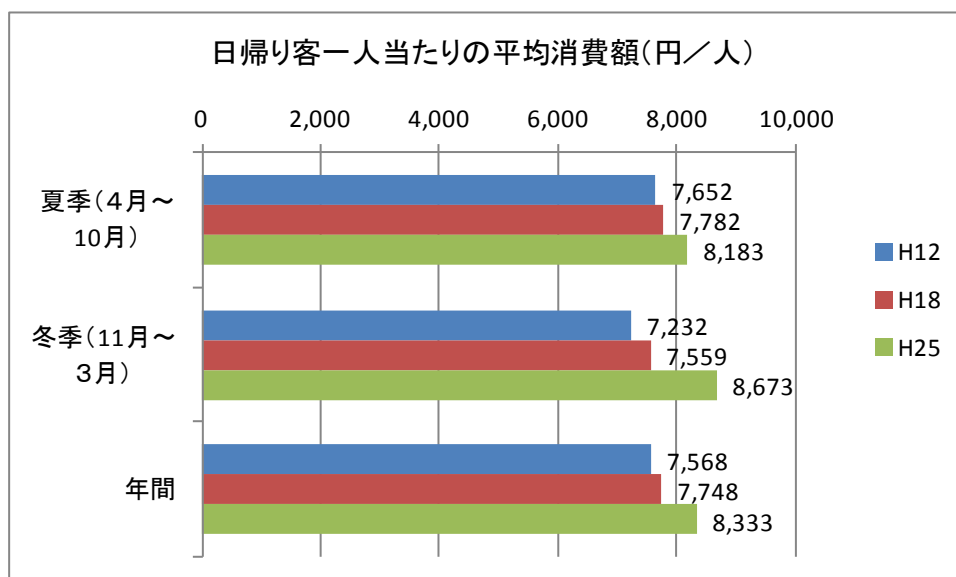
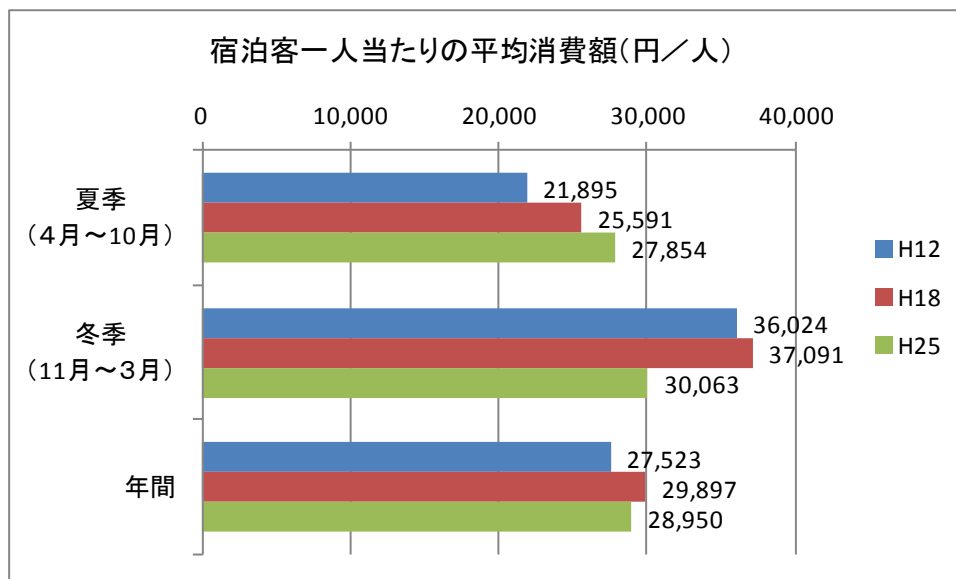
図表 2-2-35 観光消費実態調査に基づく年間観光総消費額の推計経過及び結果

番号	項目	夏季 (4月～10月)	冬季 (11月～3月)	年間
①	平成20年度観光客入込み数(人)	1,227,800	653,700	1,881,500
②	平成21年度観光客入込み数(人)	1,414,200	546,600	1,960,800
③	平成22年度観光客入込み数(人)	1,405,500	376,800	1,782,300
④	平成23年度観光客入込み数(人)	1,352,800	371,900	1,724,700
⑤	平成24年度観光客入込み数(人)	1,436,200	343,400	1,779,600
⑥	5カ年観光客入込み数平均値(人)	1,367,300	458,480	1,825,780
⑦	5カ年宿泊客割合平均値(%)	23.0%	25.0%	24.0%
⑧	推計された宿泊客数(人) (⑧=⑥×⑦)	314,479	114,620	438,187
⑨	推計された日帰り客数(人) (⑨=⑥-⑧)	1,052,821	343,860	1,387,593
⑩	宿泊客一人当たり平均消費額(円/人)	27,854	30,063	28,950
⑪	日帰り客一人当たり平均消費額(円/人)	8,183	8,673	8,333
⑫	宿泊客年間総消費額(千円) (⑫=⑧×⑩)	8,759,498	3,445,821	12,685,519
⑬	日帰り客年間総消費額(千円) (⑬=⑨×⑪)	8,615,234	2,982,298	11,562,811
⑭	年間総消費額(千円) (⑭=⑫+⑬)	17,374,732	6,428,119	24,248,330
⑮	夏季と冬季の合計総消費額(千円)	23,802,851		24,025,591

※⑮の行和と列和の平均（網掛け部分）24,025,591 千円を年間観光消費額として用いる。

図表 2-2-36 年間観光総消費額の推計結果の過去調査(H18、H12)との比較

	年間観光総消費額
今回調査	24,025,591 千円
前回調査(H18)	28,058,609 千円
前々回調査(H12)	27,239,449 千円



図表 2-2-37 観光消費実態調査に基づく年間観光総消費額の推計経過及び結果

平成 18 年

番号	項目	夏季 (4月～10月)	冬季 (11月～3月)	年間
①	平成13年度観光客入込み数(人)	1,261,679	856,832	2,118,511
②	平成14年度観光客入込み数(人)	1,613,805	876,279	2,490,084
③	平成15年度観光客入込み数(人)	1,732,523	722,595	2,455,118
④	平成16年度観光客入込み数(人)	1,344,007	687,151	2,031,158
⑤	平成17年度観光客入込み数(人)	1,404,744	666,254	2,070,998
⑥	5カ年観光客入込み数平均値(人)	1,471,352	761,822	2,233,174
⑦	5カ年宿泊客割合平均値(%)	22.01%	22.01%	22.01%
⑧	推計された宿泊客数(人) (⑧=⑥×⑦)	323,845	167,677	491,522
⑨	推計された日帰り客数(人) (⑨=⑥-⑧)	1,147,507	594,145	1,741,652
⑩	宿泊客一人当たり平均消費額(円/人)	25,591	37,091	29,897
⑪	日帰り客一人当たり平均消費額(円/人)	7,782	7,559	7,748
⑫	宿泊客年間総消費額(千円) (⑫=⑧×⑩)	8,287,517	6,219,308	14,695,033
⑬	日帰り客年間総消費額(千円) (⑬=⑨×⑪)	8,929,899	4,491,142	13,494,319
⑭	年間総消費額(千円) (⑭=⑫+⑬)	17,217,416	10,710,450	28,189,352
⑮	夏季と冬季の合計総消費額(千円)	27,927,866		28,058,609

図表 2-2-38 観光消費実態調査に基づく年間観光総消費額の推計経過及び結果
平成 12 年

番号	項目	夏季 (4月～10月)	冬季 (11月～3月)	年間
①	平成7年度観光客入込み数(人)	1,021,174	1,011,283	2,032,457
②	平成8年度観光客入込み数(人)	1,058,229	1,090,919	2,149,148
③	平成9年度観光客入込み数(人)	1,068,878	1,013,846	2,082,724
④	平成10年度観光客入込み数(人)	1,335,278	1,041,708	2,376,986
⑤	平成11年度観光客入込み数(人)	1,365,281	928,736	2,294,017
⑥	5カ年観光客入込み数平均値(人)	1,169,768	1,017,298	2,187,066
⑦	5カ年宿泊客割合平均値(%)	24.13%	24.13%	24.13%
⑧	推計された宿泊客数(人) (⑧=⑥×⑦)	282,265	245,474	527,739
⑨	推計された日帰り客数(人) (⑨=⑥-⑧)	887,503	771,824	1,659,327
⑩	宿泊客一人当たり平均消費額(円/人)	21,895	36,024	27,523
⑪	日帰り客一人当たり平均消費額(円/人)	7,652	7,232	7,568
⑫	宿泊客年間総消費額(千円) (⑫=⑧×⑩)	6,180,193	8,842,955	14,524,960
⑬	日帰り客年間総消費額(千円) (⑬=⑨×⑪)	6,791,173	5,581,831	12,557,787
⑭	年間総消費額(千円) (⑭=⑫+⑬)	12,971,365	14,424,787	27,082,747
⑮	夏季と冬季の合計総消費額(千円)	27,396,152		27,239,449

3 観光経済事業所調査

3-1 事業所調査の方法と回収結果

(1) 調査方法

- ・富良野市内の事業所に対してアンケート票を発送し、返信用封筒にて郵送による回収を行った。

(2) 調査対象事業所の抽出

- ・富良野商工会議所の商工部会の会員のうち、富良野市内に事業所を有する会員を抽出（594 件）した。

(3) 調査項目

- ・調査項目は以下のとおり（アンケート票は資料編参照）。

図表 3-1-1 アンケート調査項目

区分	内容
回答事業所の属性	所在地／業種／従業員数／年間総売上高／観光と売上との関連性
売上に占める経費率	原材料費／人件費／営業経費／その他
経費の支払い先別構成比	富良野市内／富良野圏域／その他道内／北海道外
富良野観光について	観光経済効果を大きくするための取り組み／観光振興に係る意見

(4) 回収結果

- ・アンケート発送票数 594 件に対して回収票数は 162 件であり、回収率は 27.3%となっている。

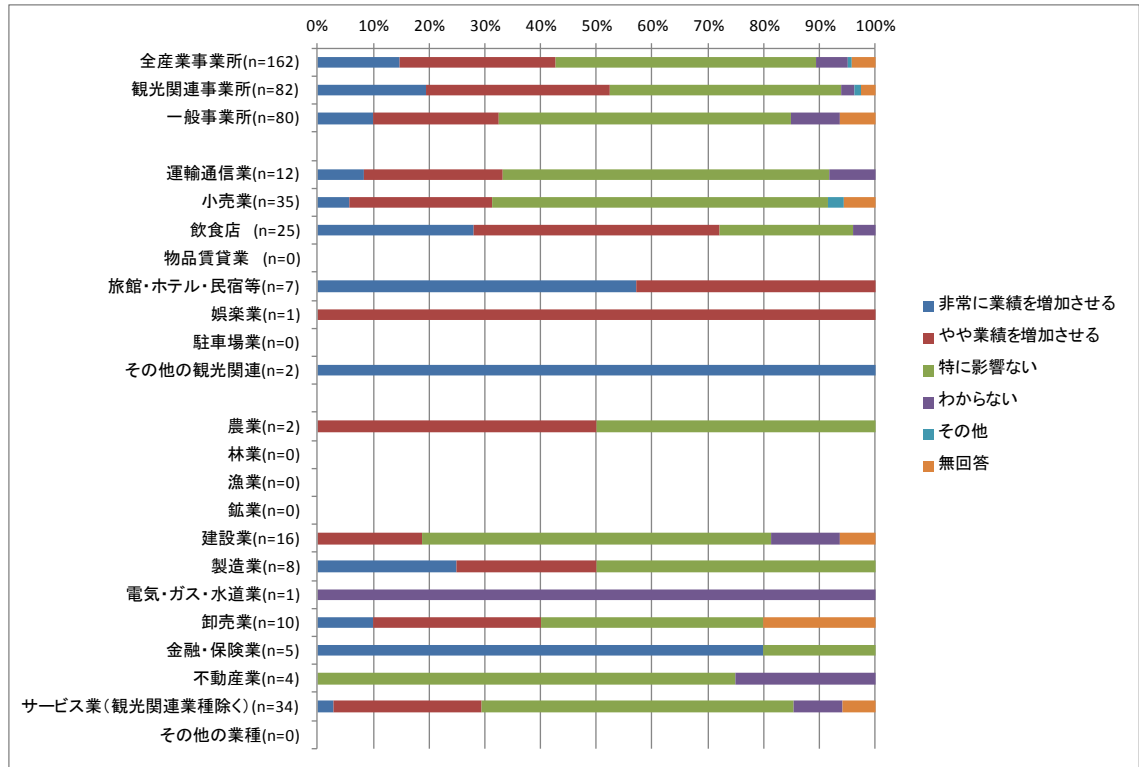
図表 3-1-2 アンケート回答事業者の業種別構成

	件数	構成比
全産業事業所	162	100%
観光関連事業所	82	51%
一般事業所	80	49%
【観光関連事業所】		
運輸通信業	12	7%
小売業	35	22%
飲食店	26	16%
物品賃貸業	0	0%
旅館・ホテル・民宿等	6	4%
娯楽業	1	1%
駐車場業	0	0%
その他(観光関連)	2	1%
【一般事業所】		
農業	2	1%
林業	0	0%
漁業	0	0%
鉱業	0	0%
建設業	16	10%
製造業	8	5%
電気・ガス・水道業	1	1%
卸売業	10	6%
金融・保険業	5	3%
不動産業	4	2%
サービス業(観光関連業除く)	34	21%
その他の業種	0	0%

3-2 事業所調査の結果

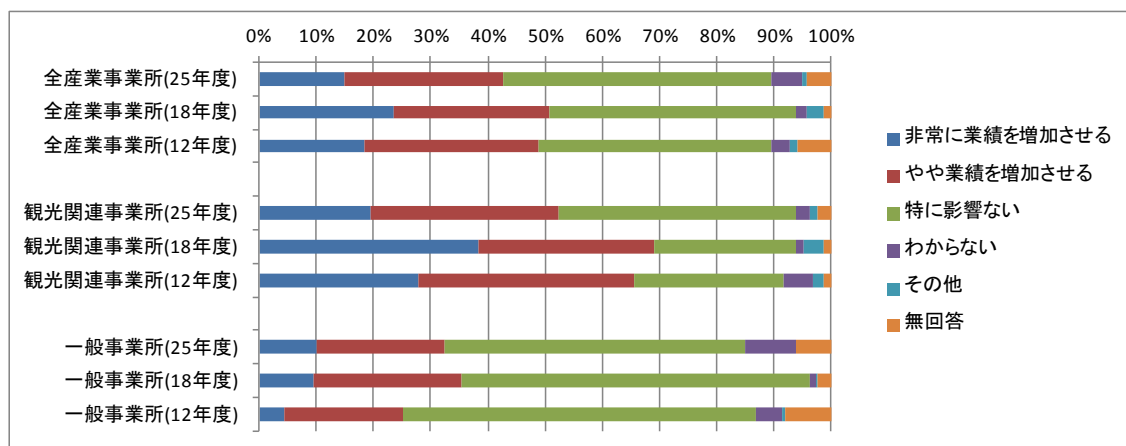
(1) 観光の事業所実績への影響

図表 3-2-1 観光客入込数増加と事業所実績の関係



	非常に業績を増加させる	やや業績を増加させる	特に影響ない	わからない	その他	無回答
全産業事業所(n=162)	14.8%	27.8%	46.9%	5.6%	0.6%	4.3%
観光関連事業所(n=82)	19.5%	32.9%	41.5%	2.4%	1.2%	2.4%
一般事業所(n=80)	10.0%	22.5%	52.5%	8.8%	-	6.3%
【観光関連事業所】						
運輸通信業(n=12)	8.3%	25.0%	58.3%	8.3%	-	-
小売業(n=35)	5.7%	25.7%	60.0%	-	2.9%	5.7%
飲食店 (n=25)	28.0%	44.0%	24.0%	4.0%	-	-
物品賃貸業 (n=0)	-	-	-	-	-	-
旅館・ホテル・民宿等(n=7)	57.1%	42.9%	-	-	-	-
娯楽業(n=1)	-	100.0%	-	-	-	-
駐車場業(n=0)	-	-	-	-	-	-
その他の観光関連(n=2)	100.0%	-	-	-	-	-
【一般事業所】						
農業(n=2)	-	50.0%	50.0%	-	-	-
林業(n=0)	-	-	-	-	-	-
漁業(n=0)	-	-	-	-	-	-
鉱業(n=0)	-	-	-	-	-	-
建設業(n=16)	-	18.8%	62.5%	12.5%	-	6.3%
製造業(n=8)	25.0%	25.0%	50.0%	-	-	-
電気・ガス・水道業(n=1)	-	-	-	100.0%	-	-
卸売業(n=10)	10.0%	30.0%	40.0%	-	-	20.0%
金融・保険業(n=5)	80.0%	-	20.0%	-	-	-
不動産業(n=4)	-	-	75.0%	25.0%	-	-
サービス業(観光関連業種除く)(n=34)	2.9%	26.5%	55.9%	8.8%	-	5.9%

図表 3-2-2 観光客入込数増加と事業所実績の関係（H18・H12 調査結果との比較）



	非常に業績を増加させる	やや業績を増加させる	特に影響ない	わからない	その他	無回答
全産業事業所(25年度)	14.8%	27.8%	46.9%	5.6%	0.6%	4.3%
全産業事業所(18年度)	23.6%	27.2%	43.0%	2.0%	3.0%	1.2%
全産業事業所(12年度)	18.3%	30.6%	40.7%	3.1%	1.5%	5.8%
観光関連事業所(25年度)	19.5%	32.9%	41.5%	2.4%	1.2%	2.4%
観光関連事業所(18年度)	38.3%	30.9%	24.7%	1.2%	3.7%	1.2%
観光関連事業所(12年度)	27.9%	37.6%	26.2%	5.0%	2.1%	1.2%
一般事業所(25年度)	10.0%	22.5%	52.5%	8.8%	0.0%	6.3%
一般事業所(18年度)	9.5%	26.0%	60.7%	1.2%	0.2%	2.4%
一般事業所(12年度)	4.5%	20.7%	61.7%	4.5%	0.5%	8.1%

(2) 観光関連雇用者の特性

- ・常用従業員数をみると、全産業事業所は 9.2 人と前回調査（8.5 人）を上回っているが、この内訳をみると観光関連事業所 5.2 人（前回調査 8.2 人）、一般事業所 13.3 人（前回調査 8.8 人）となっており、前回調査と比較して、観光関連事業所は規模が小さいところ、一般事業所は規模が大きいところからの回答が多くなっていることが読み取れる。
- ・これを反映し、事業所一カ所当たりの観光関連従業者数は、1.1 人と、前回調査（3.3 人）に比べて減少した。このうち、旅館・ホテル・民宿等は 2.7 人となっており、前回調査（17.1 人）と比較すると同じく減少しており、回答事業所の規模によって数値が変動することが読み取れる。

図表 3-2-3 業種別の事業所一カ所当たり平均従業者数

	常用従業員数 人/ヶ所	臨時雇用者数 人/ヶ所	合計 人/ヶ所	観光客関連従業者数 人/ヶ所	観光関連業者従業者数 人/ヶ所
全産業事業所	9.2	7.5	16.7	1.2	1.5
観光関連事業所	5.2	4.6	9.9	1.1	1.0
一般事業所	13.3	11.7	25.0	0.6	2.0
【観光関連事業所】					
運輸通信業	16.2	21.2	37.4	0.7	3.1
小売業	3.4	0.9	4.3	0.1	0.3
飲食店	2.1	3.7	5.9	1.3	0.8
物品賃貸業	-	-	-	-	-
旅館・ホテル・民宿等	6.7	3.5	10.2	2.7	2.7
娯楽業	0.0	0.0	0.0	0.0	-
駐車場業	-	-	-	-	-
その他（観光関連）	13.0	2.0	15.0	1.8	1.5
【一般事業所】					
農業	8.5	1.0	9.5	0.0	0.1
林業	-	-	-	-	-
漁業	-	-	-	-	-
鉱業	-	-	-	-	-
建設業	8.7	3.5	12.1	0.0	0.5
製造業	17.3	-	17.3	0.0	0.0
電気・ガス・水道業	30.0	-	30.0	0.0	0.0
卸売業	5.1	3.0	8.1	0.2	1.9
金融・保険業	7.2	7.0	14.2	1.0	2.5
不動産業	12.5	0.5	13.0	0.1	0.0
サービス業（観光関連業除く）	17.7	15.5	33.3	0.5	1.1
その他の業種	-	-	-	-	-

注 1：従業員等算出方法＝各種従業者数総計／各質問回答事業所数

注 2：観光客関連従業者数等算出方法＝各種事業所一箇所当たり平均従業者数×観光客関連売上割合または観光関連事業者売上割合（図表 3-2-4 より）

(3) 平均総売上高及び売上高構成比

図表 3-2-4 業種別の平均総売上高及び平均観光客関連・観光関連事業者売上高

	平均総売上高 (百万円)	事業所数 (ヶ所)	観光客関連 売上割合 (%)	観光関連業者 売上割合 (%)	観光客関連 売上高 (百万円)	観光関連業者 売上高 (百万円)
全産業事業所	227.4	163	15.8	9.2	35.9	21
観光関連事業所	131.2	83	24.4	10.4	32.1	13.6
一般事業所	349.5	80	5	7.9	17.5	27.5
(観光関連業種別)						
運輸通信業	427.7	12	3.3	8.3	14.3	35.4
小売業	106.5	35	8	7.6	8.5	8.1
飲食業	24	25	34.1	13.2	8.2	3.2
物品賃貸業	-	-	-	-	-	-
旅館・ホテル・民宿等	73.5	7	75.7	27	55.7	19.8
娯楽業	43	1	100	-	-	-
駐車場業	-	0	-	-	-	-
その他の業種	72	2	90	10	64.8	7.2
(一般業種別)						
農業	225	2	0	1	0	2.3
林業	-	0	-	-	-	-
漁業	-	0	-	-	-	-
鉱業	-	0	-	-	-	-
建設業	548.6	16	0	4.2	0	23.2
製造業	-	8	-	-	-	-
電気・ガス・水道業	-	1	-	-	-	-
卸売業	199.3	10	6.1	23.4	12.2	46.7
金融・保険業	15	5	13.7	17.5	2.1	2.6
不動産業	170.5	4	25	0	42.6	0
サービス業(観光関連業種除く)	276.7	34	3.3	3.3	9.1	9.1
その他の業種	-	0	-	-	-	-

注1：算出方法＝各種売上高または各種売上割合総計／各質問回答事業所数

注2：観光客関連売上高の算出経過について

- 平均総売上高を事業所数で除した観光客関連売上高は、3,210 万円となり、前回調査の 7,300 万円の半分以下となっている。
- 今回調査と前回調査の数値の差異は、前回の旅館・ホテル・民宿等の観光客関連売上高 (271 百万円、今回 55.7 百万円) に牽引されたことや、観光客関連売上割合が 30.5%と、今回調査 (24.4%) より高かったことが影響している。また、前回調査は旅館・ホテル・民宿等からの回答が 15 件 (今回 7 件) で、前回調査には売上高の高い宿泊施設が多く含まれていたと考えられる。
- そこで、旅館・ホテル・民宿等の数値補正を検討したが、前回調査では観光関連事業所 (回答事業所数 74 件) の 20%を旅館・ホテル・民宿等が占めていたのに対し、今回調査は 9% (=7÷82) で観光客関連売上高全体に与える影響は限定的であることから、売上総額を事業所数で除した 3,210 万円をそのまま採用した。

図表 3-2-5 業種別の平均総売上高及び平均観光客関連・観光関連事業者売上高の経年比較

	平均総売上高 (百万円)			観光関連業者売上高 (百万円)		
	平成12年	平成18年	平成25年	平成12年	平成18年	平成25年
全産業事業所	345.0	256.1	227.4	8.0	21.0	21.0
観光関連事業所	155.0	257.9	131.3	9.0	28.0	13.6
一般事業所	653.0	254.3	349.5	7.0	13.0	27.5

(観光関連業種別)

運輸通信業	314.0	414.3	427.7	12.0	41.0	354.0
小売業	183.0	253.3	106.5	9.0	14.0	8.1
飲食業	32.0	131.4	24.0	2.0	5.0	3.2
物品賃貸業	38.0	115.5	—	4.0	3.0	—
旅館・ホテル・民宿等	187.0	379.5	73.5	9.0	86.0	19.8
娯楽業	1,095.0	65.0	43.0	0.0	—	—
駐車場業	22.0	—	—	0.0	—	—
その他の業種	122.0	82.5	72.0	14.0	45.0	7.2

(一般業種別)

農業	182.0	—	225.0	1.0	—	2.3
林業	554.0	—	—	0.0	—	—
漁業	—	—	—	—	—	—
鉱業	145.0	139.0	—	0.0	0.0	—
建設業	861.0	230.9	548.6	12.0	0.0	23.2
製造業	651.0	309.8	—	13.0	2.0	—
電気・ガス・水道業	228.0	—	—	8.0	—	—
卸売業	352.0	417.2	199.3	15.0	3.0	46.7
金融・保険業	6,856.0	120.0	15.0	0.0	—	2.6
不動産業	129.0	207.0	170.5	1.0	100.0	0.0
サービス業(観光関連業種除く)	114.0	179.4	276.7	1.0	10.0	9.1
その他の業種	454.0	501.0	—	6.0	—	—

図表 3-2-5 業種別の売上高構成比と付加価値率

	原材料費 (%)	人件費 (%)	営業経費 (%)	その他 (%)	付加価値率	一事業所当たり 付加価値額 (百万円)
全産業事業所	41.5	26.9	17.8	13.8	0.406	92.4
観光関連事業所	43.6	25.0	18.0	13.4	0.385	50.5
一般事業所	38.8	29.3	17.7	14.2	0.435	152.2
(観光関連業種別)						
運輸通信業	39.8	40.1	14.1	6.0	0.461	197.2
小売業	55.1	18.7	14.8	11.4	0.302	32.1
飲食業	34.5	25.0	21.0	19.6	0.446	10.7
物品賃貸業	—	—	—	—	—	—
旅館・ホテル・民宿等	27.2	22.0	29.2	21.7	0.437	32.1
駐車場業	—	—	—	—	—	—
娯楽業	—	—	—	—	—	—
その他の業種	40.0	50.0	10.0	0.0	0.500	36.0
(一般業種別)						
農業	64.5	15.5	11.0	9.0	0.245	55.1
林業	—	—	—	—	—	—
漁業	—	—	—	—	—	—
鉱業	—	—	—	—	—	—
建設業	42.3	27.0	17.8	13.0	0.400	219.2
製造業	—	—	—	—	—	—
電気・ガス・水道業	—	—	—	—	—	—
卸売業	71.3	14.6	7.8	6.4	0.210	41.8
金融・保険業	35.0	10.0	35.0	20.0	0.300	4.5
不動産業	27.0	30.0	41.0	2.0	0.320	54.6
サービス業(観光関連業種除く)	22.5	37.4	20.6	19.6	0.569	157.5
その他の業種	—	—	—	—	—	—

(4) 各種経費の調達先・支払先

図表 3-2-6 原材料費の業種別調達先

		富良野市内 (%)	富良野圏域 (%)	その他道内 (%)	北海道外 (%)
全産業事業所		33.6	11.7	40.2	14.6
観光関連事業所		39.2	11.2	31.0	18.6
一般事業所		25.6	12.5	52.7	9.2
観光 関 連 業 種	運輸通信業	54.1	20.3	11.0	14.6
	小売業	27.9	4.4	41.1	26.6
	飲食業	43.5	16.0	29.8	10.7
	物品賃貸業	—	—	—	—
	旅館・ホテル・民宿等	65.6	12.8	19.2	2.4
	娯楽業	—	—	—	—
	駐車場業	—	—	—	—
	その他の業種	50.0	20.0	30.0	—
一 般 業 種	農業	10.0	0.0	75.0	15.0
	林業	—	—	—	—
	漁業	—	—	—	—
	鉱業	—	—	—	—
	建設業	26.9	10.9	62.2	0.0
	製造業	—	—	—	—
	電気・ガス・水道業	—	—	—	—
	卸売業	11.4	19.6	61.3	7.6
	金融・保険業	70.0	30.0	—	—
	不動産業	40.0	20.0	40.0	—
	サービス業(観光関連業種除く)	34.3	10.4	46.7	8.6
	その他の業種	—	—	—	—

注：算出方法＝各種原材料費調達割合総計／各質問回答事業所数

図表 3-2-7 原材料費の業種別調達先の経年変化

	富良野市内 (%)	富良野圏域 (%)	その他道内 (%)	北海道外 (%)
平成12年	36.3	10.9	35.7	17.1
平成18年	36.4	8.6	41.9	8.2
平成25年	33.6	11.7	40.2	14.6

		富良野市内			富良野圏域		
		平成12年	平成18年	平成25年	平成12年	平成18年	平成25年
全産業事業所		36.3	36.4	33.6	10.9	8.6	11.7
観光関連事業所		35.9	46.2	39.2	9.8	10.8	11.2
一般事業所		36.8	26.2	25.6	12.6	6.3	12.5
観光 関連 業種	運輸通信業	44.6	70.0	54.1	15.6	6.9	20.3
	小売業	26.9	30.4	27.9	6.9	7.3	4.4
	飲食業	39.5	54.3	43.5	9.9	16.5	16.0
	物品賃貸業	10.0	37.5	—	0.0	5.0	—
	旅館・ホテル・民宿等	50.0	52.1	65.6	12.5	14.5	12.8
	娯楽業	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
	駐車場業	100.0	—	—	0.0	—	—
その他の業種		29.9	70.0	50.0	11.6	5.0	20.0
一般 業種	農業	30.1	—	10.0	24.0	—	0.0
	林業	57.0	—	—	41.0	—	—
	漁業	—	—	—	—	—	—
	鉱業	0.0	53.0	—	0.0	32.0	—
	建設業	54.8	46.2	26.9	11.9	2.6	10.9
	製造業	22.4	13.1	—	3.5	1.9	—
	電気・ガス・水道業	9.9	—	—	9.1	—	—
	卸売業	26.5	19.1	11.4	37.3	4.6	19.6
	金融・保険業	66.0	0.0	70.0	20.6	0.0	30.0
	不動産業	40.0	25.0	40.0	0.0	16.7	20.0
	サービス業(観光関連業種除く)	29.0	21.4	34.3	11.3	10.1	10.4
	その他の業種	41.2	10.0	—	6.3	0.0	—

図表 3-2-8 営業経費の業種別支払先

		富良野市内 (%)	富良野圏域 (%)	その他道内 (%)	北海道外 (%)
全産業事業所		67.4	10.6	18.0	4.0
観光関連事業所		66.4	12.2	16.5	4.9
一般事業所		68.5	8.7	20.0	2.8
観光 関連 業種	運輸通信業	66.7	13.8	15.9	3.6
	小売業	63.6	11.9	22.1	2.4
	飲食業	64.2	13.8	11.7	10.3
	物品賃貸業	—	—	—	—
	旅館・ホテル・民宿等	81.0	4.6	12.1	2.3
	娯楽業	—	—	—	—
	駐車場業	—	—	—	—
	その他の業種	—	—	—	—
一般 業種	農業	40.0	2.5	50.0	7.5
	林業	—	—	—	—
	漁業	—	—	—	—
	鉱業	—	—	—	—
	建設業	79.2	11.8	7.8	1.1
	製造業	—	—	—	—
	電気・ガス・水道業	—	—	—	—
	卸売業	53.1	4.8	38.3	3.8
	金融・保険業	—	—	—	—
	不動産業	—	—	—	—
	サービス業(観光関連業種除く)	68.4	9.8	20.0	1.9
	その他の業種	—	—	—	—

注：算出方法＝各種営業経費調達割合総計／各質問回答事業所数

図表 3-2-9 営業経費の業種別支払先（経年変化）

	富良野市内 (%)	富良野圏域 (%)	その他道内 (%)	北海道外 (%)
平成12年	56.0	13.1	20.3	10.6
平成18年	73.4	9.7	13.4	3.1
平成25年	67.4	10.6	18.0	4.0

		富良野市内			富良野圏域		
		平成12年	平成18年	平成25年	平成12年	平成18年	平成25年
全産業事業所		56.0	73.4	67.4	10.9	9.7	10.6
観光関連事業所		52.1	74.9	66.4	9.8	8.1	12.2
一般事業所		62.8	72.0	68.5	12.6	11.3	8.7
観光 関連 業種	運輸通信業	54.7	85.0	66.7	15.6	8.3	13.8
	小売業	57.9	68.5	63.6	6.9	13.3	11.9
	飲食業	56.9	85.9	64.2	9.9	0.7	13.8
	物品賃貸業	40.0	40.3	—	0.0	5.5	—
	旅館・ホテル・民宿等	48.3	68.5	81.0	12.5	8.8	4.6
	娯楽業	62.1	100.0	—	0.0	0.0	—
	駐車場業	88.7	—	—	0.0	—	—
	その他の業種	42.4	90.0	—	11.6	5.0	—
一般 業種	農業	48.0	—	40.0	24.0	—	2.5
	林業	49.6	—	—	41.0	—	—
	漁業	—	—	—	—	—	—
	鉱業	0.0	59.0	—	0.0	28.0	—
	建設業	78.7	89.5	79.2	11.9	3.5	11.8
	製造業	43.5	67.5	—	3.5	5.1	—
	電気・ガス・水道業	60.3	—	—	9.1	—	—
	卸売業	65.7	70.1	53.1	37.3	11.0	4.8
	金融・保険業	54.1	90.0	—	20.6	0.0	—
	不動産業	100.0	30.0	—	0.0	53.3	—
	サービス業(観光関連業種除く)	66.9	67.7	68.4	11.3	11.1	9.8
	その他の業種	65.6	50.0	—	6.3	50.0	—

図表 3-2-10 人件費の業種別支払先

		富良野市内 (%)	富良野圏域 (%)	その他道内 (%)	北海道外 (%)
全産業事業所		81.0	13.4	4.8	0.8
観光関連事業所		84.4	10.2	5.0	0.3
一般事業所		77.9	16.3	4.6	1.2
観光 関 連 業 種	運輸通信業	82.9	10.6	5.9	0.6
	小売業	87.2	5.1	7.7	0.0
	飲食業	81.0	18.3	0.0	0.7
	物品賃貸業	—	—	—	—
	旅館・ホテル・民宿等	92.9	7.1	0.0	0.0
	娯楽業	—	—	—	—
	駐車場業	—	—	—	—
	その他の業種	—	—	—	—
一 般 業 種	農業	100.0	0.0	0.0	0.0
	林業	—	—	—	—
	漁業	—	—	—	—
	鉱業	—	—	—	—
	建設業	79.1	17.7	3.2	0.0
	製造業	—	—	—	—
	電気・ガス・水道業	—	—	—	—
	卸売業	80.9	17.0	2.1	0.0
	金融・保険業	—	—	—	—
	不動産業	—	—	—	—
	サービス業(観光関連業種除く)	79.1	16.3	4.6	0.0
	その他の業種	—	—	—	—

注：算出方法＝各種人件費調達割合総計／各質問回答事業所数

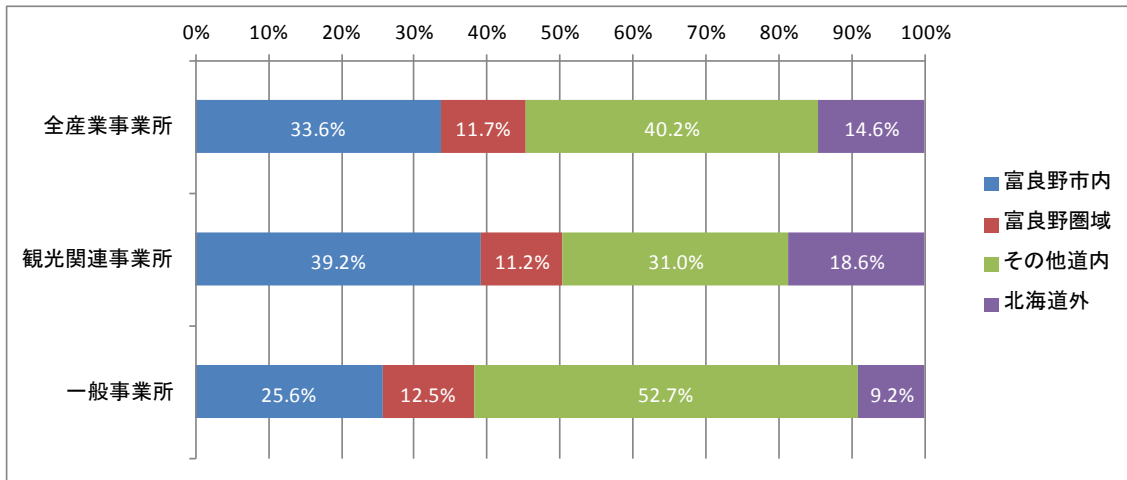
図表 3-2-11 人件費の業種別支払先（経年比較）

	富良野市内 (%)	富良野圏域 (%)	その他道内 (%)	北海道外 (%)
平成12年	62.2	17.7	9.2	10.9
平成18年	81.7	10.7	3.3	1.9
平成25年	81.0	13.4	4.8	0.8

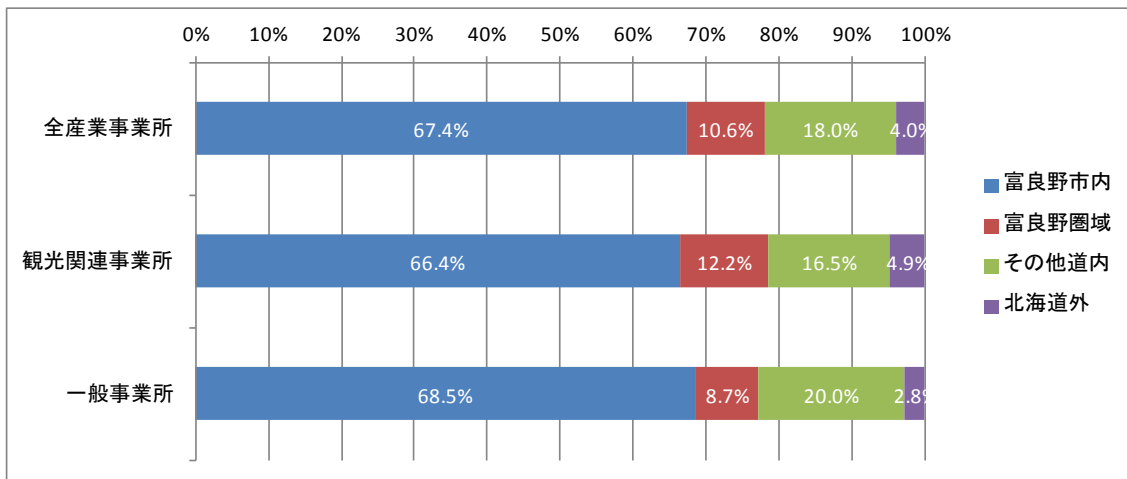
		富良野市内			富良野圏域		
		平成12年	平成18年	平成25年	平成12年	平成18年	平成25年
全産業事業所		62.2	81.7	81.0	17.7	10.7	13.4
観光関連事業所		55.9	83.3	84.4	18.1	7.8	10.2
一般事業所		71.8	80.0	77.9	18.2	13.7	16.3
観光 関連 業種	運輸通信業	77.9	78.7	82.9	12.1	11.0	10.6
	小売業	70.5	82.0	87.2	19.4	11.5	5.1
	飲食業	62.3	91.8	81.0	18.4	6.6	18.3
	物品賃貸業	86.0	100.0	—	14.0	0.0	—
	旅館・ホテル・民宿等	48.6	79.5	92.9	24.2	3.4	7.1
	娯楽業	95.1	0.0	—	4.9	0.0	—
	駐車場業	100.0	—	—	0.0	—	—
	その他の業種	44.5	95.0	—	22.9	0.0	—
一般 業種	農業	38.2	—	100.0	20.9	—	0.0
	林業	61.6	—	—	38.4	—	—
	漁業	—	—	—	—	—	—
	鉱業	100.0	66.0	—	0.0	17.0	—
	建設業	75.8	83.8	79.1	19.5	0.4	17.7
	製造業	58.5	77.0	—	18.7	16.0	—
	電気・ガス・水道業	82.2	—	—	8.9	—	—
	卸売業	77.0	91.5	80.9	23.0	0.9	17.0
	金融・保険業	66.0	80.0	—	21.4	20.0	—
	不動産業	85.7	52.3	—	14.3	0.3	—
	サービス業(観光関連業種除く)	76.7	77.0	79.1	10.3	1.7	16.3
	その他の業種	76.9	80.0	—	16.2	5.0	—

図表 3-2-12 原材料費、営業経費、人件費の調達先・支払先比較

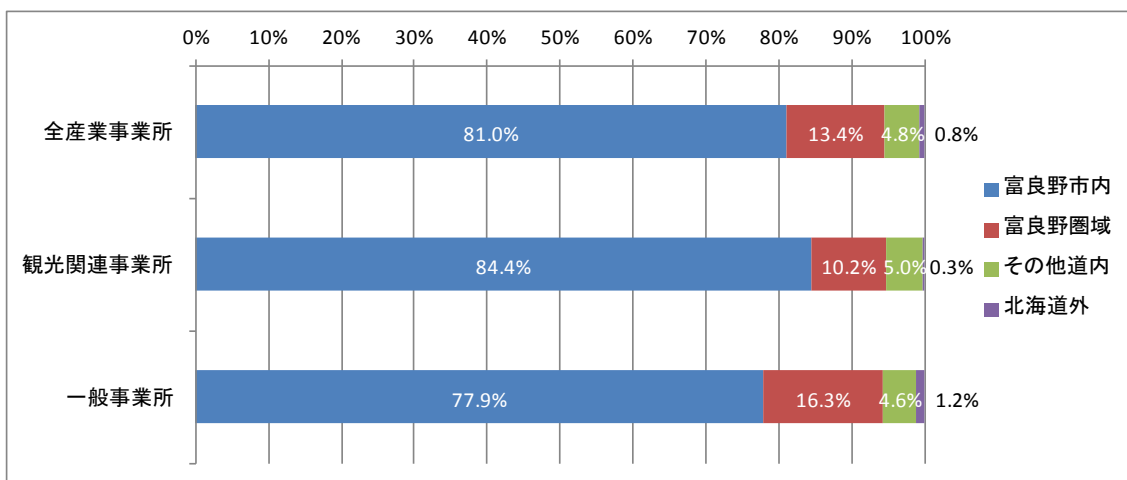
【原材料費】



【営業経費】



【人件費】



(5) 市内事業所の観光関連性、付加価値特性及び調達・支払地域特性

①業種別の観光関連特性

- ・観光関連売上高は、観光関連事業所は 32.1 百万円と前回調査を大幅に下回り、一般事業所は 17.5 百万円と前回調査を上回る結果となっている。観光関連業者売上高においても同様の傾向がみられる。
- ・観光客関連売上高を業種別にみると、旅館・ホテル・民宿等（55.7 百万円）やその他の業種（観光関連団体、64.8 百万円）が多くなっている。
- ・観光関連業以外の一般業種についても、不動産業や卸売業等のように、相対的観光客関連売上高が高い事業所もあることが確認された（不動産業事業所は、複数業種を展開している事業所からの回答であり、不動産業以外の売上と考えられる）。

②業種別の付加価値特性

- ・付加価値率（人件費比率＋その他比率）は全産業事業所で 0.406、観光関連事業所で 0.385、一般事業所で 0.435 と前回調査とほぼ同等の結果が得られた。
- ・全産業事業所、観光関連事業所ともに、人件費の比率が前回をやや上回ったことにより、付加価値率の上昇がみられる。
- ・観光関連事業所の付加価値率をみると、運輸通信業や旅館・ホテル・民宿等において付加価値率が 0.400 を超える水準となっている。
- ・一事業所当たりの付加価値額をみると、観光関連事業所は 50.5 百万円であるのに対し、一般事業所は 152.2 百万円となっている。これは既述のとおり、一般事業所に相対的に規模の大きい企業が含まれていることによると考えられる。
- ・観光関連事業所の一事業所あたり付加価値額をみると、運輸通信業は 2 億円近くになっている。旅館・ホテル・民宿等は 32.1 百万円となっている。飲食業は 10.7 百万円と他の観光関連事業所と比べるとやや低い値となっている（小規模事業所が多いことを反映していると考えられる）。

③観光関連事業所の調達・支払地域特性

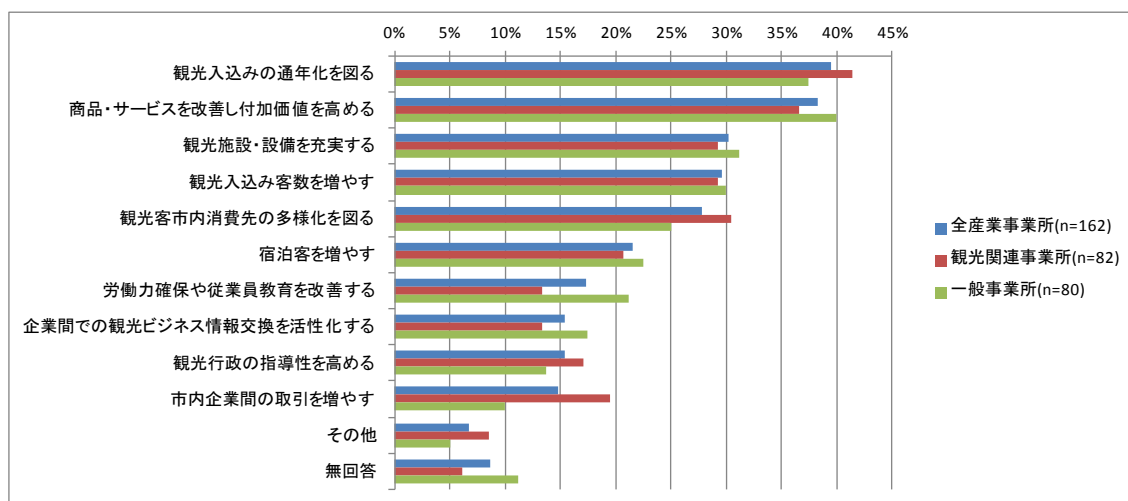
- ・原材料費の調達先をみると、前回調査と比較して富良野市内が減少し、富良野圏域では増加している。詳細は後述するが、市内消費率（富良野市内居住者が富良野市内で消費する比率）も減少しており、需要側・供給側ともに、近隣の圏域も含め市外との取引が増えていることを示唆している。
- ・観光関連事業所の原材料費調達先をみると、富良野市内での比率が前回調査を上回っている。回答事業者に小規模事業者が多く含まれ、地元事業者との取引が多いことによるものと考えられる。
- ・営業経費の支払先をみると、原材料費と同様、前回調査と比較して富良野市内が減少し、富良野圏域では増加している。

- ・人件費については、富良野市内については前回調査とほぼ同等の水準にあり、富良野圏域は前回調査を上回っている。これは、富良野市内企業に勤務する従業員が増加したことを示唆している。

(6) 市内観光経済効果拡大方策

- ・市内観光経済効果を拡大させる方策について尋ねたところ、「観光入込の通年化」、「商品・サービスを改善し付加価値を高める」といった回答が特に多くなっている。
- ・観光関連事業者と一般事業所において傾向は類似しているが、「労働力確保や従業員教育を改善する」と「企業間での観光ビジネス情報交換を活性化する」は一般事業所の回答率が高く、「観光客市内消費先の多様化を図る」「観光行政の指導性を高める」「市内企業間の取引を増やす」は観光関連事業者の回答率が高くなっている。

図表 3-2-10 富良野市内の観光経済効果をより大きくするために有効な取組み



	企業間での観光ビジネス情報交換を活性化する	市内企業間の取引を増やす	観光入込み客数を増やす	観光入込みの通年変化を図る	宿泊客を増やす	観光施設・設備を充実する	商品・サービスを改善し付加価値を高める	観光客市内消費先の多様化を図る	労働力確保や従業員教育を改善する	観光行政の指導性を高める	その他	無回答
全産業事業所(n=162)	15.4%	14.8%	29.6%	39.5%	21.6%	30.2%	38.3%	27.8%	17.3%	15.4%	6.8%	8.6%
観光関連事業所(n=82)	13.4%	19.5%	29.3%	41.5%	20.7%	29.3%	36.6%	30.5%	13.4%	17.1%	8.5%	6.1%
一般事業所(n=80)	17.5%	10.0%	30.0%	37.5%	22.5%	31.3%	40.0%	25.0%	21.3%	13.8%	5.0%	11.3%
【観光関連事業所】												
運輸通信業(n=12)	8.3%	33.3%	25.0%	16.7%	16.7%	41.7%	58.3%	25.0%	8.3%	8.3%	8.3%	-
小売業(n=35)	17.1%	25.7%	37.1%	40.0%	14.3%	34.3%	17.1%	48.6%	11.4%	5.7%	5.7%	5.7%
飲食店 (n=25)	12.0%	8.0%	28.0%	52.0%	28.0%	12.0%	48.0%	20.0%	20.0%	24.0%	4.0%	8.0%
物品賃貸業 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
旅館・ホテル・民宿等(n=7)	-	-	14.3%	57.1%	14.3%	28.6%	28.6%	-	-	42.9%	28.6%	14.3%
娯楽業(n=1)	-	100.0%	-	-	-	-	100.0%	-	100.0%	-	-	-
駐車場業(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の観光関連(n=2)	50.0%	-	-	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	-	100.0%	50.0%	-
【一般事業所】												
農業(n=2)	-	-	-	50.0%	-	50.0%	100.0%	-	100.0%	-	-	-
林業(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
漁業(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鉱業(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建設業(n=16)	6.3%	12.5%	25.0%	50.0%	6.3%	25.0%	31.3%	18.8%	18.8%	-	6.3%	31.3%
製造業(n=8)	12.5%	12.5%	50.0%	37.5%	12.5%	25.0%	50.0%	37.5%	37.5%	25.0%	-	-
電気・ガス・水道業(n=1)	-	-	-	100.0%	-	100.0%	-	100.0%	-	-	-	-
卸売業(n=10)	20.0%	40.0%	40.0%	30.0%	30.0%	20.0%	30.0%	30.0%	20.0%	10.0%	10.0%	-
金融・保険業(n=5)	80.0%	20.0%	40.0%	60.0%	-	-	60.0%	20.0%	-	20.0%	-	-
不動産業(n=4)	25.0%	-	25.0%	50.0%	50.0%	50.0%	25.0%	-	-	-	-	25.0%
サービス業(観光関連業種除く)(n=34)	14.7%	-	26.5%	26.5%	32.4%	38.2%	41.2%	26.5%	20.6%	20.6%	5.9%	8.8%
その他の業種(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

4 観光経済波及効果計測

4-1 効果計測の経過

(1) 年間観光総消費額または観光関連産業売上高の設定

ある期間の「年間観光総消費額」と「観光関連事業所観光客関連総売上高」は、理論的には等しくなるが、本調査で得られた両者の金額を比較すると、以下のようになる。

事業所基礎調査結果より得られた観光関連事業所の平均観光客関連売上高は 32.1 百万となっている。これは前回調査の 73 百万円を大きく下回る。これは、事業所アンケート調査が任意回答に基づくため、前回と回答企業の内訳が異なっているものによると考えられる。

次に国の経済センサスに基づく富良野市内の総事業所数は 1,243 カ所(前回 1,214 ケ所)となっている。このうち観光関連事業所数は、経済センサスでは前回調査(事業所・企業調査)と同様の観光関連事業所数の推定ができないため、前回調査の割合を踏襲し、44.6%とする。

これにより、観光関連事業所観光客関連総売上高は、

$$\begin{aligned} & \text{平均観光客関連売上高} \times (\text{富良野市内観光関連事業所数}) \\ &= 32.1 \text{ 百万円} \times (1,243 \times 0.446) \\ &= \underline{17,795} \text{ 百万円} \end{aligned}$$

となる。

下表に、前回調査との比較を行ったが、観光関連事業観光客関連総売上高の数値は乱高下している。これは、アンケート回答企業数や回答企業の売上の偏り等によるものと考えられる。そこで、今回調査においては、年間観光総消費額(24,023 百万円)を観光関連産業売上高として採用する。この数値は、観光客調査(需要側)の数字をそのまま適用することになるが、前回調査時から観光客の入込が約 2 割減少しており、前回の観光関連産業売上高 30,110 百万円の 8 割と、今回の年間観光総消費額は近い数字となるため、妥当な数値と考えられる。

図表 4-1-1 年間観光関連売上高の推定

	年間観光総消費額	観光関連事業観光客関連総売上高	採用された観光関連産業売上高
今回調査	24,023 百万円	17,795 百万円	24,023 百万円
前回調査(H18)	28,059 百万円	39,493 百万円	30,110 百万円 (=28,059 × (29,231/27,239)) ※前々回調査の比
前々回調査(H12)	27,239 百万円	29,231 百万円	29,231 百万円

(2) 市内消費率（m）の設定

①本市の市内従業市外居住者流入分含まない市内消費率の推定

平成 24 年家計調査年報より、北海道の品目別消費支出を抽出し、市内消費率に乘じて市内消費金額を推計した。

下表に示すとおり、富良野市内消費率（市内従業市外居住者流入分を含まない）は、0.688（前回調査 0.827）と推定された。

この結果は、前回調査を大きく下回っているが、平成 21 年度北海道広域商圈動向調査報告書における富良野市の全商品自市内利用割合（消費率に相当）は 0.626（平成 4 年度同調査 0.788）と、本調査の結果と近い数字であることから、妥当な推計結果といえる。

図表 4-1-2 富良野市 1 世帯当たりの消費支出額、市内消費率、市内消費金額
（市外流入分含まず）

品目種別	消費支出額(円)	市内消費率	市内消費金額(円)
①食料(穀類、魚介類、肉類、乳卵類、野菜・海藻、果物、油脂・調味料、菓子類、調理食品、飲料、酒類、外食)	683,468	0.841	574,797
②住居(家賃地代、調理食品、飲料、酒類、外食)	207,529	0.931	193,209
③光熱・水道(電気代、ガス代、他の光熱、上下水道料)	280,345	0.990	277,542
④家具・家事(家庭用耐久財、室内装飾・装飾品、寝具類、家事雑費、家事用消耗品、家事サービス)	95,691	0.671	64,179
⑤被服及び履物(和服、洋服、シャツ・セーター類、下着類、生地・糸類、他の被服、履物類、被服関連サービス)	108,454	0.433	47,014
⑥保健医療(医薬品、健康保持用摂取品、保健医療用品・器具、保健医療サービス)	130,184	0.569	74,080
⑦交通・通信(交通、自動車等関係費、通信)	390,488	0.792	309,149
⑧教育(授業料等、教科書・学習参考教材、補習教育)	55,224	0.737	40,675
⑨教養娯楽(教養娯楽用耐久財、教養娯楽用品、書籍・他の印刷物、教養娯楽サービス)	294,693	0.587	172,882
⑩その他の消費支出(諸雑費、こづかい(使途不明)、交際費、仕送り金)	533,426	0.298	158,844
消費支出合計	2,779,504	0.688	1,912,371

（出所）総務省統計局「家計調査年報（平成 24 年）」

【参考：各項目の消費率の導出方法】

①食料（0.841）

- ・道広域商圈調査（平成 21 年、以下同じ）の富良野市内消費率（以下、市内消費率）は、生鮮食料品が 0.854、一般食料品が 0.828。
- ・以上から、食料の市内消費率を両者の平均値（0.841）とする。

②住居（0.931）

- ・家計調査年報（平成 24 年、以下同じ）における、全道の住居関連消費額に占める家賃地代は 62%、設備修繕・維持は 38%。
- ・市外に郊外住宅地が少ないため、家賃地代の市内消費率を 0.950（95%）とする。
- ・市外の工事業者割合が低いいため、設備修繕・維持の市内消費率を 0.900（90%）とする。
- ・以上から、住居の市内消費率を両者の加重平均値 0.931（ $=0.95 \times 0.62 + 0.90 \times 0.38$ ）とする。

③光熱、水道（0.990）

- ・電気、ガス、灯油、上下水道の供給事業所は、全て市内に集積し近隣町村には競合する事業

所がほとんどないことから、市内消費率を 0.990 (99%) とする (前回調査と同様の設定)。

④家具・家事 (0.671)

- ・家計調査年報における、全道の家具・家事関連消費額に占める家庭用耐久財の割合は 36%。同様に、室内装備装飾品は 7%、寝具類・家事雑費・家事用消耗品・家事サービスは 57%。
- ・道広域商圈調査の家庭電気製品の市内消費率は 0.710。同様に家具・インテリアは 0.523、日用雑貨は 0.664。
- ・以上から、家具・家事の市内消費率を両者の加重平均値 0.671
($=0.36*0.710+0.07*0.523+0.57*0.664$) とする。

⑤被服及び履物 (0.433)

- ・家計調査年報における、全道の被服及び履物関連消費額に占める和服の割合は 0.3%。同様に、洋服は 34%、シャツ・セーター類・下着類・生地糸類・他の被服は 43%、履物類が 15%、被服関連サービス (洗濯代が 84%) が 8%。
- ・道広域商圈調査の呉服・寝具の市内消費率は 0.421。同様に、高級衣料は 0.318、実用衣料は 0.577、靴・カバンは 0.486。
- ・クリーニング店は、市内に多く集積し周辺地域に競合事業所がほとんどないことから、市内消費率を 0.950 とする。
- ・以上から、被服及び履物の市内消費率をこれらの加重平均値 0.433
($=0.003*0.421+0.34*0.318+0.43*0.577+0.08*0.950$) とする。

⑥保健医療 (0.569)

- ・家計調査年報における、全道の保健医療関連消費額に占める医薬品・健康保険用接種品の割合は 33%。同様に、保健医療用品・器具 (眼鏡、コンタクトレンズが約 4 割) は 15%、保健医療サービス (医科・歯科診療代が約 7 割) は 52%。
- ・道広域商圈調査の医薬品・化粧品品の市内消費率は 0.298。同様に、時計・眼鏡・カメラは 0.304。
- ・保健医療サービスは、市内に医療施設の集積はあるものの、高次医療を中心に旭川・札幌等に流出しており、市内消費率を 0.850 とする (前回調査と同様の設定)。
- ・以上から、保健医療の市内消費率を、これらの加重平均値 0.569
($=0.33*0.298+0.15*0.304+0.5*0.850$) とする。

⑦交通・通信 (0.792)

- ・家計調査年報における、全道の交通・通信関連消費額に占める交通の割合は 12%、自動車等関係費は 57%、通信は 31%。
- ・交通は市内に JR、バス。タクシーとも事業所があることから市内消費率を 0.900 とする (前回調査と同様の設定)。
- ・自動車等関係費は、市内に事業所はあるが、家庭電気製品並みの市外流出があるとみて市内消費率を 0.710 とする (前回調査と同様の設定)。
- ・通信は、郵便・電話・運送事業所はあるが通信機器購入等の流出をみて 0.900 (前回調査と同様の設定) とする。
- ・以上から、交通・通信の市内消費率を、これらの加重平均値 0.792
($=0.12*0.900+0.57*0.710+0.31*0.900$) とする。

⑧教育 (0.737)

- ・家計調査年報における、全道の教育関連消費額に占める授業料等の割合は 73% (うち大学・専修学校が約 3 割)、教科書・学習参考教材は 3%、補習教育は 24%。
- ・授業料等は大学・専修学校分を市外流出とみて 0.700 (前回調査と同様の設定) とする。
- ・教科書・学習参考教材の市内消費率は、道広域商圈調査の書籍・文具の市内消費率 (0.718) を適用。
- ・補習教育等については、市内に学習塾等があるものの、通信教育等の流出をみて 0.850 とする。
- ・以上から、教育の市内消費率を、これらの加重平均値 0.737
($=0.73*0.700+0.03*0.718+0.24*0.850$) とする。

⑨教養娯楽 (0.587)

- ・家計調査年報における、全道の教養娯楽関連消費額に占める教養娯楽用耐久財の割合は 7%、

教養娯楽用品は 25%、書籍・他の印刷物は 15%、教養娯楽サービス（うち宿泊・旅行費が 6 割）は 53%。

- ・道広域商圈調査の家庭用電気製品の市内消費率は 0.710。同様に、楽器・CD・スポーツ用品は 0.869、書籍・文具は 0.718。
- ・宿泊・旅行費の市内消費率は、宿泊・旅行費分を市外流出分とみて 0.400 とする。
- ・以上から、教養娯楽の市内消費率を、これらの加重平均値 0.587
 $(=0.07*0.710+0.25*0.869+0.15*0.718+0.53*0.400)$ とする。

⑩その他消費支出 (0.297)

- ・家計調査年報における、全道のその他消費支出額に占める諸雑費の割合は 18%、こづかい（使途不明金）は 27%、交際費は 12%、仕送金は 43%。
- ・道広域商圈調査の医薬品・化粧品品の市内消費率は 0.298。
- ・こづかいと交際費については、全商品の 0.626 を適用する。
- ・同様に、仕送金については、0.000 とする。
- ・以上から、その他消費支出の市内消費率を、これらの加重平均値 0.298
 $(=0.18*0.298+0.27*0.626+0.12*0.626+0.43*0.000)$ とする。

③本市の市内消費率の設定

上記の市内消費率は、富良野市内居住者を対象としているが、富良野市内での消費は富良野市居住者にとどまらず、周辺町村居住者が富良野市に来訪して消費する分も含めて考える必要がある。

そこで、以下では、周辺町村居住者の富良野市内での消費行動が富良野市内消費率に与える影響について、最初に富良野市を従業地とする周辺町村別人口を調べ、次に周辺市町村別の富良野市内購買依存度を整理し、これを富良野市内居住者相当人数に換算して把握する。

図表 4-1-3 富良野市内で従業した市外に居住する就業者と対富良野市消費依存実質人口

項目 常駐市町村	①市内従業市外居住就業者数(=世帯数) (単位:人)	②同左世帯人員 注:世帯数×(1世帯あたり人員2.27人、全道・平成22年) (単位:人)	③富良野市買い物場所利用割合(=対富良野市消費依存度)	④対富良野市消費依存実質人口(②×③) (単位:人)
上富良野町	517	1,173	0.115	134
中富良野町	511	1,159	0.362	419
芦別市	166	376	0.000	0
旭川市	219	497	0.000	0
南富良野町	43	97	0.461	44
赤平市	24	54	0.000	0
美瑛町	27	61	0.002	0
札幌市	40	90	0.000	0
占冠村	9	20	0.426	8
滝川市	21	47	0.000	0
その他の市町村	74	167	0.000	0
他県	18	40	0.000	0
合計	1,669	3,781	-	605

資料：総務省統計局「平成 22 年 国勢調査報告」 第 3 表 従業地・通学地による常住市区町村、男女別 15 歳以上就業者数及び 15 歳以上通学者数(15 歳未満通学者を含む通学者一特掲)一 都道府県、市町村
 北海道経済部商工局「平成 21 年度北海道広域商圈動向調査」
 上表より、富良野市への消費依存実質人口は 605 人と推定される(前回調査 583 人)。

これは、平成 22 年国勢調査時の富良野市人口 24,259 人（前回 26,112 人）に対して 2.5%（前回 2.2%）に相当し、富良野市内消費支出額が 1.025 倍（前回 1.022 倍）となる。

①自市内購入率（ $r = 0.688$ ）= $I / (I + O)$ I :市内消費 O :市外消費

②周辺町村居住者の消費を含めた自市内購入比率（ R ）= $1.025 I / (1.025 I + O)$

①より、 $O = 0.454 * I$ となり、これを②に代入し

$R = 1.025 I / (1.025 I + 0.454 I) = \underline{0.693}$ （前回調査 0.830）を得る。これを富良野市の市内消費率として用いる。

（３）限界消費性向（ c ）の設定

限界消費性向とは、所得が 1 単位増えた場合、どの程度消費が増えるかを示す係数である。これは、英国の著名な経済学者であるジョン・メイナード・ケインズのケインズ型消費関数として知られるところである。

前回調査では国レベルでのケインズ型消費関数の推計結果を基に 0.860 を限界消費性向値として用いたが、富良野市の限界消費性向の実態に少しでも近づけるため、今回調査では総務省「家計調査（家計収支編）」における北海道の平均消費性向の値（0.757）を用いることとした。

（４）市内所得化率の設定

市内所得化率について、人件費に関する部分は第 3 章の富良野市観光経済効果に関する事業所基礎調査における人件費の富良野市内支払割合を使用する。

この他、事業所に関する「租税公課」「減価償却費」「営業利益」（第 3 章で「その他」に分類した費目）については、総務省の経済センサス（平成 24 年）において集計された、「本社支社従業者比率（単独事業所は本社に加える）」を用いる。

図表 4-1-4 富良野市内における民営事業所の本社支社従業者比率

項目	事業所数	従業者数	従業者数2. 注:単独を本社に読み替えた数	本社支社従業者比率
単独事業所	910	5,103	6,353	0.598
本所・本社・本店	55	1,250		
支所・支社・支店	278	4,274	4,274	0.402
合計	1,243	10,627	10,627	1.000

資料：「平成 24 年経済センサス - 基礎調査」

（５）乗数定数の数値設定

①観光関連産業の付加価値率の算出

付加価値率は、年間総売上高比（1.000）から、原材料費比、営業経費比を引いたものである（図表 3-2-5）。

$$\text{付加価値率} = 1.000 - 0.436 - 0.180 = \underline{0.384} \text{（前回 0.375）}$$

また、観光関連産業の付加価値額全体は、観光関連産業売上高×付加価値率であることから、

$$\text{観光関連産業の付加価値額} = 24,025,591 \text{ 千円} \times 0.384 = \underline{9,225,827} \text{ 千円（前回 11,291,3031 千円） となる。}$$

次に、富良野市内に生じる観光関連産業の付加価値額は、下記のとおり計算される。

$$\begin{aligned} & \text{観光関連産業の付加価値額} \\ = & \text{（付加価値額を構成する人件費、租税公課、減価償却費、営業利益の比率）} \\ & \times \text{（それらが地域内に生じた割合）} \\ & \times \text{（観光関連産業総売上高）} \end{aligned}$$

※人件費の比率は図表 3-2-8、人件費以外は図表 4-1-4 より適用。

図表 4-1-5 富良野市内に生じる観光関連産業付加価値産出経過

項目	市内に生じる分(単位:千円)				
① 市内に生じる観光関連産業の人件費	0.250	×	0.844	×	24,025,591 = 5,069,400
② 市内に生じる観光関連産業の租税公課	0.029	×	0.598	×	24,025,591 = 416,652
③ 市内に生じる観光関連産業の減価償却費	0.066	×	0.598	×	24,025,591 = 948,242
④ 市内に生じる観光関連産業の営業利益	0.080	×	0.598	×	24,025,591 = 1,149,384
⑤ 市内に生じる観光関連産業の付加価値額	7,583,678				

※租税公課、減価償却費、営業利益の地域内に生じた割合については、前回調査（他都市の調査例に基づき推定）と同じ数値を用いた。

下表で示すとおり、観光関連産業の付加価値額は、7,583,678 千円となる。

また、市内所得化率は、以下のとおり 0.822 となる。

$$\begin{aligned} & = \text{（市内に生じる観光関連産業の付加価値額）} \div \text{（観光関連産業の付加価値額全体）} \\ & = 7,583,678 \div 9,225,827 \\ & = \underline{0.822} \text{（前回 0.776）} \end{aligned}$$

②全産業の付加価値率、市内所得化率の算定

全産業の付加価値率は、付加価値額を構成する人件費、租税公課、減価償却費、営業利益の比率を、それらが市内に生じる割合により、下表に示すように再構成して算出した。その結果、市内所得化率（全産業）は、0.801（前回 0.744）となった。

図表 4-1-6 富良野市内の市内所得化率（全産業）算出経過

番号	項目	市内に生じる分			市内外に生じる分
①	人件費	0.269 ×	0.826 =	0.222	0.269
②	租税公課	0.027 ×	0.598 =	0.016	0.027
③	減価償却費	0.054 ×	0.598 =	0.032	0.054
④	営業利益	0.082 ×	0.598 =	0.049	0.049
⑤	上記合計			0.320	0.399
⑥	市内所得化率(全産業)	=0.320 ÷ 0.399=0.801			

③乗数定式変数の数値設定結果

これまでの各種調査及び算出の結果に基づき、富良野市観光経済効果計測における乗数定式の諸変数に関して、下表に総括する。

図表 4-1-7 富良野市観光経済効果計測における乗数定式変数の数値設定結果

記号		設定数値	前回の設定数値	設定根拠
Ks	観光関連産業売上高(単位:千円)	24,025,591	30,110,138	事業所調査
	観光関連産業市内所得(単位:千円)	7,583,678	8,762,380	事業所調査
	全産業付加価値率	0.406	0.405	事業所調査
a _k	観光関連産業付加価値率	0.385	0.375	事業所調査
i	全産業市内所得化率	0.801	0.744	事業所調査、既存データ
i _k	観光関連産業市内所得化率	0.822	0.776	既存データ
c	限界消費性向	0.757	0.860	既存データ
m	市内消費率	0.693	0.830	既存データに基づく推計
σ	全産業原材料費等比率 (原材料費比率+営業経費比率)	0.593	0.595	事業所調査
σ _k	観光関連産業原材料費等比率 (原材料費比率+営業経費比率)	0.616	0.625	事業所調査
j	全産業原材料等両市内自給率 (各経費比率による両市内自給率の加重平均値)	0.494	0.489	事業所調査
j _k	観光関連産業原材料等両市内自給率 (各経費比率による両市内自給率の加重平均値)	0.559	0.556	事業所調査

4-2 効果計測の結果

(1) 観光関連産業売上高が直接生じさせる所得波及効果の計測

観光関連産業売上高によって直接的に生じる所得波及効果について、乗数定式に必要な数値を代入して算出する。この計算結果を次表に示す。

図表 4-2-1 富良野市の観光関連産業売上高が直接生じさせる所得波及効果計測経過

番号	項目	計測計算式			消費(千円)	所得(千円)
①	富良野市内に生じる所得(付加価値額)					7,583,678
②	第1次消費分	7,583,678 ×	0.757 ×	0.693 =	3,978,405	
③	第1次所得分	3,978,405 ×	0.406 ×	0.801 =		1,293,801
④	第2次消費分	1,293,801 ×	0.757 ×	0.693 =	678,729	
⑤	第2次所得分	678,729 ×	0.406 ×	0.801 =		220,727
⑥	第3次消費分	220,727 ×	0.757 ×	0.693 =	115,794	
⑦	第3次所得分	115,794 ×	0.406 ×	0.801 =		37,657
⑧	第4次消費分	37,657 ×	0.757 ×	0.693 =	19,755	
⑨	第4次所得分	19,755 ×	0.406 ×	0.801 =		6,424
⑩	第5次消費分	6,424 ×	0.757 ×	0.693 =	3,370	
⑪	第5次所得分	3,370 ×	0.406 ×	0.801 =		1,096
⑫	第5次までの消費・所得				4,796,053	9,143,383
⑬	全段階の消費(観光客消費額は除く)				4,796,746	
⑭	全段階の所得					9,143,609

注) 全段階の「消費額」および「所得額」は、それぞれ等比級数の和 (S_n) の関数

$S_n = a(q^n - 1)/(q - 1)$ a :初項、 q :等比において $n \rightarrow \infty$ として求めた。

(2) 原材料購入等波及効果の計測

原材料購入等(営業経費支払いを含む)による波及効果の計算経過を下表に示す。

図表 4-2-2 富良野市の原材料購入等(営業経費支払を含む)波及効果計測経過

番号	項目	計測計算式			原材料購入等(千円)
①	富良野市内に生じる原材料等需要	24,025,591 ×	0.616 ×	0.559 =	8,273,068
②	第1次原材料購入等	8,273,068 ×	0.593 ×	0.494 =	2,423,529
③	第2次原材料購入等	2,423,529 ×	0.593 ×	0.494 =	709,953
④	第3次原材料購入等	709,953 ×	0.593 ×	0.494 =	207,975
⑤	第4次原材料購入等	207,975 ×	0.593 ×	0.494 =	60,925
⑥	第5次原材料購入等	60,925 ×	0.593 ×	0.494 =	17,847
⑬	第5次までの原材料購入等				11,693,297
⑭	全段階の原材料購入等				11,700,692

(3) 原材料購入等により生じる所得波及効果の計測

原材料購入等（営業経費支払を含む）により生じる所得波及効果の計測に関して、乗数定式に必要な数値を代入して算出する。この計算経過を下表に示す。

図表 4-2-3 富良野市の原材料購入等により生じる所得波及効果計測経過

番号	項目	計測計算式			消費(千円)	所得(千円)			
1	富良野市内原材料等需要による所得	8,273,068	×	0.406	×	0.801	=	2,690,451	
2	第1次消費分	2,690,451	×	0.757	×	0.693	=	1,411,413	
3	第1次所得分	1,411,413	×	0.406	×	0.801	=	459,000	
4	第2次消費分	459,000	×	0.757	×	0.693	=	240,792	
5	第2次所得分	240,792	×	0.406	×	0.801	=	78307	
6	第3次消費分	78,307	×	0.757	×	0.693	=	41,080	
7	第3次所得分	41,080	×	0.406	×	0.801	=	13,359	
8	第4次消費分	13,359	×	0.757	×	0.693	=	7,008	
9	第4次所得分	7,008	×	0.406	×	0.801	=	2,279	
10	第5次消費分	2,279	×	0.757	×	0.693	=	1,196	
11	第5次所得分	1,196	×	0.406	×	0.801	=	389	
12	第5次までの消費・所得							1,701,489	3,243,785
13	全段階の消費(観光客消費額は除く)							1,701,735	
14	全段階の所得								3,243,865
15	第1次原材料購入等による全段階の消費							498,509	
16	第1次原材料購入等による全段階の所得								950,264
17	第2次原材料購入等による全段階の消費							146,034	
18	第2次原材料購入等による全段階の所得								278,372
19	第3次原材料購入等による全段階の消費							42,779	
20	第3次原材料購入等による全段階の所得								81,547
21	第4次原材料購入等による全段階の消費							12,532	
22	第4次原材料購入等による全段階の所得								23,888
23	第5次原材料購入等による全段階の消費							3,671	
24	第5次原材料購入等による全段階の所得								6,998
25	全段階の原材料購入等による全段階の消費							2,405,261	
26	全段階の原材料購入等による全段階の所得								4,584,936

注) 全段階の「消費額(13)」及び「所得額(14)」は、それぞれ等比級数の和（ S_n ）の関数 $S_n = a(qn-1)/(q-1)$ a :初項、 q :等比において $n \rightarrow \infty$ として求めた。

全段階の原材料購入等による全段階の「消費額(25)」及び「所得額(26)」は、それぞれ同じ等比級数の和（ S_n ）の関数指揮を用いて算出した。

(4) 観光経済効果に対応する雇用効果の計測

観光の産業的な規模を把握する一つの指標として、観光経済効果に対応する就業者数を算出する。なお、この数は観光関連の仕事に実際に携わっている就業者数とは異なる。本調査の観光経済効果計測アプローチ、すなわち所得循環分析の特性を活用し、「就業者に配分される所得総額」を求め、それを「就業者一人あたり平均所得額」で除する手法で算出する。

観光によって生じる企業総所得から就業者に配分される個人所得総額（人件費総額）を算出する。まず、企業所得については、観光客消費から直接生じる企業所得、すなわち観光関連事業所に生じる「観光関連産業所得」と原材料購入等によって生じ

る企業所得、すなわち全産業事業所に波及する「原材料購入等産業所得」とを区別する。

富良野市内の「観光関連産業所得」の総額は、図表 4-2-1 における「(14)全段階の所得額 9,143,609 千円（前回 11,162,789 千円）」であり、富良野市内の「原材料購入等産業所得」の総額は図表 4-2-3 における「(26)全段階の原材料購入等による全段階の所得額 4,584,936 千円（前回 5,657,350 千円）」である。

次に、企業総所得は、企業総売上高から原材料費と営業経費を除いた「人件費」、「その他」の二つからなるが、就業者に配分される個人所得総額は「人件費」である。

すなわち、就業者に配分される個人所得総額は下記の通り算出される。

（就業者に配分される個人所得総額）

=（企業総所得）×（対企業総所得人件費比率（人件費／（人件費＋その他））

さらに、図表 3-2-5 より、

（観光関連事業所の対企業総所得人件費比率）

=（人件費）／（人件費＋その他）

=25.0％／（25.0％＋13.4％）

=0.651（前回 0.642）となる。

以上より、富良野市における観光経済効果に対応する就業者数は下表の通りまとめられる。

図表 4-2-4 富良野市の観光経済効果に対応する就業者数算出経過

番号	項目	観光関連産業	原材料購入等産業
①	観光による産業所得総額(千円)	9,143,609	4,584,936
②	対企業総所得人件費比率【図表3-2-5参照】	0.651	0.661
③	就業者に配分される個人所得額(①×②)(千円)	5,953,978	3,030,643
④	就業者に配分される個人所得総額【観光関連産業③＋原材料購入産業③】(千円)	8,984,621	
⑤	富良野市内配分人件費比率【図表3-2-10参照】	0.844	0.810
⑥	富良野市内常駐就業者に配分される個人所得額【③×⑤】(千円)	5,025,157	2,454,821
⑦	富良野市内就業者一人当たりの所得額(千円)	2,636	
⑧	富良野市の観光経済効果に対応する就業者数【③÷⑦】	2,259人(前回2,093人)	1,150人(前回1,138人)
⑨	富良野市の観光経済効果に対応する就業者総数【観光関連産業⑧＋原材料購入産業⑧】	3,409人(前回3,231人)	
⑩	富良野市の観光経済効果に対応する市内常駐就業者【⑥÷⑦】	1,906人(前回1,743人)	931人(前回930人)

（注）富良野市内就業者一人あたりの所得額は、総務省「平成 24 年度 市町村税課税状況等の調」より、2,636 千円とした（前回 3,190 千円）。

（５）観光経済波及効果計測結果まとめ

①観光関連産業総売上高および年間観光消費額

本市の「観光関連産業売上高」は、178 億円（前回 301 億円）と推計された。また、年間観光総消費額は、240 億円（前回 281 億円）と推計された。

観光関連産業売上高は、事業所アンケートに依っており、回答企業の売上高によって変動が大きくなっている。一方、年間観光総消費額は、前回から 15%程度減少しているが、冬季の観光入込の減少の影響が大きいと考えられる。

②観光関連産業の市内所得・消費とその波及効果額

4－1（１）で設定した観光関連産業総売上高（240 億円）が直接的に生み出す観光関連産業の市内での所得は 76 億円（前回 88 億円）と推計され、前回調査時と比べて減少した。これは、観光関連産業総売上高自体が減少している影響が大きい（観光関連事業所の売上に占める人件費の割合は増加している）。

この観光関連産業市内所得は直接的な波及効果として、市内において 48 億円（前回 80 億円）の消費と、観光関連産業の所得も含めて 91 億円（前回 112 億円）の所得を生み出すと推計された（図表 4-2-1）。また、後者は観光関連産業市内所得額に対して 1.20 倍（91 億円／76 億円、前回 1.27 倍）の乗数効果をもたらしていると算出される。

図表 4-2-5 観光関連産業の市内所得・消費とその波及効果額

	今回調査	前回調査
①観光関連産業の市内所得額【図表4-1-5】	76億円	88億円
②観光関連産業売上高が直接生じさせる所得波及効果 ：消費【図表4-2-1】	48億円	80億円
③原材料購入等（営業経費支払を含む）波及効果 ：所得【図表4-2-1】	91億円	112億円
③÷①	1.20	1.27

次に、市内で生じる観光関連産業に関する原材料購入等（営業経費支払を含む）と、それが波及し、もたらす原材料等波及効果の合計は、117 億円（前回 148 億円）と推計される（図表 4-2-2）。また、原材料購入等波及効果合計額は、市内観光関連産業に生じる原材料等需要額 83 億円（前回 105 億円）に対して、1.41 倍（117 億円／83 億円、前回 1.41 倍）の乗数効果をもたらしている。

図表 4-2-6 原材料購入等波及効果

	今回調査	前回調査
①原材料購入等波及効果【図表4-2-2】	117億円	148億円
②市内観光関連産業に生じる原材料等需要額【図表4-2-2】	83億円	105億円
②÷①	1.41	1.41

原材料購入等が生み出す全段階の所得 46 億円（図表 4-2-3、前回 56 億円）に、先の観光関連産業の所得 91 億円（図表 4-2-1、前回 112 億円）と、それが生み出す所得分を合わせた全段階の所得は、137 億円（前回 168 億円）と推計された。

③市内で生じる産業全体の総消費額

さらに、観光による市内で生じる産業全体の波及効果を含む総消費額（観光関連産業売上高と、原材料購入等及びそれらの所得増加による新たな消費の合計）は 429 億円（前回 569 億円）と推計された。これは、観光関連産業総売上高 240 億円（前回 301 億円）に対して、1.79 倍（前回 1.89 倍）の乗数効果をもたらすと算出される。

図表 4-2-7 富良野市内で生じる産業全体の総消費額

	今回調査	前回調査
①観光消費総額	240億円	301億円
②観光関連産業市内所得が生み出す消費	48億円	80億円
③原材料購入等によって生み出される市内全産業全段階の消費	24億円	40億円
④原材料購入等波及効果	117億円	148億円
⑤合計(①～④)	429億円	569億円
⑤÷①	1.79	1.89

④観光経済効果額に対応する就業者総数

計測された観光経済効果額に対応する観光のみに専従とみた場合の就業者総数は、3,409 人（前回 3,231 人）であり、このうち市内に常駐する就業者総数は 2,837 人（前回 2,673 人）である。いずれの就業者数も前回調査を上回ったが、主として、観光関連産業と原材料購入等産業とも、就業者一人あたりの所得額の減少や、市内配分人件費比率が増加したことを要因としている。

また、この就業者総数は、事業所従業者総数 11,888 人（平成 24 年度経済センサス、前回調査 12,567 人）に対して、28.7%（前回 25.6%）に相当し、常住就業者総

数 12,283 人（前回 13,720 人）に対して 23.1%（前回 19.5%）に相当する。観光のみに専従とみた場合の市内に常住する就業者総数が大幅に増加し、常住就業者総数の 2 割以上に達したことが特筆される。

図表 4-2-8 観光経済効果額に対応する就業者数

	今回調査	前回調査
①観光経済効果額に対応する就業者総数	3,408	3,213
②観光経済効果額に対応する市内常駐就業者総数	2,837	2,673
③事業所従業者総数	11,888	12,567
④常駐就業者総数	12,283	13,720
⑤①÷③	28.7%	25.6%
⑥②÷③	23.9%	21.3%
⑦①÷④	27.7%	23.4%
⑧②÷④	23.1%	19.5%

⑤本市観光経済波及効果の北海道における位置

図表 4-2-9 富良野市観光経済効果に関する北海道における位置

	富良野市	北海道	富良野市が 北海道に 占める比率	同左、前回 調査時
総人口(人)	24,259	5,506,419	0.44%	0.45%
事業所従業者(人)	12,283	2,509,464	0.49%	0.46%
小売業年間商品販売額(百万円)	42,039	16,113,071	0.26%	0.27%
観光客入込数、延べ数(人)	1,826	127,516	1.43%	1.49%
宿泊客入込数、延べ数(人)	438	22,839	1.92%	1.90%
観光関連産業総売上高(億円)	240	12,992	1.85%	2.33%
市内で生じる総売上高(億円)	429	18,237	2.35%	2.88%
乗数効果(倍)	1.79	1.40	—	—
観光経済効果に相当する就業者(人)	3,409	160,000	2.13%	2.03%
観光経済効果に相当する市内常駐就業者(人)	2,837	160,000	1.77%	1.68%

5 富良野観光経済振興の課題と方向

5-1 観光客消費の振興

(1) 観光地としてのあり方について

- ・富良野の観光地としての魅力は、「素晴らしい」「満足した」の合計が7割近くに達するなど、観光客から高い評価を得ている。特に雄大な自然、食事に魅力を感じ、リピーターも多くみられる。
- ・農村景観やのんびりした雰囲気に癒されたとする回答や、再訪の際にも花や農村景観を観賞したいとする回答も多く、恵まれた環境を維持しつつ観光地としての持続可能な発展を検討していく必要がある。
- ・観光客が評価しているのは景色や食だけでなく、インフォメーションセンタースタッフの対応や、現地の人との交流で心が温まったとする回答もみられる。サービス面においても一定の評価を得ている。
- ・インフォメーションセンターの対応に観光客からは評価を得る一方、地域の飲食店事業者からは、ガイドマップが分かりづらく道を聞かれても説明しにくいといった指摘もみられた。ワンストップ窓口としての役割を強化しつつ、地域住民とも連携しながら観光客を迎え入れていくための体制づくりが求められる。
- ・課題としては、バス路線の充実（ふらのくる号の路線、便数拡充）、路面状況（凸凹が多い）、バリアフリー対応（バスのステップの段差、駅構内のエスカレーター、エレベーターの整備）、インターネット対応（WiFi 設備の充実）、外国人向け標識の充実といった点が挙げられている。
- ・宿泊施設に対しては、食事への評価等、概ね好評価であった。宿泊施設と市街地が離れていることもあり、宿泊施設としても施設内のみならず、地域全体のコンシェルジュ機能の充実等、トータルサービスのさらなる品質向上が求められる。

(2) 観光客入込数について

- ・近年の観光客入込数は減少傾向にある。夏季は増加に転じているが、冬季の入込数減少は深刻であり、平成7年の約3分の1にまで減少している。
- ・北海道は日本を代表する観光地の一つであるが、海外のリゾート地のような「通年型観光地」を実現している地域はみられない。事業所アンケートにおいても「通年型観光地を目指すべき」とする指摘もあり、冬季の観光客入込拡大に向けた検討が重要である。
- ・冬季の入込数減少の背景としても最も大きなことは、スキー離れであると考えられる。スキー以外の魅力創出も重要であるが、やはりスキー客をいかにして呼び戻していくか、増やしていくかが重要な課題である。

- ・近年において注目されるのは、外国人スキーヤーの増加である。ニセコ地域においては、従来の豪州のみならず、東アジア諸国の富裕層でもスキー目的の来訪が増えてきている。この他、絶対数ではまだ少ないものの、北米や欧州においてもスキーやスノーボードの専門誌等で北海道のスキー場が取り上げられる例が増え、知名度も注目度も高まっている（北米や欧州のスキーリゾート地が温暖化の影響で雪不足に悩まされているという背景がある）。よって、外国人スキーヤーの誘致も重要となると考えられる。
- ・北海道新幹線函館開業は、北海道観光への影響は一見限定的と考えられがちであるが、実際には新函館（仮称）から降り立った観光客が全道各地に向けて周遊するというアンケート結果もあり、富良野にとっても大きなチャンスである。
- ・加えて、2020年の東京オリンピック、パラリンピックに向けてインバウンドの取組強化も進められており、富良野もバリアフリーの整備や案内表示の充実等、インバウンド観光客拡大への取組も重要である。
- ・観光地としてのリスクマネジメントは、災害時対応、安定した入込の実現等、多岐に亘る。災害時対応としては、東日本大震災後、観光中に被災した観光客をいかに誘導するか（特に外国人）が議論される機会が多くなり、災害対応マニュアル作成にあたる地域が増えてきている。本市においても、特に冬場の災害時誘導、外国人対応等といった課題への対応を検討していく必要がある。安定した入込の実現について、国際的な観光地は世界各地から入込があり、一カ国で政変、災害、政治経済対立が起きたとしても入込客数への影響を最小限に抑えられるようになっていく。現行の台湾やシンガポールにとどまらず、多くの国や地域から観光客を受け入れていくことは観光地としてのリスクマネジメントの一環として重要である。

（３）来道観光客層について

- ・来訪観光客は、女性がやや多く、世代は20～40歳代が中心となっている。
- ・旅行形態では家族旅行が多く、世代を問わず楽しめる地域としての認識を得ているものと考えられる。
- ・国内客の旅行形態は多様化しており、今後は外国人観光客のFIT化も進むと考えられ、対応が必要である。

（４）観光マーケティングについて

- ・今回調査の道外客は従来通り関東圏が中心であり、首都圏でのPRの継続が必要であると考えられる。
- ・近年の旅行業界での大きな動きとしてLCCの就航が挙げられる。これにより、関西圏からの初めて来道する若い世代の観光客も増えており、レンタカーで道内を周遊するような動きがみられる。こうした新規の観光客を呼び込む上で、地理的に

道内の中心にある富良野は特に成果が期待できると考えられる。

- ・道内容については、アンケート調査ではリピーターが多く割合を占め、何度も訪問する観光地として定着している感がある。北海道は人口減少・少子高齢化が速いスピードで進行しており、自動車やレンタカーによる観光だけでなく、公共交通機関の整備も同時に検討していく必要がある。
- ・②で示したとおり、北海道新幹線開業や東京オリンピックに向けた道外客、海外客へのPRも重要である。

(5) 顧客ニーズへの対応について

- ・観光目的は、自然観賞、食、スポーツが多く挙げられている。再訪の際にしてみたいこととしては、「花や農村景観の観賞」「自然観賞（サイクリング・トレッキング・登山等）」「スポーツ（スキー、ゴルフ場）」の回答割合が高くなっている。
- ・特に近年サイクリングは注目されており、北海道の広大で渋滞の少ない道路が注目を集め、トライアスロンの国際大会、マラソン大会、自転車ロードレース等のイベントも増えてきており、富良野に限らず広域でこうしたスポーツの展開を進めていくことも一案である。道路整備も含めた対応が求められる。
- ・平成22年にオープンしたフラノマルシェが訪問観光地の第1位となり、物販の拠点ができたと評価を得ている。
- ・インフォメーションセンターのサービスについては概ね高評価を得ているが、外国人観光客からは外国語の標識が少ない、インターネット対応エリアが限定的といった指摘もあり、今後改善に向けた取り組みを進めていく必要がある。

(6) 観光客消費単価について

- ・観光客の消費単価は前回調査とそれほど大きな差異はなかったが、消費単価の高い冬場の入込数減少が富良野観光に大きな影を落としている。
- ・今後富良野への入込が増えてくると考えられるLCC利用客について、消費単価も低い階層と見る向きもあるが、北海道観光振興機構の「LCC等利用者に対するマーケティング調査」によると、従来のレガシーキャリア（JAL、ANA）と大差なく観光消費を行っている（航空機代だけ安いものを選択する）という報告もあり、LCC利用客へのアプローチも重要である。
- ・冬季の市内宿泊費が前回、前々回調査と比較して大きく減少している。入込数が減少するなかでディスカウントが発生しているものと考えられるが、持続的に観光客を受け入れていくために、短期的な視点のみならず中長期的な視点で宿泊費の設定やサービス向上、機能充実等に努めていく必要がある。品質保証制度を導入し、宿泊施設のブランド価値を維持向上させていくことも一案である。

(7) 富良野への移住・一時居住の意識について

- ・移住については回答率が1割未満であったが、「一時期だけ住んでみたい」という回答率は道外客（約6割）のみならず道内客（5割弱）においても顕著であり、何度も訪問したくなり、一時的に住むことができるなら住んでみたいと考えている階層が存在している。
- ・これは、長期滞在希望のニーズが高いことを示唆している。住宅を購入するような話はハードルが高いが、長期滞在者へのサービスの充実等により、対応していく必要がある。

5-2 観光関連産業振興

(1) 地域観光ビジネスについて

- ・事業所アンケート調査では「観光入込の通年化」、「商品・サービスを改善し付加価値を高める」といった回答が観光振興につながるとの意見が多く挙げられた。
- ・この他、観光関連業以外の一般事業所からは「労働力確保や従業員教育を改善する」「企業間での観光ビジネス情報交換を活性化する」一方、観光関連事業者からは、「観光客市内消費先の多様化を図る」「観光行政の指導性を高める」「市内企業間の取引を増やす」とする回答が多く得られた。
- ・既述のとおり、「観光入込の通年化」は重要な課題であり、一般的な誘客活動に加え、「夏季の観光客に冬場の魅力を伝える」「冬季の観光客に夏場の魅力を伝える」といったことも重要となってくる。

(2) 提供商品・サービスについて

- ・夏季については、フラノマルシェのような物産の拠点も完成し、大きな課題をひとつ解決したと考えられるが、冬季の食の魅力やスキー以外のレジャー（体験観光等）については拡大の余地がある。
- ・事業所アンケートからは観光に係る官民連携が薄くなってきているとの指摘があり、異業種連携も含め、観光地としての持続的な発展に向けた議論の場が求められている。
- ・サービスについて、観光客から概ね高評価を受けているが、リピーターが多い地域特性もあり、リピートの流れを断ち切らないためにも、常に品質向上を目指していく必要がある。

(3) 観光関連企業における経営について

- ・観光客アンケートからは、「お店の営業時間が短い」「お店自体が少ない」といった声が寄せられている。事業所アンケートにおいても「スキーリゾート地なのにスキーショップが1軒もないことに驚く」といった回答があった。

- ・市内商店、スーパー、飲食店の閉店時間が早いという声もあり、観光客が観光地のみならず広く市内の商業施設を利用できるよう、交通網の整備等を検討していく必要がある。
- ・事業所アンケートの回答企業の規模が前回調査と異なり小規模事業者が中心となっているため単純な比較は困難であるが、観光関連事業所の平均総売上高、観光関連事業者売上高がともに前回から大きく落ち込んでいる点は気になるところである。大規模事業者の実態も把握した上で検討していく必要がある。
- ・農業と観光を基幹産業とする本市において、農商連携は欠かせないものであり、議論の場が少ないことを問題視する声も寄せられている。地産地消の観点から、地域が一体となった旬の食の提供をいかに持続的発展に導いていくかを検討する必要がある。
- ・雇用について、季節労働者のなかにも定住を望んでいる人材もいると考えられる。地域出身者、地域外からの移住者も含め、若者の定住を促せるような雇用機会の創出が求められる。

（４）営業・企画部門について

- ・原材料費、営業経費、人件費の支払先が富良野市内は減少し、富良野圏域では増加しており、富良野市内の事業所を取り巻く環境が変化しつつある。
- ・需要側からみても、市内消費率は前回調査の 0.827 から 0.688 へと減少している。
- ・域内循環を高めていくことは、経済波及効果を高めていく上で重要な取り組みの一つであるが、外的経済環境にも左右される側面もあり、事業者同士の連携の可能性を模索するような議論の場が必要である。
- ・観光まちづくりという言葉が近年よく聞かれるが、文字通り観光とまちづくりの相互連携を通じて観光地としての持続的発展を目指すものである。これを牽引するような中核的な人材の育成が求められる。

5-3 市内経済波及振興

（１）観光経済効果について

- ・観光関連産業総売上高（240 億円）は前回調査（301 億円）から減少しており、観光入込の減少が表れている。
- ・観光経済効果に対応する就業者数は常駐就業者数の 2 割以上に達しており、富良野市における観光産業の比重はむしろ高まっているとみることができる。
- ・観光経済効果は、観光に直接的に関わる事業者のみに限定されるものではなく、取引関係のある産業への波及、雇用者所得の増加に伴う消費増からの波及といったように、さまざまな形で波及していくものであるという意識を地域で共有する必要がある。

(2) マクロ的観光経済振興について

- ・上述のとおり、観光客入込（特に冬季）を増やし、長期滞在も含めた宿泊者を増やしていくための取組がまず必要である。特に一時的な移住希望者が多いことから、長期滞在者向けの宿泊施設の整備や滞在中の過ごし方の提案等も検討する必要がある。
- ・入込客を増やしていくためには、リピーターを飽きさせない観光メニューの提供、バス路線の充実等交通網の整備、外国語案内表示の整備、インターネット環境整備、高齢化社会に対応したバリアフリー整備、自動車運転者やサイクリング愛好家のニーズに対応した道路整備などが必要となる。
- ・経済波及効果を高めていくためには市内における域内循環を高めていく取り組みが最も重要である。一方で、近年の観光が広域化していることを踏まえれば、富良野市だけのことを考えるのではなく、近隣の市町村とも連携した広域での観光経済効果増加のための取り組みの方向性を検討することも重要である。
- ・観光地としての持続的発展のためには、災害への対応や、安定した入込を実現していくためのリスクマネジメントが不可欠である。特に冬場の入込がある本市のような地域で災害が発生した場合、災害は免れても避難で失敗して命を落とすような事態にもなりかねないため、他降雪地域の対応等も踏まえ、本市としての対応を検討していく必要がある。安定した入込の実現についても、特定国・地域に偏りすぎることなく、仮に当該国・地域からの入込が途絶えても本市が直ちに危機的な状況に陥ることのないよう、プロモーション戦略上でも対策を講じておく必要がある。
- ・本市が観光振興を推進する上で、地域住民における地域コンセプト（本市はどういった観光地を目指していくのか）を共有していくとともに、上述のとおり、持続可能な観光地としての発展を推進し、様々な形で波及していく経済効果を享受していくという意識を共有できるよう、理解を促進していく必要がある。

5-4 富良野観光経済振興の方向性

本市における基幹産業の一つである観光産業が本市産業における位置づけは高まっており、今後の観光産業の発展を維持していくための方向性として、下記4点を示す。

(1) 観光消費振興における方向

- ・ 冬季における観光客入込を拡大するとともに、通年型の観光地を目指す。
- ・ リピーターからの支持を得ているため、今後もリピーターを飽きさせない観光メニューの開発に取り組む。
- ・ 観光形態が広域化しているため、本市のみならず、周辺町村も含めた観光消費振興の方向性を検討する。

(2) 観光産業振興における方向

- ・ 観光産業は関連産業のみならず、異業種にも波及することから、観光産業の重要性を周知するとともに、観光客の満足度を高めていけるよう、施設整備、商品。サービスの改善等を目指す。
- ・ 北海道新幹線開業、東京オリンピック・パラリンピックの開催が今後予定されており、富良野市にとっても好機であることから、バス路線の充実等交通網の整備、外国語案内表示の整備、インターネット環境整備、高齢化社会に対応したバリアフリー整備、自動車運転者やサイクリング愛好家のニーズに対応した道路整備等を通じて観光客の満足度を高めていく。

(3) 経済波及効果振興における方向

- ・ 観光経済に、より多くの市内就業が参画できるよう、市内事業者同士の議論の場を構築し、市内観光産業の発展に向けて取り組んでいく。

(4) 長期滞在・定住振興における方向

- ・ 長期滞在希望者が道外に加え、道内都市圏にも多いことから、具体的なニーズを取り込み、対応していく。

○観光客アンケート調査票

地区名:	調査日(平成25・26年 月 日)
------	-------------------

富良野市内観光消費実態観光客アンケート調査

問1 あなたのお住まい、性別、年齢、旅行形態、富良野市内観光の回数、市外利用交通機関をお尋ねします。

住 ま い	1.北海道内（市町村）		2.北海道外（都府県）		3.海外（ ）		
性 別	1.男性 2.女性						
年 齢	1.20歳未満	2.20歳代	3.30歳代	4.40歳代	5.50歳代	6.60歳代	7.70歳以上
旅行形態	1.一人旅 2.夫婦 3.家族旅行（子供が→ a.未就学 b.小学生 c.中学生 d.18歳以上）						
	4.カップル 5.友人・知人 6.グループ 7.団体旅行						
富良野市内観光の回数		1.はじめて 2.2回目 3.3回目 4.4回目以上					
市外利用交通機関 （複数回答）		1.飛行機 2.フェリー 3.鉄道 4.路線バス 5.観光バス					
		6.乗用車（レンタカーを含む） 7.タクシー 8.その他					
北海道内での到着・出発の空港		到着（ 空港）		出発（ 空港）			

問2 今回のご旅行の主たる目的は何ですか。次の中から1つお選びください。

1.自然観賞	2.都市見物	3.食・グルメ	4.買い物	5.地域の祭り・イベント	6.大会参加
7.スポーツ(アウトドア)	8.湯治	9.宿泊目的	10.職場親睦	11.修学旅行	12.新婚旅行
13.出会いの場	14.帰省	15.仕事のみ	16.記念旅行	17.その他()	

問3 あなたは富良野の観光について、どこから主に情報を得ましたか。次の中から1つお選びください。

1.テレビ番組	2.旅行ガイドブック	3.雑誌や広告	4.家族や友人	5.パンフレット
6.旅行代理店	7.インターネット	8.その他()		

問4 今回の旅行では、富良野市内のどの観光地に訪れましたか(及び訪れる予定ですか)。次にあげた観光地で当てはまるもの全てに○印を付けてください。(複数回答)

1.インフォメーションセンター(観光協会)及びJR富良野駅	2.中心商店街地区(へそ祭り会場を含む)	3.中心公園		
4.フラノマルシェ	5.富良野演劇工場	6.朝日ヶ丘公園	7.ニンゲルテラス	8.風のガーデン
9.自然塾	10.富良野林・場・オブ・クエ(北の峰)	11.ワイン工場・ワインハウス・ぶどう果汁工場		
12.六花亭	13.チーズ工房	14.ハイランドふらの	15.山部太陽の里	16.鳥沼公園
17.八幡丘分館・富良野ゴルフコース周辺	18.麓郷の森・五郎の石の家・拾ってきた家・ジャム園			
19.原始ヶ原入口(ニンゲルの森)	20.その他()			

問5 バック旅行及び団体旅行の方に、今回支払った(及び支払う予定の)料金等をお尋ねします。

注:バック・団体旅行とは、交通費、宿泊費、食事代等の費用の大部分を一括して旅行会社等に支払う旅行です。

●あなた一人のバック・団体旅行料金はいくらですか。	(円)
●バック・団体旅行の全行程を教えてください。	1.日帰り 2.宿泊(泊 日)
●富良野市内で宿泊しました(する予定です)か。	1.はい(泊) 2.いいえ
●料金の富良野市内での昼食代は含まれていますか。	1.はい 2.いいえ

問6 バック旅行及び団体旅行以外の方にお尋ねします。

●富良野市内で支払った(及び支払う予定の)あなた一人分の宿泊費についてお尋ねします。

1.富良野市内に宿泊(円(一人あたり))	2.富良野市外で宿泊	3.日帰り
-----------------------	------------	-------

●富良野市内で支払った(及び支払う予定の)あなた一人分の交通費についてお答えください。

1.鉄道運賃(円)	2.バス運賃(円)	3.レンタカー賃借料(円)
4.自動車燃料代(円)	5.駐車料金(円)	6.タクシー・ハイヤー(円)

問7 あなたは富良野市内で、どのような品物をいくら購入しました（及び予定です）か。また、購入商品の中に富良野市内の特産品がある場合はその種別も選択して○を付けてください。（複数回答）

品目分類	購入金額	購入した富良野市内特産品の種別
1.農産物・農産加工品 (穀類、果物・野菜・山菜類、乳製品、肉類、肉製品、菓子類、弁当、パン、麺類等)	円	1.ワイン 2.バター・チーズ 3.アイスクリーム 4.ジャム 5.缶詰・びん詰 6.ハム・ベーコン 7.肉類 8.野菜・果物 9.めん類 10.パン 11.お菓子類・スイーツ 12.栽培セット・苗
2.飲み物（ジュース類、炭酸飲料、牛乳、酒類、スープ類、天然水 等）	円	1.牛乳 2.ジュース 3.野菜飲料・健康飲料 4.スープ 5.酒・焼酎 6.その他（ ）
3.繊維・木製品（織物、衣類、身の回り品、木製の小物、飾り物、置物 等）	円	1.木製健康器具 2.おひつ・湯桶 3.キーホルダー 4.ハンカチ・コースター 5.その他（ ）
4.紙・プラスチック製品（絵はがき、書籍・新聞、フィルム・ビデオテープ等）	円	1.絵はがき 2.ポスター 3.写真集 4.地元新聞 5.地元書籍 6.その他（ ）
5.嗜好品・医薬品（香料、石けん、化粧品、医薬品、たばこ 等）	円	1.ドライワッシャー 2.オイル・香水 3.線香・ろうそく 4.枕・安眠シート 5.入浴剤・石けん 6.その他（ ）
6.その他の品物（水産物、水産加工品、ガラス製品、陶磁器、電機製品 等）	円	1.カップ・茶碗 2.その他（ ）

問8 あなたは富良野市内で、どのような飲食・サービスに、それぞれいくらくらい支払いました（及び予定です）か。なお、先にお答えのバック・団体料金や宿泊費に含まれるものは記入しないでください。

1.食事代・飲食費（ ）円	2.施設利用料（ ）円	3.入湯料（ ）円
4.通信費(宅配・運送・郵送・電話)（ ）円	5.医療費（ ）円	6.その他（ ）円

問9 あなたは、富良野に住んでみたいと思いますか。

1.移住したい	2.一時期だけ住んでみたい（1.春 2.夏 3.秋 4.冬）	3.住んでみたいと思わない
---------	--------------------------------	---------------

問10 あなたは、また来たいと思いますか。また来たいと思う方は、次回はいつ頃来たいと思いますか。

1.また来たいと思う（a.1年以内に b.3年以内に c.それ以上）	2.また来たいと思わない
------------------------------------	--------------

問10-2 「1.また来たいと思う」と回答した方にお聞きします。次回来る時は何をしたいですか。（全てに○）

1.花や農村景観の鑑賞	2.自然観賞(サイクリング・トレッキング・登山等)	3.テレビドラマロケ地巡り
4.アウトドア・インドア体験	5.スポーツ(スキー・ゴルフ等)	6.富良野を拠点とした広域の滞在観光
7.芸術文化鑑賞(富良野演劇工場等)	8.市民との交流(農家・観光ガイド等)	9.地元料理の満喫
10.地域イベント参加	11.その他（ ）	

問10-3 「2.また来たいと思わない」と回答した方にお聞きします。その理由を教えてください。

--

問11 あなたは、富良野市内を観光してどのような印象を受けましたか。

1.すばらしい	2.満足した	3.まあまあ	4.つまらない	5.わからない
---------	--------	--------	---------	---------

問11-2 満足した内容を教えてください。

--

問11-3 悪い印象を受けたところは何ですか。一つ選んで下さい。

1.食べ物	2.観光サービス	3.観光施設	4.駐車場	5.自然環境	6.その他（ ）
-------	----------	--------	-------	--------	----------

問12 親しい友人等に富良野を紹介したいと思いますか。

1.思う	2.やや思う	3.どちらとも言えない	4.あまり思わない	5.思わない
------	--------	-------------	-----------	--------

○事業所アンケート調査票

富良野市観光経済効果に関する事業所基礎調査

－アンケートのご回答について－

- ・ご記入頂いた内容は全て統計的に処理いたします。（会社名等、個別情報は集計に一切反映されません。）また、観光経済効果計測のみに使用し、他の目的に使うことは一切ありません。（集計後、調査票はシュレッダーにより廃棄処分いたします。）
- ・ご多忙のところ恐縮ですが、ご記入が終わりましたら返信封筒に入れ、**11月22日（金）**までに、ご投函ください。
- ・ご回答の期日までにご返信がない場合やご記入に欠落がある場合には、お電話などでお尋ねする場合がございます。
- ・不明な点がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

〒北海道二十一世紀総合研究所（担当：小山、佐治（さじ））

〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目 北洋ビル6階

TEL. 011-231-3053 Fax. 011-231-3143

★最初に、貴事業所についてご記入ください。

事業所名	
代表者名	
住所	
電話番号	
ご記入者	部署名： 役職： 氏名：
業種	1.運輸・通信業 2.小売業 3.飲食店 4.物品賃貸業 5.旅館・ホテル・民宿等
※○は1つ	6.娯楽業 7.駐車場業 8.その他の業種（ ）

問1 富良野市内での観光客の入込み増加は、貴事業所の“業績”にどのような関係がありますか。

- 1.非常に業績を増加させる 2.やや業績を増加させる 3.特に影響ない 4.わからない
5.その他（ ）

※以下の質問は、貴事業所の直近の決算期のご経営内容からお答えお願い致します。

問2 貴事業所の従業員数について教えてください。次の記入欄に数字をご記入ください。

常用従業員数（経営者を除く）	人
臨時雇用者数（パートを含む）	人
実労働人工総計	人日

問3 貴事業所の年間総売上高について、おおよその額を教えてください。

約	百万円
---	-----

問4 年間総売上高のうち、観光客からの売上、及び観光関連業者からの売上の割合を教えてください。

※観光関連業者とは、観光客が利用する店舗や事業用施設を有する事業所を指します。

観光客からの売上の割合	約	%
観光関連業者からの売上の割合	約	%

アンケート票を開いて
問5にお進みください。

問5 年間総売上高に占める各経費のおおよその割合を教えてください。以下の表に数値をご記入下さい。

①原材料費 (商品及び材料仕入費、運輸業での燃料費・車両整備費等も含む)	%
②人件費 (臨時雇用者傭料を含む)	%
③営業経費 (水道光熱費、支払賃料、広告宣伝費、出張旅費、消耗品費など)	%
④その他 (租税公課、減価償却費、営業利益等)	%
合 計 (年間総売上高)	100%

問6 原材料費、営業経費について支払い先の地域別内訳、人件費支払いについては従業員の居住地別の内訳に関するおおよその割合を教えてください。下の表に数値をご記入ください。

	原材料費	営業経費	人件費
①富良野市内	%	%	%
②富良野圏域 (美瑛町、上富良野町、中富良野町、 南富良野町、古冠村)	%	%	%
③その他道内 (富良野市内、富良野圏域を除く道 内全域)	%	%	%
④北海道外 (本州、四国、九州、海外)	%	%	%
合 計	100%	100%	100%

問7 富良野市の観光経済効果をより大きなものにするには、どのような取組みが有効と日頃お考えですか。次ぎの中から“3つ”選び○印を付けてください。

1.企業間での観光ビジネス情報交換を活性化する。	2.市内企業間の取引を増やす。
3.観光入込み客数を増やす。	4.観光入込みの通年化を図る。
5.宿泊客を増やす。	6.観光施設・設備を充実する。
7.商品・サービスを改善し付加価値を高める。	8.観光客市内消費先の多様化を図る。
9.労働力確保や従業員教育を改善する。	10.観光行政の指導性を高める
11.その他 ()	

問 8 最後になりますが、富良野市の観光振興に関するご意見などがありましたら、自由にご回答ください。

調査にご協力いただき、大変ありがとうございました。